

シラバス

= Syllabus =

2026年度



学校法人筑波学園

アール医療専門職大学

R Professional University of Rehabilitation

リハビリテーション学部

作業療法学科

目次

教育課程の概要 1

1年次履修科目 3

≪基礎科目≫

大学入門セミナー

社会人基礎力

教育学

ジェンダー論

マナー接遇

社会学

文化人類学

生命倫理学

発生生物学

データサイエンス論

法情報リテラシー

災害支援論 I

スポーツ理論・実技 I

スポーツ理論・実技 II

健康と食の科学

健康教育学

健康科学

英語コミュニケーション I

英語コミュニケーション II

≪職業専門科目≫

人体構造学 I

人体構造学 II

生理学 I

生理学 II

人体構造学実習

生理学実習

リハビリテーション概論

保健医療福祉論

作業療法概論

作業療法基礎セミナー I

作業療法基礎セミナー II

早期体験実習 I

通所・訪問リハビリテーション実習

〈展開科目〉

地域創生論

世代間交流論

2年次履修科目 37

〈基礎科目〉

災害支援論 II

人間関係論

アクセシビリティリーダー論

中国語

韓国語

〈職業専門科目〉

運動学 I

運動学 II

運動生理学

人間発達学

運動学実習

神経解剖学

病理学

内科学

整形外科

神経内科学

精神医学

小児科学

リハビリテーション医学

スポーツ障害学

老年医学

薬理学

救急救命学

画像診断学

公衆衛生学

早期体験実習 II

作業療法評価学 I

作業療法評価学 II

作業療法評価学実習 I
作業療法評価学実習 II
健康マネジメント論
日常生活活動学
日常生活活動学実習
生活環境学
生活環境学実習
臨床実習 I

《展開科目》

リーダーシップマネジメント論

3年次履修科目 73

《基礎科目》

運動障害・健康障害と心理

《職業専門科目》

リハビリテーション栄養学

予防医学

地域包括ケアシステム論

医療関係法規論

作業療法管理学

活動分析学

身体障害作業治療学

身体障害作業治療学実習

精神障害作業治療学

精神障害作業治療学実習

発達障害作業治療学

発達障害作業治療学実習

老年期障害作業治療学

老年期障害作業治療学実習

高次脳機能障害作業治療学

高次脳機能障害作業治療学実習

義肢装具学

義肢装具学実習

運動障害・健康障害の自立活動論・指導法

リハビリテーション工学

職業リハビリテーション学

カウンセリング論
サクセスフルエイジング論
地域作業療法学
バリアフリー論
地域作業療法学実習Ⅰ
地域作業療法学実習Ⅱ
臨床実習Ⅱ

〈展開科目〉

体力測定実習
高齢者健康づくり政策論
学校運営論
ヘルスケアマーケティング論

〈総合科目〉

作業療法研究法演習Ⅰ

4年次履修科目 107

〈職業専門科目〉

子ども支援学
臨床実習Ⅲ
臨床実習Ⅳ

〈展開科目〉

経営組織論
生活・福祉基盤論
教育相談
経営のための法律
財務会計論

〈総合科目〉

作業療法研究法演習Ⅱ
応用作業療法学演習

【教育課程の概要】

「必・選」欄:◎-必修, ○-選択必修, 空欄-選択, ◆-自由(卒業要件外)

区分	卒業要件	科目名	単位	必・選	形態	学年学期配当・週時間								免許・資格関連		備考		
						1年		2年		3年		4年		作業療法士 受験資格				
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
基礎科目	20単位以上	初年度セミナー	1	◎	講義	1									◎			
		人間と生活及び社会の理解	1	◎	講義	1										◎		
		社会人基礎力	1	◎	講義	1										◎		
		教育学	1	◎	講義	1	1									◎		
		ジェンダー論	1		講義	1										◎		
		マナー接遇	1		講義	1										◎		
		社会学	1	◎	講義	1										◎		
		文化人類学	1		講義	1	1									◎		
		生命倫理学	1	◎	講義	1										◎		
		発生生物学	1	◎	講義	1	1									◎		
		データサイエンス論	1	◎	講義	1										◎		選択科目より2単位
		法情報リテラシー	1		講義	1										◎		
		災害支援論Ⅰ	1	◎	講義	1										◎		
		災害支援論Ⅱ	1		講義		1									◎		
	人間関係論	1	◎	講義		1									◎			
	アクセシビリティリーダー論	1		講義			1											
	運動障害・健康障害と心理	1		講義				1										
	健康への追求	1	◎	実習	1										◎			
	スポーツ理論・実技Ⅱ	1	◎	実習	1	1									◎			
	健康と食の科学	1	◎	講義	1	1									◎			
健康教育学	1		講義	1	1									◎				
健康科学	1		講義	1	1									◎				
国際言語の理解	1	◎	演習	1										◎				
英語コミュニケーションⅡ	1		演習	1	1									◎				
中国語	1		講義		1									◎				
韓国語	1		講義		1									◎				
職業専門科目	90単位以上	基礎医学	1	◎	講義	1									◎			
		人体構造学Ⅱ	1	◎	講義	1	1								◎			
		生理学Ⅰ	1	◎	講義	1									◎			
		生理学Ⅱ	1	◎	講義	1	1								◎			
		人体構造学実習	2	◎	実習	2										◎		
		生理学実習	1	◎	実習	1										◎		
		運動学Ⅰ	1	◎	講義		1									◎		
		運動学Ⅱ	1	◎	講義			1								◎		
		運動生理学	1	◎	講義		1									◎		
		人間発達学	1	◎	講義		1									◎		
		運動学実習	1	◎	実習		1									◎		
		神経解剖学	1	◎	講義		1									◎		
		臨床医学	1	◎	講義		1									◎		
		病理学	1	◎	講義		1									◎		
	内科学	1	◎	講義		1									◎			
	整形外科	1	◎	講義		1									◎			
	神経内科学	1	◎	講義		1									◎			
	精神医学	1	◎	講義			1								◎			
	小児科学	1	◎	講義		1									◎			
	リハビリテーション医学	1	◎	講義			1								◎			
	スポーツ障害学	1	◎	講義			1								◎			
	老年医学	1	◎	講義			1								◎			
	薬理学	1	◎	講義			1								◎			
	救急救命学	1	◎	講義			1								◎			
	画像診断学	1	◎	講義			1								◎			
	リハビリテーション栄養学	1	◎	講義				1							◎			
	予防医学	1	◎	講義					1						◎			
福祉医療	1	◎	講義	1										◎				
リハビリテーション概論	1	◎	講義	1	1									◎				
保健医療福祉論	1	◎	講義		1									◎				
公衆衛生学	1	◎	講義			1								◎				
地域包括ケアシステム論	1	◎	講義				1							◎				

区分	卒業要件	科目名	単位	必・選	形態	学年学期配当・週時間								免許・資格関連		備考	
						1年		2年		3年		4年		作業療法士 受験資格			
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
基礎 作業療法学 作業療法 管理理学 作業療法 評価学 作業療法 治療学 地域作業療法学 作業療法臨床実習	基礎 作業療法学	作業療法概論	1	◎	講義	1									◎		
		作業療法基礎セミナーⅠ	1	◎	演習	1									◎		
		作業療法基礎セミナーⅡ	1	◎	演習		1								◎		
		早期体験実習Ⅰ	1	◎	実習		1								◎		
		早期体験実習Ⅱ	1	◎	実習			1							◎		
	作業療法 管理理学	医療関係法規論	1	◎	講義					1					◎		
		作業療法管理学	1	◎	講義					1					◎		
	作業療法 評価学	作業療法評価学Ⅰ	1	◎	講義		1								◎		
		作業療法評価学Ⅱ	1	◎	講義			1							◎		
		作業療法評価学実習Ⅰ	1	◎	実習		1								◎		
		作業療法評価学実習Ⅱ	1	◎	実習			1							◎		
		活動分析学	1	◎	講義					1					◎		
	作業療法 治療学	健康マネジメント論	1		講義		1										
		日常生活活動学	1	◎	講義		1								◎		
		日常生活活動学実習	1	◎	実習			1							◎		
		生活環境学	1	◎	講義		1								◎		
		生活環境学実習	1	◎	実習			1							◎		
		身体障害作業治療学	1	◎	講義				1						◎		
		身体障害作業治療学実習	1	◎	実習					1					◎		
		精神障害作業治療学	1	◎	講義					1					◎		
		精神障害作業治療学実習	1	◎	実習						1				◎		
		発達障害作業治療学	1	◎	講義					1					◎		
		発達障害作業治療学実習	1	◎	実習						1				◎		
		老年期障害作業治療学	1	◎	講義					1					◎		
		老年期障害作業治療学実習	1	◎	実習						1				◎		
		高次脳機能障害作業治療学	1	◎	講義					1					◎		
		高次脳機能障害作業治療学実習	1	◎	実習						1				◎		
		義肢装具学	1	◎	講義					1					◎		
		義肢装具学実習	1	◎	実習						1				◎		
		運動障害・健康障害の自立活動論・指導法	1		講義					1							
		リハビリテーション工学	1	◎	講義						1				◎		
	職業リハビリテーション学	1	◎	講義					1					◎			
	カウンセリング論	1	◎	講義						1				◎			
	地域作業療法学	サクセスフルエイジング論	1		講義					1							
		地域作業療法学	1	◎	講義					1					◎		
		バリアフリー論	1	◎	講義						1				◎		
		地域作業療法学実習Ⅰ	1	◎	実習					1					◎		
		地域作業療法学実習Ⅱ	1	◎	実習						1				◎		
		子ども支援学	1		講義							1					
	作業療法臨床実習	通所・訪問リハビリテーション実習	1	◎	実習	1									◎		
		臨床実習Ⅰ	1	◎	実習			1							◎		
		臨床実習Ⅱ	4	◎	実習					4					◎		
		臨床実習Ⅲ	8	◎	実習						8				◎		
		臨床実習Ⅳ	8	◎	実習							8			◎		
	展開 科目	20 単位	地域創生論	2	◎	講義	2										
世代間交流論			2	◎	講義	2											
リーダーシップマネジメント論			2	◎	講義			2									
体力測定実習			2		実習				2								
高齢者健康づくり政策論			2		講義					2							
学校運営論			2		講義					2							
組織経営論			2	◎	講義						2						
ヘルスケアマーケティング論			2		講義					2							
生活・福祉基盤論			2		講義						2						
教育相談			2		講義						2						
経営のための法律			2	◎	講義							2					
財務会計論			2	◎	講義								2				
総合 科目			4 単位	作業療法研究法演習Ⅰ	2	◎	演習				2						
	作業療法研究法演習Ⅱ	1		◎	演習					1							
	応用作業療法学演習	1		◎	演習							1					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	大学入門セミナー	1単位	1年前期	野村 聖子(責任者)/六倉	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
教育目標		倫理観を持ちながら他者との協働作業を通じて大学の教育目標や学部、学科の教育内容や将来に向けてのキャリア形成について理解できる。			
主体的学習					
倫理観					
協働活動					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1:人を尊び、多様な価値観を理解し、人の輪の中で守るべき秩序を持って、地域住民に対して身体的・精神的苦痛に寄り添うことができる能力を有している。					
授業の概要					
大学入門セミナーは、学生が大学での生活と主体的な学修活動を始めるにあたっての基本的知識や技能を修得することである。大学の教育目標や学部、学科の教育内容や将来に向けてのキャリア形成について理解することとする。具体的には、大学における主体的な学習方法、情報の正しい理解と論述の展開、倫理規範と他者交流、自己理解を学修し、作業療法学科の教育プログラムについて、他者との協働作業を通じて理解していく。					
授業計画					
第1回	大学生生活と主体的学習、作業療法学科の教育内容について (野村)				
第2回	基礎的な課題作成の方法と理解：デジタル機器の使用 (六倉)				
第3回	基礎的な課題作成の方法と理解：WORD (ワード) 使用 (六倉)				
第4回	基礎的情報の収集および分析方法：EXCEL課題 (野村)				
第5回	正確な情報の収集と理解 (野村)				
第6回	多様な作業療法士の在り方、理想とする作業療法士についての主体的探索 (野村)				
第7回	衛生行動の理解とまとめ (野村)				
第8回	衛生行動の実践 (野村)				
教科書及び参考書					
教科書 大学生学びのハンドブック6訂版(世界思想社)					
成績評価方法					
課題レポートによる評定100%					
オフィスアワー					
野村	火、水曜日13時00分～17時30分				
六倉	月、火曜日13時00分～17時30分				
履修にあたって必要な予備知識など					
作業療法士の資質について事前に考えておくこと。					
備考					
協働学習ができるよう主体的に授業に臨むこと。学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	社会人基礎力	1単位	1年前期	野村 聖子(責任者)/幅崎	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
社会人基礎力		様々な人の価値観を尊重しながら、主体的な行動ができるようになる。			
コミュニケーション					
計画					
社会貢献					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1:人を尊び、多様な価値観を理解し、人の輪の中で守るべき秩序を持って、地域住民に対して身体的・精神的苦痛に寄り添うことができる能力を有している。					
授業の概要					
社会人基礎力は、医療や介護、福祉に関わる専門職においても、様々な人の価値観を尊重しながら、主体的な行動ができるために必要な能力である。本講義では、経済産業省が提示した「社会人基礎力」を身に付けるための方法について学ぶ。また、個人の効果性、人間関係の効果性を高めていくための統合的なアプローチについて学ぶ。					
授業計画					
第1回	オリエンテーション：授業の進め方、テーマ（自ら学ぶ）ディスカッション				
第2回	自ら学ぶ 獲得できる知識 ディスカッション・発表資料準備				
第3回	自ら学ぶ 獲得できる知識 発表				
第4回	臨床実習・施設見学でのコミュニケーションスキル（大学生としての挨拶メール・手紙）				
第5回	AIについての理解：AI・機械学習・教師データとは何か、検索することの心理				
第6回	AI利用失敗例、成功例、最近の懸念点 発報				
第7回	労働（アルバイト）とセラピストに活かせる小さな知識・経験 発表				
第8回	ハラスメントについて、お金の使い方についての理解（幅崎）				
教科書及び参考書					
資料を提供する。 【参考書】世界思想社編集部（編）大学生 学びのハンドブック5訂版 世界思想社					
成績評価方法					
レポート発表100%					
オフィスアワー					
野村 火・水曜日13時00分～17時30分					
履修にあたって必要な予備知識など					
社会人基礎力（経済産業省）に必要な事柄について事前に調べておくこと。					
備考					
主体的な学修態度で臨むこと。学習効果を得るために個別の予習と復習の時間、グループ学習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	教育学	1単位	1年後期	幅崎 麻紀子	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
学校教育		<p>「教育」とは何か、教育学に関する基礎的知識を修得し、教育について考える力を習得する。加えて医療・福祉などの現場、ひいては我々の生涯にかかわる「教育」がどのようなものであるかについて深く理解することを目指す。</p>			
教育倫理					
学校と社会					
教育哲学					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
<p>DP1:地域に暮らす多様な価値観を持った人々への生活・文化を尊重することができる。 DP2:豊かな人間性と倫理観を備えることができる。</p>					
授業の概要					
<p>・あらゆる人々の社会生活・職業生活において「教育」という営みは不可欠なものであり、医療従事者の日々の実践や活動にも「教育」的要素は重要な位置を占める。本講義では、私たちの生活に内在する「教育」の概念、教育の現状と課題を浮かび上がらせるとともに、より良い「教育」を生み出していくための方途を考察する。 ・本講義は、受講生が教育の課題について調べ議論するアクティブラーニング法を積極的に取り入れながら展開する。</p>					
授業計画					
第1回	教育とは何か				
第2回	学校とは何か				
第3回	教育の歴史				
第4回	学校教育制度				
第5回	教師に求められる力				
第6回	教育における課題				
第7回	社会教育と生涯学習				
第8回	共生社会と共生教育				
教科書及び参考書					
<p>教科書：適宜、プリントを配布します。 参考書：教育学をつかむ【改訂版】有斐閣</p>					
成績評価方法					
出席状況・授業時の意欲・課題提出（ミニレポート等）40%、学期末試験（もしくはレポート）60%					
オフィスアワー					
e-mailでの事前連絡をお願いします。habazaki@u. a-ru. ac. jp					
履修にあたって必要な予備知識など					
<p>積極的に授業に参加してください。 授業の進捗や受講者の関心等に応じて、内容や講義の順番を変更する場合があります。</p>					
備考					
授業の進捗や受講者の関心等に応じて、内容や講義の順番を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	ジェンダー論	1単位	1年前期	幅崎麻紀子	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
ジェンダー		<ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダー／セクシュアリティとは何かを、様々な事例に則して学び、理解できる。 ・多様な個性、価値観、考え方を尊重するとともに、社会的包摂、公平と公正の視点から行動することができる。 			
セクシュアリティ					
ダイバーシティ&インクルージョン					
リプロダクティブヘルス・ライツ					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1: 地域に暮らす多様な価値観を持った人々への生活・文化を尊重することができる。 DP2: 豊かな人間性と倫理観を備えることができる。 DP3: 良好なコミュニケーションをとり、協調性に優れ周囲の人に寄り添えることができる。					
授業の概要					
<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会をジェンダーの視点から捉えなおし、所与の物としてとらえてきた事象に潜むジェンダー問題について検討する。 ・女性あるいは男性として生まれ育つことが、公私の領域でどのように人生を規定していくかを学ぶと同時に、「性の二分法」では捉えきれない性の多様性について学ぶ。 ・本講義はアクティブラーニング法（受講生自ら課題を見つけ、調べ、議論する）を積極的に取り入れて展開する。 					
授業計画					
第1回	ガイダンス、ジェンダー／セクシュアリティ／男女共同参画とは何か				
第2回	ジェンダー概念の誕生				
第3回	労働とジェンダー①				
第4回	労働とジェンダー②				
第5回	身体とジェンダー①				
第6回	身体とジェンダー②				
第7回	暴力とジェンダー				
第8回	ダイバーシティ&インクルージョン社会に向けて				
教科書及び参考書					
教科書：適宜、プリントを配布します。 参考図書：田中雅一・中谷文美編『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社、2005年 白井千晶編 2022年『アジアの出産とテクノロジー』勉誠出版					
成績評価方法					
出席状況・授業時の意欲・課題提出（ミニレポート等）60%、学期末試験（もしくはレポート）40%					
オフィスアワー					
e-mailでの事前連絡をお願いします。					
履修にあたって必要な予備知識など					
履修にあたっての予備知識は必要ありません。 自分の周囲の事象について、ジェンダーの視点から捉えなおしてみませんか。					
備考					
※ 授業の進捗や受講者の関心等に応じて、内容や講義の順番を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	マナー接遇	1単位	1年前期	幅崎 麻紀子	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
コミュニケーション (敬い・尊重)		人に対する優しさや思いやりの気持ちを根底に、その場にふさわしい行動パターンを身に付け、より良い人間関係や職場環境を高めることで自己成長に繋げていくことができる。			
人に与える印象					
言葉のおしゃれ					
ビジネス文書 (お礼状の書き方)					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP2: 豊かな人間性と倫理観を備えることができる。 DP3: 良好なコミュニケーションをとり、協調性に優れ周囲の人に寄り添えることができる。					
授業の概要					
理学療法士・作業療法士として、さまざまな領域で高い専門性を持ち活躍することが求められる中、他者理解と他者からの協力が必要不可欠となる。知識や技術に加え、より良い人間関係を築くための原則や患者心理の理解など、個人差を十分理解して接していくことを理解し、社会人として、また医療従事者として対象者を支えるために必要なことや相手に配慮した言動等について、敬語の使い分けや人に与える印象、お礼状の書き方の実践等などから学んでいく。					
授業計画					
第1回	マナー、エチケット、ホスピタリティとは				
第2回	コミュニケーションと「報連相」				
第3回	好感を与える話し方・聴き方とは				
第4回	人に与える印象の大切さ				
第5回	人に与える印象を考える				
第6回	敬語の使い分け・好ましい言葉遣い				
第7回	ビジネス文書、お礼状の書き方				
第8回	電話応対とオンラインコミュニケーション				
教科書及び参考書					
実社会で求められるビジネスマナー (専門教育出版)					
成績評価方法					
出席状況・授業時の意欲・授業時の課題提出50%、 学期末試験 (もしくは課題レポート) 50%					
オフィスアワー					
e-mailでの事前連絡をお願いします。habazaki@u.a-ru.ac.jp					
履修にあたって必要な予備知識など					
履修にあたっての予備知識は必要ありません。					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保してください。 状況により、内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	社会学	1単位	1年前期	幅崎麻紀子	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
個人と社会		社会学を学ぶことで、個人と社会の接点・関わりを構造を理解し、生活の成り立ちへの知識が広がり、生きること(ICF)への想像力を高めることができる。			
自己と他者					
社会問題					
社会学的想像力					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1:人を尊び、多様な価値観を理解し、人の輪の中で守るべき秩序を持って、地域住民に対して身体的・精神的苦痛に寄り添うことができる能力を有している。					
授業の概要					
講義では、「人と人のつながり」である社会関係を起点に、社会集団(まとまり)、社会規範(きめごと)、社会システムなどについて、社会学の基礎概念を使って学ぶ。その上で、家族、少子高齢化、都市、労働、グローバル化、環境などの課題に対して、私たちはどのように関わっていくべきかを、社会学の視点から考察する。					
授業計画					
第1回	社会学とは何か				
第2回	様々な社会学理論と研究方法				
第3回	自己と他者				
第4回	家族				
第5回	労働				
第6回	都市				
第7回	グローバル社会				
第8回	社会運動 まとめ				
教科書及び参考書					
教科書：適宜、プリントを配布します。					
参考書：本当にわかる社会学(日本実業出版社)、<私>をひらく社会学(大月書店)					
成績評価方法					
出席状況・授業時の意欲・課題提出(ミニレポート等)50%、学期末試験(もしくは課題)50%					
オフィスアワー					
e-mailでの事前連絡をお願いします。habazaki@u.a-ru.ac.jp					
履修にあたって必要な予備知識など					
履修にあたって予備知識は必要ありません。身近な事象や経験を、社会学的な視点から捉え直してみましょう。					
備考					
学習効果を高めるために、復習の時間を確保してください。 授業の進捗や受講者の関心等に応じて、内容や講義の順番を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	文化人類学	1単位	1年後期	幅崎麻紀子	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
他者理解・自己理解		人間を文化の側面から理解し、異文化や他者を深く理解するための視点と方法を身に着ける。その上で、リハビリテーションの主体となる人々の多様な背景や価値観を理解し、人々への洞察力を高めるとともに、自己理解を深める。			
文化の多様性					
病気と障害					
参与観察					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1:地域に暮らす多様な価値観を持った人々への生活・文化を尊重することができる。 DP2:豊かな人間性と倫理観を備えることができる。 DP3:良好なコミュニケーションをとり、協調性に優れ周囲の人に寄り添えることができる。					
授業の概要					
<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークに基づき、様々な民族の文化を研究することを通して、人間とは何かを研究する学問である文化人類学の研究領域と理論を理解した上で、世界各地の人々の日常生活の営みを題材に、人々の文化の多様性と異文化理解の重要性について学ぶ。特に、「家族」や「医療福祉」をテーマに、より豊かな「生」を実現するための方法について考える。 ・本講義はアクティブラーニング法（受講生自ら課題を見つけ、調べ、議論する）を積極的に取り入れて展開する。 					
授業計画					
第1回	文化人類学とは：異文化理解・他者理解・自己理解				
第2回	異文化の捉え方を考える：文化相対主義				
第3回	異文化を理解する方法：フィールドワークと民族誌				
第4回	家族・親族について考える①：親と子ども				
第5回	家族・親族について考える②：夫婦・パートナー				
第6回	文化と医療①：医療化・脱医療化				
第7回	文化と医療②：病気観、死生観				
第8回	多文化共生社会に向けて				
教科書及び参考書					
教科書：適宜、プリントを配布します。 参考図書：梅屋潔・シンジルト編『新版 文化人類学のレッスン フィールドからの出発』学陽書房 2017年 池田光穂・奥野克己編『医療人類学のレッスン』学陽書房 2007年 その他、授業時に適宜紹介します。					
成績評価方法					
出席状況・授業時の意欲・課題提出（ミニレポート等）60%、学期末試験（もしくはレポート）40%					
オフィスアワー					
e-mailでの事前連絡をお願いします。					
履修にあたって必要な予備知識など					
本講義では、受講者が積極的に他者や自己を理解しようとする姿勢が求められます。受講者自身が、自分の身近な経験を、文化人類学の視点から捉え直してみましよう。					
備考					
都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	生命倫理学	1単位	1年前期	吉田 幸恵	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
生命倫理	優生思想	生殖補助医療	自己決定	1. 人の存在価値に関する概念的対立について理解する。2. 諸事実のいずれに倫理問題が存在するのかを見出す方法を理解する。3. 具体的な事案の倫理的是非について、基本倫理原則と自己の価値観に照らして論じる方法を理解する。	
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DPI:人を尊び、多様な価値観を理解し、人の輪の中で守るべき秩序を持って、地域住民に対して身体的・精神的苦痛に寄り添うことができる能力を有している。					
授業の概要					
生命倫理学とは、法学、宗教学、社会学をはじめ生命科学・医療・保健の分野において人間の在り方を倫理的・道徳的観点から系統的に論ずる学問である。 この授業においては、生命倫理学の発展の経緯と特徴を明らかにしながら、人類社会における倫理学の重要性が生命倫理を産み出した経緯を学習する。この過程を通し、様々な価値基準と情報が氾濫する中、自ら倫理的意思決定を行うことの重要性を理解する。					
授業計画					
第1回	イントロダクション-生命倫理学とはなにか				
第2回	インフォームド・コンセント-自己決定				
第3回	ハンセン病歴における倫理的問題				
第4回	出生前診断と生殖技術について				
第5回	安楽死・尊厳死について				
第6回	臓器移植をめぐる諸問題について				
第7回	医療の役割とは何か				
第8回	総括及び総合討論				
教科書及び参考書					
教科書：特になし（レジュメを配布します） 参考書：玉井真理子・大谷いづみ編『はじめて出会う生命倫理』（2015年、有斐閣アルマ）加藤尚武・加茂直樹編『生命倫理学を学ぶ人のために』（2014年、世界思想社）※絶対に購入しないといけないわけではありません					
成績評価方法					
筆記試験及び授業後のミニレポート					
オフィスアワー					
講義終了後					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし。					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	発生生物学	1単位	1年後期	塩見健輔	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
体軸決定		動物を構成する複雑な器官や組織が発生する基本原理について学ぶとともに、遺伝子の働きにより動物の体制が作られる仕組みについて理解する。ヒトを含む多くの動物の体の特徴が、遺伝子により支配されていることを学ぶ。			
三胚葉形成					
神経誘導					
形態形成					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
授業の概要					
1つの細胞、受精卵から、どのように成体の複雑なからだが出来ていくのか、そのメカニズムを学ぶのが発生生物学である。本講義では、細胞分化、形態形成など発生の基本原理から、多くの生物に共通する初期発生の分子メカニズムまでを解説する。					
授業計画					
第1回	発生生物学の歴史、発生の諸概念				
第2回	ショウジョウバエの発生				
第3回	体軸決定				
第4回	三胚葉形成				
第5回	神経誘導				
第6回	形態形成運動				
第7回	器官形成				
第8回	その他、発生生物学まとめ				
教科書及び参考書					
参考書：ミニマル発生学（医学書院）、発生生物学－基礎から再生医療への応用まで－（裳華房）					
成績評価方法					
レポート課題					
オフィスアワー					
メールにて受付する。アドレスは、講義開始日に提示する。					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし□					
備考					
復習の時間を十分に確保すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	データサイエンス論	1単位	1年後期	出澤真乃介	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
データ分析		データを収集・整備することの意義を理解し、講義課題を通してGoogleSheet、Excel等の表計算ソフトを用いて基本的なデータ操作を経験した状態になる。			
表計算					
グラフ作成					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 理学療法/作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
授業の概要					
データとはなにか。データの基礎から活用事例までを紹介します。 特に医学・リハビリテーション学における基本的なデータの扱いを学習し、課題を通じて基本的なデータの扱い方の習得を目標とします。					
授業計画					
第1回	データサイエンスの基礎				
第2回	社会・リハビリテーション分野におけるデータの活用				
第3回	データの取得				
第4回	コンピュータを用いたデータ操作 (Excel, Googleスプレッドシートなど)				
第5回	データの可視化 (棒グラフ・折れ線グラフ、レーダーチャートなど)				
第6回	データの分析と解釈 (比較、相関、分類など)				
第7回	データ活用事例の紹介				
第8回	まとめ				
教科書及び参考書					
教科書 データサイエンス入門 第3版 (学術図書出版社) 参考図書 図解まるわかり データサイエンスのしくみ (翔泳社)					
成績評価方法					
課題 (100%)					
オフィスアワー					
月曜日 午後					
履修にあたって必要な予備知識など					
特記なし					
備考					
これまでの研究や業務で多様なデータを扱ってきた経験を生かして講義を行います。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	法情報リテラシー	1単位	1年後期	岡村 英郎	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード			学修教育目標(学修成果)		
憲法、民法、刑法			憲法、民法、刑法の全体像を理解し、法的思考力、バランス感覚を養う。		
法的思考力					
バランス感覚					
問題解決					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
豊かな人間性と倫理観を備えることができる。					
授業の概要					
民事法、刑事法、憲法等の基本制度を説明の上、法的に問題を解決するプロセスを学んでいく。					
授業計画					
第1回	民事法①				
第2回	民事法②				
第3回	民事法③				
第4回	民事法④				
第5回	刑事法①				
第6回	刑事法②				
第7回	憲法等①				
第8回	憲法等②				
教科書及び参考書					
無し					
成績評価方法					
授業出席、レポート					
オフィスアワー					
授業後に対応					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	災害支援論 I	1単位	1年後期	上野 修(責任者)/鈴木	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
災害支援論		<p>学生が災害発生時に迅速かつ効果的な支援を提供できる専門的な知識と技術を習得することを目指します。具体的には、災害の影響を受けた地域社会に対し、物資、医療、心理的支援、復興活動を総合的に実施できる能力を養います。また、災害支援における倫理的問題や社会的責任を認識し、協力して支援活動を行うためのリーダーシップやチームワーク能力を育成します。さらに、災害後の評価と改善のため、継続的な学びと自己改善の意識を高めます。</p>			
災害時の役割					
災害時の事前準備					
リーダーシップ					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
<p>災害支援論は、ディプロマ・ポリシーに沿った教育を提供し、学生に災害支援に必要な知識、技能、倫理的視点を養うことを目指しています。学生は、理論と実践を通じて問題解決能力を高め、倫理的な責任を意識しながら、災害支援の現場でリーダーシップとチームワークを発揮できるようになります。また、災害支援活動を学び、社会的貢献を果たすための具体的なスキルを身につけることができます。</p>					
授業の概要					
<p>この授業では、災害発生時における支援活動の基本的な知識を学びます。学生は、災害時に必要な物資の調達、医療支援、避難所運営、心理的ケアなど、幅広い支援の方法を総合的に理解し、効果的に対応する能力を養います。授業内容は、災害の種類や影響、災害支援の計画と実行方法、そして支援後の復興活動に関する理論を中心に進められます。さらに、災害支援における倫理的問題や社会的責任についても学び、実際の支援現場でのリーダーシップやチームワークの重要性を強調します。授業では、シミュレーションやケーススタディを通じて、現場で役立つ実践的な知識も習得します。</p>					
授業計画					
第1回	はじめに：災害支援の重要性				
第2回	災害時の作業療法士・理学療法士の役割				
第3回	災害対応の準備：事前準備と備蓄				
第4回	避難所での支援活動				
第5回	障害者や高齢者への支援				
第6回	災害時のメンタルヘルスケア				
第7回	家屋や住居での支援				
第8回	まとめ				
教科書及び参考書					
PPTを使用します。					
成績評価方法					
定期試験100%					
オフィスアワー					
授業後に対応					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし					
備考					
<p>学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。</p>					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	スポーツ理論・実技 I	1単位	1年前期	呉 世祖	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
スポーツの歴史・文化		スポーツの歴史・文化と身体機能、運動メカニズムを学び、健康・体力づくりの基礎を理解できる。実技ではバスケットボールの基本技能を安全に実践し、身体活動の継続につなげられるようになる。			
身体機能					
運動メカニズム					
バスケットボール					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
本授業は、多様な価値観を理解し尊重しながら、倫理観を持って対象者の生活を支援できる能力の基盤形成に関連する。スポーツ活動を通して安全配慮と他者理解を学び、協働的な態度を養う。					
授業の概要					
本授業では、スポーツの歴史・文化および身体機能と運動メカニズムを学び、健康・体力づくりの基礎を理解する。実技ではバスケットボールを題材として、ウォーミングアップ、基礎技能（ドリブル、パス、シュート）、体力要素（筋力・持久力等）を段階的に学修し、試合形式の活動へとつなげる。学生の体力や経験の差に配慮し、個々が安全に運動を継続できること、ならびに運動・スポーツを楽しみながら主体的に参加することを重視して授業を進める。					
授業計画					
第1回	オリエンテーション、スポーツの歴史と文化(講義)				
第2回	スポーツ文化と身体機能及び運動メカニズム(講義)				
第3回	バスケットボールを向上させるためのウォーミングアップ(上肢・下肢)				
第4回	バスケットボールを向上させるためのウォーミングアップ(体幹)				
第5回	バスケットボール技術(ランニングとターン①(基礎))				
第6回	バスケットボール技術(ランニングとターン②(応用・実践))				
第7回	バスケットボール技術(ウェイトトレーニング:上肢、下肢)				
第8回	バスケットボール技術(ウェイトトレーニング:体幹)				
第9回	バスケットボール技術練習(ドリブル)				
第10回	バスケットボール技術練習(パスワーク)				
第11回	バスケットボール技術練習(シュート)				
第12回	バスケットボール技術練習(ポジション別)				
第13回	バスケットボール試合①				
第14回	バスケットボール試合②(チーム変更)				
第15回	バスケットボール試合③(チーム変更)				
教科書及び参考書					
特に定めず					
成績評価方法					
実技40%、レポート課題20%、定期試験40%					
オフィスアワー					
月曜日・木曜日11時30分～15時、17時00分～17時50分					
履修にあたって必要な予備知識など					
十分な睡眠、栄養を取っておくこと。					
備考					
主体的に参加するように。学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	スポーツ理論・実技Ⅱ	1単位	1年後期	呉 世祖	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
体力		健康の維持・増進または体力の向上ができ、生涯にわたって運動・スポーツを楽しむために必要な知識を理解し、説明できる。			
健康増進					
運動習慣					
筋力トレーニング					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
多様な価値観を理解しながら尊重し、倫理観を持って対象者の生活を支援できる能力を有している。					
授業の概要					
体力と健康の関係についての理論背景を学修し、体力の向上をすることで健康が維持できることを自己の運動から経験し、運動・スポーツを日常生活の中で習慣化できるようにしていく。さらに、その経験を周囲の人々に共感できるような環境を整備し、様々な人の生活を支援できることを意識して学修する。学生のスポーツ歴や体力レベルの違いにより、一律に講義を計画通りに進めることが困難である場合は、別途内容を検討し、体力向上についての楽しみを学ぶことを重要として、授業を進めていく。					
授業計画					
第1回	オリエンテーション、体力と健康(講義)				
第2回	体力向上のメカニズム(講義)				
第3回	筋力トレーニングの基本①				
第4回	筋力トレーニングの基本②				
第5回	体力向上練習(柔軟性向上プログラム)				
第6回	体力向上練習(巧緻性向上プログラム)				
第7回	体力向上練習(上肢筋力強化プログラム)				
第8回	体力向上練習(下肢筋力強化プログラム)				
第9回	体力向上練習(体幹筋力強化プログラム)				
第10回	体力向上練習(局所的筋持久性向上プログラム)				
第11回	体力向上練習(全身持久性向上プログラム)				
第12回	体力向上練習(筋力向上プログラム作成)①				
第13回	体力向上練習(筋力向上プログラム作成)②				
第14回	体力向上練習(筋力向上プログラム作成)③				
第15回	体力テスト(評価とフィードバック)				
教科書及び参考書					
特に定めず					
成績評価方法					
実技30%、レポート課題20%、定期試験50%					
オフィスアワー					
月曜日・木曜日11時30分～15時、17時00分～17時50分					
履修にあたって必要な予備知識など					
十分な睡眠、栄養を取っておくこと。					
備考					
主体的に参加するように。学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	健康と食の科学	1単位	1年後期	櫻井 麻理	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
食生活		健康と食に関して基礎知識を身に付け、自身の日常生活において振り返ることができる。また、ライフステージ別の特徴や生活習慣病について理解し、食生活との関連を学ぶ。			
栄養素					
生活習慣病					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。 DP3:作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
授業の概要					
日本は平均寿命が男女ともに80歳を超え伸び続けていますが、健康寿命と寿命の間にはいまだに約10年のギャップがあります。最先端の医療を駆使しても、多くの加齢性疾患の治療は困難ですが、予防することは可能です。本講義では、日本人が伝統的に大切にしてきた医食同源という食による疾患予防の文化をアップデートします。これまでに人類が蓄積してきた食に関する膨大な知恵に加えて、最先端科学による明確なエビデンスに基づいた健康に役立つ「食」に関して学ぶことで、毎日の生活の中で実践できる知識を身につけることを目的とします。					
授業計画					
第1回	食品の分類、成分および物性				
第2回	食品の機能				
第3回	栄養の概念および働き				
第4回	食生活の現状				
第5回	食生活と疾病				
第6回	ライフステージ別の特徴と栄養				
第7回	調理の基礎				
第8回	調理の基礎				
教科書及び参考書					
カラーグラフ 食品成分表 (実教出版)					
成績評価方法					
定期試験80%、レポート課題20%					
オフィスアワー					
授業後に対応					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし。					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	健康教育学	1単位	1年後期	呉世昶	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
ヘルスプロモーション		健康に関する基礎的知識を整理し、患者や一般市民に分かりやすく説明できるようになる。あわせて、健康情報を批判的に評価し、科学的根拠に基づいて適切に活用する力を身に付ける。			
健康情報リテラシー					
行動変容					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
本授業は、多様な価値観を尊重しながら、科学的根拠に基づいて健康情報を判断し、対象者の生活を支援するための基礎的能力の養成に関連し、ディプロマ・ポリシーの達成に資する。					
授業の概要					
本授業では、将来、患者や一般市民に健康について「伝える立場」になることを想定し、健康教育の基礎的な考え方を学ぶ。肥満や慢性疾患、生活習慣と健康の関係について、専門的知識をどのように噛み砕いて説明すべきかを扱うとともに、インターネットやSNS、AIを通じて流通する健康情報の中から、正確で信頼できる情報を見極める視点を養う。講義を通して、科学的根拠に基づいた健康教育を実践するための基礎力を身に付けることを目指す。					
授業計画					
第1回	健康教育学とは何か—患者に「健康を教える」立場としての視点				
第2回	肥満人口の増加と慢性疾患—データを使って健康課題をどう伝えるか				
第3回	慢性疾患をどう説明する—専門知識を「誤解なく伝える」ための考え方				
第4回	生活習慣と健康教育—食事・日常行動をどう教育に落とし込むか				
第5回	健康教育で扱う検査値の考え方—数値を煽らず、正しく理解させる伝え方				
第6回	寿命・健康寿命と健康教育—「長生き＝健康」という誤解をどう正すか				
第7回	健康情報と教育者の責任—誤情報・過剰情報・AI情報との向き合い方				
第8回	まとめ—AI時代における健康教育者の役割				
教科書及び参考書					
適宜資料を配布する。					
成績評価方法					
レポート課題30%、定期試験60%、授業への積極的参加度10%					
オフィスアワー					
火曜日・木曜日10時00分～11時00分、17時00分～17時50分					
履修にあたって必要な予備知識など					
特記なし					
備考					
学習効果を得るために復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	健康科学	1単位	1年後期	呉世昶	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
生理学的メカニズム		健康に関わる生理学的メカニズムを理解し、肥満、代謝、内分泌、ストレス反応が生体に与える影響を科学的に説明できるようになる。			
代謝調節					
内分泌応答					
ストレス生理					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
本授業は、多様な価値観を尊重しながら、科学的根拠に基づいて健康を理解し支援するための基礎的能力の養成に関連し、ディプロマ・ポリシーの達成に資する。					
授業の概要					
本授業では、健康を単なる生活習慣の結果としてではなく、生体内で生じる生理学的メカニズムの観点から捉える。肥満と慢性疾患の拡大を背景に、代謝調節、脂肪組織および骨格筋の内分泌機能、ストレスに対する自律神経・内分泌応答など、近年の健康科学研究で注目されるテーマを扱う。講義を通して、健康を科学的に理解するための基礎的視点を身に付けることを目指す。					
授業計画					
第1回	導入：健康科学を「メカニズム」で学ぶ（健康観・研究の見方）				
第2回	肥満と慢性疾患の拡大（疫学的背景と健康リスクの全体像）				
第3回	肥満が病気を引き起こすメカニズム				
第4回	エネルギー代謝と健康（糖代謝・脂質代謝の調節と代謝柔軟性）				
第5回	脂肪組織は内分泌臓器（アディポカインと全身代謝調節）				
第6回	骨格筋と健康科学（マイオカインと臓器間ネットワーク）				
第7回	ストレスの生理学（自律神経・内分泌反応と健康への影響）				
第8回	まとめ				
教科書及び参考書					
適宜資料を配布する。					
成績評価方法					
レポート課題30%、定期試験60%、授業への積極的参加度10%					
オフィスアワー					
火曜日・木曜日10時00分～11時00分、17時00分～17時50分					
履修にあたって必要な予備知識など					
特記なし					
備考					
学習効果を得るために復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	英語コミュニケーションⅠ	1単位	1年前期	Richard Schwartz	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
医療英会話 会話表現 英会話		1. 医療・看護現場での必要な会話表現、専門用語の習得と実践ができる。 2. 医療・看護現場で必要とされる心構えや態度などを理解し修得できる。			
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1:多様な価値観を理解しながら尊重し、倫理観を持って対象者の生活を支援できる能力を有している。					
授業の概要					
本授業では、日本の医療・看護現場で必要とされる医療英語の基本表現や専門用語を学び、外国人患者とのコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。授業では医療場면을想定した会話練習やロールプレイを行い、実践的な英語表現を習得する。最後に、学習した医療英語を用いた寸劇形式の発表を行う。					
※小テストはスマートフォンでQRコードを読み込み実施予定					
授業計画					
第1回	英語習得の心構え。英語での挨拶と自己紹介。 寸劇の要領説明				
第2回	Unit 1 Please speak more slowly グループ割、				
第3回	Unit 2 Where are you from? 小テスト① 寸劇提案書提出				
第4回	Unit 3 Could you tell me your address, please? 小テスト②				
第5回	Unit 4 What department do you want to visit? 小テスト③				
第6回	Unit 5 Where is the X-ray department? 小テスト④				
第7回	Unit 6 What are your symptoms? 小テスト⑤ 寸劇下書き1提出				
第8回	小テスト⑥ 英語での看護寸劇の発表、評価、まとめ				
教科書及び参考書					
知念クリスティーン、上瀧真紀恵 著 「クリスティーンのやさしい看護英会話」 (医学書院)					
成績評価方法					
小テスト6回 単位認定寸劇 1回 英語寸劇の評価、授業態度					
オフィスアワー					
講義終了後					
履修にあたって必要な予備知識など					
講義中の積極的な発言を求めます。					
備考					
都合により内容を変更する場合があります。 学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	英語コミュニケーションⅡ	1単位	1年後期	Richard Schwartz	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
医療英会話 会話表現 英会話		1. 医療・看護現場での必要な会話表現、専門用語の習得と実践ができる。 2. 医療・看護現場で必要とされる心構えや態度などを理解し修得できる。			
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1:多様な価値観を理解しながら尊重し、倫理観を持って対象者の生活を支援できる能力を有している。					
授業の概要					
本授業では、日本の医療・看護現場で必要とされる医療英語の基本表現や専門用語を学び、外国人患者とのコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。授業では医療場面を想定した会話練習やロールプレイを行い、実践的な英語表現を習得する。最後に、学習した医療英語を用いた寸劇形式の発表を行う。					
※小テストはスマートフォンでQRコードを読み込み実施予定					
授業計画					
第1回	英語習得の心構え。英語での挨拶と自己紹介。 寸劇の要領説明				
第2回	Unit 7 Where does it hurt? グループ割、				
第3回	Unit 8 Have you ever had any serious illnesses? 小テスト① 寸劇提案書提出				
第4回	Unit 9 Take one tablet, four times a day. 小テスト②				
第5回	Unit 10 Let me make an appointment for your test. 小テスト③				
第6回	Unit 11: your surgery will be tomorrow at 9 a.m. 小テスト④				
第7回	Unit 12: How are you feeling today? 小テスト⑤ 寸劇下書き1提出				
第8回	小テスト⑥ 英語での看護寸劇の発表、評価、まとめ				
教科書及び参考書					
知念クリスティーン、上瀧真紀恵 著 「クリスティーンのやさしい看護英会話」 (医学書院)					
成績評価方法					
小テスト 6回 単位認定寸劇 1回 英語寸劇の評価、授業態度					
オフィスアワー					
講義終了後					
履修にあたって必要な予備知識など					
講義中の積極的な発言を求めます。					
備考					
都合により内容を変更する場合があります。 学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	人体構造学 I	1単位	1年前期	田辺 勇人	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
上肢の骨、下肢の骨、頭蓋骨、脊柱の骨、胸郭、上肢骨の連結、下肢骨の連結、脊柱の連結・頭蓋との連結、胸郭の連結、顎関節、上肢の筋、下肢の筋、頭頸部の筋、背部の筋、腹壁の筋、脊髄神経、上肢の神経、下肢の神経、頭頸部の神経、体幹の神経		理学療法、作業療法に必要な人体の構造と機能を関連付けて身につける。 (1)人体の骨格を構成する骨の名称と特徴について説明できるようになる。 (2)人体の筋群の起始・停止、支配神経および作用について説明できるようになる。			
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:理学療法学・作業療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法・作業療法を提供できる能力を有している。					
授業の概要					
人体の骨格とその連結の構造と働き、筋の起始・停止、作用（関節の運動）、脊髄神経の構成、分布と機能、神経障害の機序について学ぶ。特に、日常の臨床に重要な機能に重点をおいて学ぶ。					
授業計画					
第1回	シラバスによる授業計画・評価方法等のガイダンス。骨格系（総論）、上肢の骨（上肢帯骨・上腕の骨）				
第2回	骨の連結（総論）、上肢骨の連結（上肢帯・自由上肢の連結と運動）				
第3回	下肢の骨（下肢帯の骨・大腿骨・下腿の骨・足の骨）、下肢骨の連結（下肢帯の連結と運動）				
第4回	背部の骨格（椎骨・頸椎・胸椎・腰椎・仙骨・脊柱・寛骨）				
第5回	胸壁の骨（胸骨・肋骨・胸郭）、脊柱の連結、胸郭の連結				
第6回	頭蓋骨（顔面頭蓋・脳頭蓋・舌骨）				
第7回	筋系（総論）、上肢の筋（上肢帯の筋・上腕の筋）				
第8回	上肢の筋（前腕の筋・手の筋）、下肢の筋（下肢帯の筋）				
第9回	下肢の筋（大腿の筋・下腿の筋・足の筋）				
第10回	体幹：胸壁・腹壁の筋、横隔膜				
第11回	頭頸部の筋、背部の筋（固有背筋）				
第12回	神経系（総論、脊髄神経）、上肢の神経（腕神経叢）				
第13回	上肢の神経（主要神経の走路と分布）、下肢の神経（腰神経叢）				
第14回	下肢の神経（仙骨神経叢）、骨盤の神経（陰部神経叢）				
第15回	体幹：背部・胸壁・腹壁の神経（胸神経・肋間神経）、頭頸部の神経（頸神経叢）				
教科書及び参考書					
【教科書】透かしてみるとミルミルわかる!! 解剖学 学研 体表からわかる人体解剖学 原書第二版 南江堂 2800円					
成績評価方法					
中間試験および定期試験 100%					
オフィスアワー					
クラスルームにアクセスして質問してください。					
履修にあたって必要な予備知識など					
教科書あるいは配布資料で授業計画ごとの項目に関する内容を事前に読んでおく。					
備考					
授業中の内容を理解すること！医学用語は後から覚えること！					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	人体構造学Ⅱ	1単位	1年後期	田辺 勇人	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
組織、脳神経、自律神経、循環器系、感覚器系、呼吸器系、消化器系、内分泌系、泌尿器系、男性・女性生殖器系、外皮（皮膚）、細胞の構造		理学療法、作業療法に必要な人体の構造と機能を学ぶ。とくに日常の臨床に重要な機能に重点をおいて学ぶ。 (1)細胞・組織の（微細）構造と働きについて説明できるようになる。 (2)脳神経・自律神経の構成と機能について説明できるようになる。 (3)器官系の各臓器の構造と機能について説明できるようになる。			
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:理学療法学・作業療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法・作業療法を提供できる能力を有している。					
授業の概要					
脳神経・自律神経の構成と機能について学習する。内臓系器官の構造と機能がどのような組織や細胞の微細構造に基づいているかを理解する。また、細胞の機能と疾患との関係を理解する。					
授業計画					
第1回	骨組織、軟骨組織、関節の組織構造、筋組織				
第2回	神経組織、上皮組織、結合組織				
第3回	脳神経1（嗅神経、視神経、動眼神経、滑車神経、三叉神経、外転神経）				
第4回	自律神経系1（総論、交感神経系1）				
第5回	感覚器系：眼（眼球・眼筋・眼瞼・涙器）、				
第6回	感覚器系：味覚器、嗅覚器、外皮（皮膚）				
第7回	循環器系（心臓・大動脈・大静脈・リンパ系・脾臓・胎児の循環）				
第8回	呼吸器系（鼻腔・咽頭・喉頭・気管・気管支・肺）、循環器系（呼吸器の血管）				
第9回	消化器系1（口腔・咽頭・食道・胃・小腸・大腸）、循環器系（消化器の血管1）				
第10回	消化器系2（肝臓・胆嚢・膵臓・腹膜）、循環器系（消化器の血管2）				
第11回	泌尿器系（腎臓・尿路）、循環器系（腎臓の血管）				
第12回	男性生殖器系（精巣・精路・外生殖器）、循環器系（男性生殖器の血管）				
第13回	女性生殖器系（卵巣・卵管・子宮・外生殖器）、循環器系（女性生殖器の血管）				
第14回	内分泌系（下垂体・松果体・甲状腺・上皮小体・副腎・膵臓・性腺）、循環器系（内分泌器の血管）				
第15回	細胞の構造				
教科書及び参考書					
【教科書】1.解剖学（仮）リブサイエンス 2.透かしてみるとミルミルわかる!!解剖学 学研					
成績評価方法					
中間試験および定期試験100%					
オフィスアワー					
履修にあたって必要な予備知識など					
講義内で話します					
備考					
授業中に講義を理解すること！授業中に勉強しよう！					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	生理学 I	1単位	1年前期	塩見健輔	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード	学修教育目標(学修成果)				
興奮性細胞	①体内におけるシグナルの伝わりかた ②神経系の機能・調節 ③感覚系の機能・調節 ④循環器系の機能・調節 などについて説明することができる。				
中枢神経系					
末梢神経系					
感覚系					
循環系					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
授業の概要					
人体内部における情報のネットワークやその機能について理解する。刻々と変化する外的環境および内的環境への人体の対応がどのような仕組みで行われているのか、について理解する。					
授業計画					
第1回	序論（オリエンテーション）、細胞の基本的構造と機能				
第2回	膜電位とシナプス伝達				
第3回	神経の基本的構造と機能				
第4回	中枢神経系 I 大脳皮質				
第5回	中枢神経系 II 大脳辺縁系、大脳基底核				
第6回	中枢神経系 III 間脳、脳幹、小脳				
第7回	中枢神経系 IV 脊髄				
第8回	脳神経系				
第9回	末梢神経、運動系、反射				
第10回	感覚系 I（総論、体性感覚）				
第11回	感覚系 II（特殊感覚）				
第12回	自律神経系				
第13回	筋肉の構造と機能				
第14回	循環系 I（心臓）				
第15回	循環系 II（血管）				
教科書及び参考書					
教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第6版（医学書院） 参考書：消して忘れない生理学 要点生理ノート（羊土社）					
成績評価方法					
定期試験100%					
オフィスアワー					
メールにて受付する。アドレスは、講義開始日に提示する。					
履修にあたって必要な予備知識など					
教科書あるいは配布資料で授業計画ごとの項目に関する内容を事前に読んでおく。					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	生理学Ⅱ	1単位	1年後期	塩見健輔	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
ホルモン		①ホメオスタシスの維持 ②栄養の吸収および排泄 ③尿の生成と体液の調節 ④呼吸の仕組みと働きおよび酸塩基平衡 ⑤体温の調節機構 ⑥精子形成および女性の性周期などについて説明することができる。			
消化・吸収					
泌尿器					
呼吸					
体温					
生殖					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
授業の概要					
ホメオスタシスの維持機構に加え、人が生きていくうえで大切な呼吸のしくみ、栄養の吸収や排泄、生殖における基本的な知識を身につける。					
授業計画					
第1回	呼吸系(1)肺機能				
第2回	呼吸系(2)呼吸調節				
第3回	血液成分、血液凝固と線溶				
第4回	炎症と免疫系				
第5回	泌尿器系の構造と機能				
第6回	消化器系Ⅰ(総論、嚥下機能、口腔・食道・胃)				
第7回	消化器系Ⅱ(小腸・大腸・肝臓など)				
第8回	内分泌系Ⅰ(総論 ホルモンの種類と働き)				
第9回	内分泌系Ⅱ(視床下部、下垂体、甲状腺、副甲状腺)				
第10回	内分泌系Ⅲ(膵臓、副腎、性腺など)				
第11回	内分泌系Ⅳ(まとめ)				
第12回	生殖器系				
第13回	成長と老化				
第14回	代謝、栄養、体液調節				
第15回	その他、生理学まとめ(体温、発生と組織、運動生理)				
教科書及び参考書					
教科書:標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第6版(医学書院) 参考書:消っして忘れない生理学 要点生理ノート(羊土社)					
成績評価方法					
定期試験100%					
オフィスアワー					
メールにて受付する。アドレスは、講義開始日に提示する。					
履修にあたって必要な予備知識など					
教科書あるいは配布資料で授業計画ごとの項目に関する内容を事前に読んでおく。					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	人体構造学実習	2単位	1年通年	田辺 勇人	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
人体構造学ⅠならびにⅡに示したキーワード		理学療法、作業療法に必要な人体の構造と機能を関連付けて実物で理解し、体得する。			
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:理学療法・作業療法分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法・作業療法を提供できる能力を有している。					
授業の概要					
人体の構造を骨格模型、骨格筋模型、神経分布を立体的、総合的に理解する。実地に役立つように骨格、骨の基本的部位を体表から触診し、生体における位置を知る。関節の運動を行うことで、生体における筋の所在を触診する。主要な神経の所在と走行を体表から触診し、その働きを理解し考える。					
授業計画					
第1回	上肢の骨（上肢帯骨・上腕の骨・前腕の骨・手の骨）				
第2回	上肢骨の連結（自由上肢の連結と運動）、下肢の骨（下肢帯の骨）				
第3回	下肢骨の連結（下肢帯の連結と運動・自由下肢の連結と運動・足弓）				
第4回	背部の骨格（腰椎・仙骨・脊柱・寛骨）				
第5回	胸壁の骨（胸骨・肋骨・胸郭）、脊柱の連結、胸郭の連結、				
第6回	頭蓋骨（脳頭蓋・顔面頭蓋・舌骨）、顎関節				
第7回	上肢の筋（上肢帯の筋と上腕の筋）				
第8回	上肢の筋（前腕の筋・手の筋）、下肢の筋（下肢帯の筋）				
第9回	下肢の筋（大腿の筋・下腿の筋・足の筋）				
第10回	体幹：胸壁・腹壁の筋、横隔膜				
第11回	頭頸部の筋、背部の筋（固有背筋）				
第12回	神経系（脊髄神経）、上肢の神経（腕神経叢）				
第13回	上肢の神経（主要神経の走路と分布）、下肢の神経（腰神経叢）				
第14回	下肢の神経（仙骨神経叢）、骨盤の神経（陰部神経叢）				
第15回	体幹：背部・胸壁・腹壁の神経（胸神経・肋間神経）、頭頸部の神経（頸神経叢）				
第16回	骨組織、軟骨組織、関節の組織構造、筋組織、				
第17回	神経組織、上皮組織、結合組織				
第18回	脳神経2（顔面神経・内耳神経・舌咽神経・迷走神経・副神経・舌下神経）				
第19回	自律神経系2（交感神経系2・副交感神経系）				
第20回	感覚器系：耳（外耳・中耳・内耳）				
第21回	循環器系（心臓・大動脈・大静脈・リンパ系・脾臓・胎児の循環）				
第22回	循環器系（心臓・大動脈・大静脈・リンパ系・脾臓・胎児の循環）				
第23回	呼吸器系（鼻腔・咽頭・喉頭・気管・気管支・肺）、循環器系（呼吸器の血管）				
第24回	消化器系1（口腔・咽頭・食道・胃・小腸・大腸）、循環器系（消化器の血管1）				
第25回	消化器系2（肝臓・胆嚢・膵臓・腹膜）、循環器系（消化器の血管2）				
第26回	泌尿器系（腎臓・尿路）、循環器系（腎臓の血管）				
第27回	男性生殖器系（精巣・精路・外生殖器）、循環器系（男性生殖器の血管）				
第28回	女性生殖器系（卵巣・卵管・子宮・外生殖器）、循環器系（女性生殖器の血管）				
第29回	内分泌系（下垂体・松果体・甲状腺・上皮小体・副腎・膵臓・性腺）、循環器系（内分泌器の血管）				
第30回	細胞の構造				
教科書及び参考書					
【教科書】1.解剖学（仮）リブサイエンス、 2.ポケットチューター体表からわかる人体解剖学 【参考書】1, 分担解剖1・2 森 於菟 他. 金原出版 2. ネット解剖学アトラス, 相磯貞和訳. 南江堂 3. 解剖学講義 伊藤隆, 高野広子著 南山堂					
成績評価方法					
中間試験および定期試験100%					
オフィスアワー					
月・水・木・金曜日 12時50分～13時50分、 17時00分～17時50分					
履修にあたって必要な予備知識など					
教科書あるいは配布資料で授業計画ごとの項目に関する内容を事前に読んでおく。					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	生理学実習	1単位	1年後期	塩見健輔(責任教員)/董/巻/山元	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
生体反応		生体反応について実践的な理解力を習得する 生体反応の計測方法を体験を通じて修得する 動物生理と植物生理の違いを実践的に理解する			
動物生理					
植物生理					
生理学的計測方法					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいて臨床的課題を発見・解決できる能力を有している。					
授業の概要					
人における生理的な計測方法を実習で学ぶ。また何らかの刺激による生理的变化についての実習を行う。実習で得られたデータを整理分析し、表やグラフへの表示について学ぶ。これらの生理的变化の仕組みについて考察する。					
授業計画					
第1回	血圧・心拍数の測定 実習 (塩見、董、山元)				
第2回	血圧・心拍数の測定 実習 (塩見、董、山元)				
第3回	上記 結果のまとめ (塩見、董、山元)				
第4回	各グループ発表 (塩見、董、山元)				
第5回	心電図測定 実習 (塩見、董、山元)				
第6回	心電図測定 実習 (塩見、董、山元)				
第7回	上記 結果のまとめ (塩見、董、山元)				
第8回	各グループ発表 (塩見、董、山元)				
第9回	呼吸機能の測定・平衡感覚機能の測定 実習 (塩見、巻、山元)				
第10回	呼吸機能の測定・平衡感覚機能の測定 実習 (塩見、巻、山元)				
第11回	上記 結果のまとめ (塩見、山元)				
第12回	各グループ発表 (塩見、山元)				
第13回	皮膚感覚測定・視覚機能測定 実習 (塩見、董、山元)				
第14回	皮膚感覚測定・視覚機能測定 実習 (塩見、董、山元)				
第15回	上記 結果のまとめ、各グループ発表 (塩見、董、山元)				
教科書及び参考書					
教科書：生理学実習NAVI (第3版) (医歯薬出版)					
参考書：リハビリテーションテキスト 生理学 (メジカルビュー社)					
成績評価方法					
レポート100%					
オフィスアワー					
メールにて受付する。アドレスは、講義開始日に提示する。					
履修にあたって必要な予備知識など					
生理学の科目について復習しておくこと。					
備考					
主体的な学修態度で臨むこと。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	リハビリテーション概論	1単位	1年前期	中村 茂美	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
リハビリテーション		リハビリテーションの概念、定義、リハビリテーション医療の流れ、リハビリテーション関連職種の専門分野、役割、あるべき姿、現状の課題について説明することができる。			
病気と障害					
チームアプローチ					
社会保障					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
授業の概要					
病気とは何か、障害とは、また、障害者の権利に関する条約、高齢者等の擁護などの視点からリハビリテーションの概念、定義、リハビリテーション医療の流れ、リハビリテーション関連職種の専門分野、役割、あるべき姿、現状の課題などを教授し、リハビリテーション領域での作業療法士の専門性について科学的根拠に基づきながら検討していき、自らの役割を考える基盤を形成していく。					
授業計画					
第1回	リハビリテーションがめざすもの・構成メンバー				
第2回	国際機能分類（ICF）の考え方・生活行為向上マネジメント				
第3回	病気からみたリハビリテーション				
第4回	職域からみたリハビリテーション				
第5回	地域社会とのかかわり				
第6回	人権・権利擁護・医療倫理				
第7回	疾患・障害に対するリハビリテーションの理解（脳血管障害）				
第8回	疾患・障害に対するリハビリテーションの理解（神経筋疾患）				
第9回	神経筋疾患当事者の人生・生活について（ZOOMインタビュー）				
第10回	疾患・障害に対するリハビリテーションの理解（運動器疾患）				
第11回	疾患・障害に対するリハビリテーションの理解（がん・廃用症候群）				
第12回	疾患・障害に対するリハビリテーションの理解（脊髄損傷）				
第13回	疾患・障害に対するリハビリテーションの理解（小児）				
第14回	リハビリテーション関連制度				
第15回	まとめ、作業療法士これからの可能性				
教科書及び参考書					
リハビリテーションビジュアルブック（Gakken）					
成績評価方法					
各授業での課題提出 100%					
オフィスアワー					
中村 水曜日・木曜日・金曜日 17時00分～17時50分					
履修にあたって必要な予備知識など					
特記なし					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	保健医療福祉論	1単位	1年後期	入内島芳崇	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
健康転換		健康転換と地域包括ケアシステムの関連を学ぶことで、包括的な視点から、医療と保健福祉の連携が必要とされる理由やリハビリテーションの目標を説明することができる。			
地域包括ケアシステム					
リハビリテーション(目標)					
医療・介護(保健福祉)連携					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP2:理学療法士・作業療法士として高いレベルでのコミュニケーション能力を有し、様々な分野の専門職業人と協働することができる。					
授業の概要					
授業は、①健康転換に伴う医療から介護、地域へという時代の流れ、②それを受けた地域包括ケアシステムの構築、医療介護連携(多職種連携)、リハビリテーションの目標が説明される。③最後に、受講生自ら医療介護連携の事例を調べて発表することにより、医療と保健福祉の連携を必要とする実情に目を向け、これからのリハビリ職に求められる包括的な視点について理解を深める。					
授業計画					
第1回	授業の案内：医療と保健福祉の連携を学ぶ(概要)				
第2回	保健・医療・福祉の連携：「新しい介護の形」を求めて				
第3回	健康転換①：人口構造と疾病構造の変化(高齢化と生活習慣病)				
第4回	健康転換②：健康問題と対応システムの変化(地域包括ケアシステム)				
第5回	住み慣れた地域で自分らしい暮らしとは？①：理念と課題				
第6回	住み慣れた地域で自分らしい暮らしとは？②：構成要素と担い手				
第7回	地域包括ケアシステムをどう創るのか？：葉っぱ事業/土事業				
第8回	地域包括ケアとリハビリテーション：求められる「包括」的視点				
第9回	日常生活の可能性を広げるケア：リハビリ前置主義				
第10回	課題研究1：「医療と介護」の連携を考える(地域包括ケアとリハビリ職)				
第11回	なじみの関係をあきらめないために何が必要なのか？：連携と協働				
第12回	地域包括ケアシステムがなぜいま求められるのか？：背景				
第13回	課題研究2：「医療と介護」の連携を考える(地域包括ケアとリハビリ職)				
第14回	課題研究3：「医療と介護」の連携を考える(地域包括ケアとリハビリ職)				
第15回	授業の要点：医療と保健福祉の連携を学ぶ(整理)				
教科書及び参考書					
特になし					
成績評価方法					
単元要約60点、意見発表10点、課題研究30点、定期試験100点の総合点で評価					
オフィスアワー					
質問等は開講時に指定する「フォーム」に記入してください(後日、返答します)					
履修にあたって必要な予備知識など					
社会学で学修したキーワード「生きること(ICF)」を思い出してください					
備考					
受講生には、知識の抜けを防ぎ、定着させることを優先して、「復習」を推奨します 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	作業療法概論	1単位	1年前期	渡邊基子	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
リハビリテーション		リハビリテーション領域における作業療法の概念、定義、役割を学習し、その独自性と特長を理解する。それを基盤として作業療法のあるべき姿、現状の課題について説明することができる。			
作業療法					
病気と障害					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1:人を尊び、多様な価値観を理解し、人の輪の中で守るべき秩序を持って、地域住民に対して身体的・精神的苦痛に寄り添うことができる能力を有している。					
授業の概要					
生から死に至る様々なライフステージ（乳幼児から高齢者）における保健（予防）・医療（治療）・福祉（ケア）の一端を担うリハビリテーション医療の作業療法の位置付けを明確に展開する。作業療法の発展（歴史）を学ぶと同時に、日頃あえて意識することなく行っている日常生活活動を治療・指導・援助に生かせる作業療法の独自性と特長を理解する。さらに理学療法との違いを明確にすると共に、作業療法の基本的な知識を身につける。					
授業計画					
第1回	オリエンテーション、作業療法を学ぶ前に				
第2回	「作業」とは				
第3回	「作業療法」とは				
第4回	作業療法の歴史、世界の作業療法				
第5回	作業療法士の対象と領域				
第6回	作業療法の実践過程				
第7回	作業療法の理論と技術				
第8回	作業療法の研究、エビデンス				
第9回	作業療法の教育				
第10回	関連法規と職能団体				
第11回	身体障害領域の作業療法①				
第12回	身体障害領域の作業療法②				
第13回	精神障害領域の作業療法				
第14回	発達障害領域の作業療法				
第15回	老年期障害領域の作業療法、まとめ				
教科書及び参考書					
作業療法概論テキスト 南江堂					
成績評価方法					
授業への取り組み状況、提出課題などから総合的に評価する					
オフィスアワー					
水曜日・木曜日・金曜日：13時～17時					
履修にあたって必要な予備知識など					
特記なし					
備考					
作業療法の基礎を包括的に学習する当該科目の学習効果を得るために復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	作業療法基礎セミナー I	1単位	1年前期	皆藤知美(責任者)/石上	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
コミュニケーション能力		グループワークを通して、学生間のコミュニケーション能力を高め、科学的な根拠に基づいた内容から検証することができる			
プレゼンテーション					
作業活動					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1:人を尊び、多様な価値観を理解し、人の輪の中で守るべき秩序を持って、地域住民に対して身体的・精神的苦痛に寄り添うことができる能力を有している。					
DP2:作業療法士として地域住民を取り巻く多職種と信頼関係を築く為の円滑なコミュニケーション能力を有し、様々な分野の専門職業人と課題を共有して協働することができる。					
DP3:作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
授業の概要					
<p>本科目では、作業療法士を目指す学生に対して、まずはじめにどのような資質が求められるかについて検討する。さらに、作業療法士の現状や課題、地域社会の課題や解決方法等をグループワークを行いながら演習形式で開講する。グループワークを通して、学生間のコミュニケーション能力を高め、科学的な根拠に基づいた内容から検証していく事とする。</p>					
授業計画					
第1回	グループワークの効果、プレゼンテーションの仕方、論理的な文書の書き方				
第2回	他者交流のための自己開示と他者理解				
第3回	作業療法士を目指す学生の心構え（グループワーク）				
第4回	グループワーク発表、振り返り、総評				
第5回	コミュニケーション技能（概論）				
第6回	コミュニケーション技能（発表・ロールプレイ）				
第7回	作業の体験と分析①（実施・分析）				
第8回	作業の体験と分析②（実施・分析） 渡邊・皆藤				
第9回	作業の体験と分析③（実施・分析） 渡邊・皆藤				
第10回	作業療法士の役割と他職種連携について（グループワーク）				
第11回	グループワーク発表、振り返り、総評				
第12回	地域リハビリテーションに関連する制度（グループワーク）				
第13回	グループワーク発表、振り返り、総評				
第14回	地域特性と社会資源について（調べ学習）				
第15回	振り返り				
教科書及び参考書					
適宜資料を配布する					
成績評価方法					
レポート課題100%					
オフィスアワー					
皆藤 月曜日・木曜日：終日					
石上 木曜日・金曜日：13時～17時					
履修にあたって必要な予備知識など					
グループワークの仕方について事前に確認しておくこと					
備考					
主体的な学修をすること。学習効果を得るために予習・復習の時間を確保すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	作業療法基礎セミナーⅡ	1単位	1年後期	渡邊基子(責任者)/石上	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード			学修教育目標(学修成果)		
コミュニケーション能力			対象者を支援したいという気持ちを持ちながら批判的思考・自己学習能力・コミュニケーション能力などを獲得することができる。		
プレゼンテーション					
作業活動					
自己学習					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1:人を尊び、多様な価値観を理解し、人の輪の中で守るべき秩序を持って、地域住民に対して身体的・精神的苦痛に寄り添うことができる能力を有している。					
DP2:作業療法士として地域住民を取り巻く多職種と信頼関係を築く為の円滑なコミュニケーション能力を有し、様々な分野の専門職業人と課題を共有して協働することができる。					
DP3:作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
授業の概要					
本科目では、多くの医学的情報を収集し・分析し、科学的根拠に基づきながらこれらを解釈していく作業をグループワークで行いながら演習形式で開講する。事例を通してクリニカルリーズニングを小グループで実施することで、対象者を支援したいという気持ちを持ちながら、批判的思考・自己学習能力・コミュニケーション能力などを獲得するようにしていく。					
授業計画					
第1回	通所・訪問リハビリテーション実習の振り返り①（全回とも渡邊・石上が担当）				
第2回	通所・訪問リハビリテーション実習の振り返り②				
第3回	通所・訪問リハビリテーション実習の振り返り（発表）①				
第4回	通所・訪問リハビリテーション実習の振り返り（発表）②				
第5回	作業の体験と分析（企画）				
第6回	セルフコーチング①				
第7回	セルフコーチング②				
第8回	作業の体験と分析（運営・実施）				
第9回	作業の体験と分析（振り返り）				
第10回	事例検討のオリエンテーションおよび用語の調べ学習				
第11回	事例検討（ワーク）				
第12回	現状確認				
第13回	調べ学習				
第14回	自身の振り返りと今後の目標				
第15回	発達領域に関する実践について				
教科書及び参考書					
適宜資料を配布する					
成績評価方法					
授業への取り組み状況、提出課題などから総合的に評価する					
オフィスアワー					
渡邊 水曜日・木曜日・金曜日：13時～17時					
石上 月曜日・水曜日・木曜日 10時30分～12時50分、17時00分～17時50分					
履修にあたって必要な予備知識など					
グループワークの仕方について事前に確認しておくこと					
備考					
主体的な学修をすること。 学習効果を得るために予習・復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	早期体験実習 I	1単位	1年後期	野村 聖子(責任者)/董	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
障害のある幼児、児童等の支援		各施設における職業内容を把握するとともに職業倫理を高めることができる。また、作業療法士として、地域社会に貢献したいという思いが持てるように主体的に学修できる。			
地域在住高齢者の支援					
コミュニケーション能力					
主体的な学修					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1:人を尊び、多様な価値観を理解し、人の輪の中で守るべき秩序を持って、地域住民に対して身体的・精神的苦痛に寄り添うことができる能力を有している。					
DP2:作業療法士として地域住民を取り巻く多職種と信頼関係を築く為の円滑なコミュニケーション能力を有し、様々な分野の専門職業人と課題を共有して協働することができる。					
DP4:作業療法士として地域社会に貢献したいという思いが強く、幅広い教養と柔軟な発想力を持って、常に努力することができる。					
DP5:作業療法士として変化し得る様々な課題に対して、使命感と責任感のもとで自ら学び続ける探求心を持ち、研究することができる。					
DP6:作業療法士として地域で生活する障害のある幼児、児童等もしくは高齢者の課題に対して、新たな支援を展開して貢献できる。					
授業の概要					
<p>障害のある幼児、児童等や地域在住高齢者の支援に貢献できる人材を養成するために、療育支援グループ、特別支援学校、地域包括支援センター、介護予防事業の見学を実施する。見学や施設の職員からの情報を基にして、各施設における職業内容を把握するとともに職業倫理を高める態度を養っていくため、作業療法士以外の職種と良好なコミュニケーションを取るための技術を学修する。また、作業療法士として、地域社会に貢献したいという思いが持てるように主体的に学修していく。</p>					
授業計画					
1日目	オリエンテーション、実習セミナー(実習施設内でのマナー、倫理的配慮)				
2日目	療育支援グループ、特別支援学校、地域包括支援センター、介護予防事業の見学(各1施設)				
3日目	療育支援グループ、特別支援学校、地域包括支援センター、介護予防事業の見学(各1施設)				
4日目	療育支援グループ、特別支援学校、地域包括支援センター、介護予防事業の見学(各1施設)				
5日目	療育支援グループ、特別支援学校、地域包括支援センター、介護予防事業の見学(各1施設)				
教科書及び参考書					
特に定めず					
成績評価方法					
提出課題(100%)					
オフィスアワー					
野村 火・水曜日13時00分～17時30分					
董 玖伶(どん うえんりん) メールにて事前に相談してください					
履修にあたって必要な予備知識など					
リハビリテーション概論、作業療法概論の復習をしておくこと。					
備考					
学外での実習となります。社会的モラルには十分意識すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	通所・訪問リハビリテーション実習	1単位	1年前期	董 玫伶(実習責任者)/皆藤 知美(実習調整者)他教員	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
通所リハビリテーション		指導者の助言・指導を受けながら、通所・訪問リハビリテーションの利用者と主体的に良好なコミュニケーションを取り、通所・訪問リハビリテーションの目的意義を説明することができる。			
訪問リハビリテーション					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1:多様な価値観を理解しながら尊重し、林史観をもって対象者の生活を支援できる能力を有している。					
DP2:作業療法士として地域住民を取り巻く多職種と信頼関係を築く為の円滑なコミュニケーション能力を有し、様々な分野の専門職業人として協働することができる。					
DP3:作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
DP4:作業療法士として地域社会に貢献したいという思いが強く、幅広い教養と柔軟な発想力をもって、常に努力することができる。					
DP5:作業療法士として変化し得る様々な課題に対して、使命感と責任感のもとで自ら学び続ける探求心を持ち、研究することができる。					
授業の概要					
通所・訪問リハビリテーションを有している実習施設にて、通所・訪問リハビリテーション場面を見学し、通所・訪問リハビリテーションの目的並びに意義を考察する。また、利用者ならびに家族、利用者本人に関わる多職種からの生活状況や症状、障害などを聴取し、利用者ならびに家族のニーズを引き出すためのコミュニケーション技術も学修する。これらの実践を主体的に行うために日々の記録をまとめ、作業療法士として社会に貢献していくために臨床的課題や解決方法について指導者と共に思考する。その内容を実習終了後に学内で報告する。					
授業計画					
【実習前】	オリエンテーション、OSCE、実習セミナー				
1日目	実習施設にて作業療法場面の見学と情報収集				
	実習施設での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
2日目	実習施設にて作業療法場面の見学と情報収集				
	実習施設での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
3日目	実習施設にて作業療法場面の見学と情報収集				
	実習施設での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
4日目	実習施設にて作業療法場面の見学と情報収集				
	実習施設での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
5日目	実習施設にて作業療法場面の見学と情報収集				
	実習施設での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
【実習後】	実習の振り返り、OSCE、実習報告会				
教科書及び参考書					
実習の手引き（アール医療専門職大学）					
成績評価方法					
実習指導者評価・実習課題、提出課題、実習報告会などを、総合的に評価する。					
オフィスアワー					
董	月～木曜日	10時00分～12時00分	15時00分～17時00分		
皆藤	月～木曜日	10時00分～12時00分	15時00分～17時01分		
履修にあたって必要な予備知識など					
実習対象施設について、確認をしておくこと					
備考					
主体的に実習に臨むこと。【実習前】OSCEは、実習参加の可否を決定する診断評価として実施し、【実習後】OSCEは、実習参加後の習熟度評価として実施する。【実習前】の試験が不合格の場合は、補習期間を設け再試験とする。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
展開科目	地域創生論	2単位	1年前期	岡村正洋	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
地域創生		地域の課題や特別支援教育を必要とする幼児児童生徒一人ひとりの学習上の困難さ等を理解し、作業療法士・理学療法士としてどんな支援や教員等との連携ができるかを考え、障害のある子どもたちの可能性を引き出すための方法や方策を考える。			
特別支援教育					
発達段階・合理的配慮					
連携					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
P8: 学習上または生活上の困難のある幼児児童生徒一人ひとりの就学前・就学後におけるニーズを把握し、適切な指導及び支援やそうした幼児児童生徒に関わる教職員への助言方法など障害のある幼児児童生徒の支援に貢献することができる。					
授業の概要					
現代社会の諸問題や茨城県や地域が抱える課題等について主体的に考えるとともに、障害のある児童生徒の現状や課題について知ることにより、作業療法士・理学療法士として、どんな支援が効果的かを考えたり、教員を含め他業種との連携を進めていくには何が必要かを考えたりしながら、専門職としてのキャリアアップを図る。					
授業計画					
第1回	現代社会の諸問題について①	(講義・演習)			
第2回	現代社会の諸問題について②	(講義・演習)			
第3回	茨城県の課題・未来について考える (教育・福祉)	(講義・演習)			
第4回	小児の発達について	(講義・演習)			
第5回	茨城県における視覚障害教育学校の授業の実際と対応	(講義・演習)			
第6回	茨城県における聴覚障害教育学校の授業の実際と対応	(講義・演習)			
第7回	茨城県における知的障害教育学校の授業の実際と対応	(講義・演習)			
第8回	茨城県における肢体不自由教育学校の授業の実際と対応	(講義・演習)			
第9回	茨城県における病弱教育学校の授業の実際と対応	(講義・演習)			
第10回	発達障害について① (ASD)	(講義・演習)			
第11回	発達障害について② (ADHD)	(講義・演習)			
第12回	発達障害について③ (LD)	(講義・演習)			
第13回	高次脳障害・精神障害への対応	(講義・演習)			
第14回	不登校・ひきこもり、虐待の現状と課題	(講義・演習)			
第15回	振り返り、まとめ	(講義・演習)			
教科書及び参考書					
滝川一廣 「子どものための精神医学」 医学書院 ※参考書					
成績評価方法					
定期試験 100%					
オフィスアワー					
e-mailでの事前連絡をお願いします。okamura@u.a-ru.ac.jp					
履修にあたって必要な予備知識など					
「NHKハートネット」のHPや「ハートネットTV」などを時々見てほしい。					
備考					
事前に講義資料を各学生に送信するので、目を通しておいてほしい。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
展開科目	世代間交流論	2単位	1年前期	幅崎 麻紀子	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
持続可能な社会づくり	地域社会 コミュニケーション 相互支援	世代間交流の意義や世代間交流の視点から、子ども・若者、育児世代、高齢者等の各世代が抱える問題を捉え、その背景や要因を探る。その上で、多世代交流を通じて、地域の抱える諸問題を解決する方法を学び、より総合的な思考や支援方法が身につくことを目標とする。			
地域社会					
コミュニケーション					
相互支援					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1：地域に暮らす多様な価値観を持った人々への生活・文化を尊重することができる DP3：良好なコミュニケーションをとり、協調性に優れ周囲の人に寄り添うことができる					
授業の概要					
社会的なつながりの目的と方法が変化し続ける現代社会において、これまで個人と家族あるいは地域とのつながりを形成するうえで主な役割を担ってきた世代間交流のあり方も変化してきている。この授業では、世代間交流の背景にある考え方、役割、取り組みについて学び、地域課題の解決策としての世代間交流のあり方について考える。					
授業計画					
第1回	世代間交流とは何か				
第2回	世代間交流の歴史				
第3回	家族の変容と世代間交流について考える				
第4回	地域の変容と世代間交流について考える				
第5回	世代間交流の視点から社会課題を検討する①（演習）				
第6回	世代間交流の視点から社会課題を検討する②（演習）				
第7回	多世代交流の場づくり：子育て世代と高齢者の世代間交流①（事例研究）				
第8回	多世代交流の場づくり：子育て世代と高齢者の世代間交流②（事例研究）				
第9回	世代間交流の意義と方法の理解				
第10回	多世代交流プログラムの企画検討（演習）				
第11回	多世代交流の場の運営①：「幼老複合」の実践例（事例研究）				
第12回	多世代交流の場の運営②：「幼老複合」の実践例（事例研究）				
第13回	世代間交流プログラムの検討①（演習）				
第14回	世代間交流プログラムの検討と発表②（演習）				
第15回	世代間の視点からみた世代間交流のあり方				
教科書及び参考書					
教科書：適宜、プリントを配布します。 参考書：世代間交流学の創造（あけび書房）					
成績評価方法					
出席状況・授業時の意欲・課題提出／発表（ミニレポート等）50%、学期末試験（もしくは課題）50%					
オフィスアワー					
e-mailでの事前連絡をお願いします。habazaki@u.a-ru.ac.jp					
履修にあたって必要な予備知識など					
講義に関連する資料やネット・新聞記事などに目を通してください。					
備考					
授業の進捗や受講者の関心等に応じて、内容や講義の順番を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	災害支援論Ⅱ	1単位	2年前期	上野 修(責任者)/鈴木	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
災害支援論		学生が災害発生時に迅速かつ効果的な支援を提供できる専門的な知識と技術を習得することを目指します。具体的には、災害の影響を受けた地域社会に対し、物資、医療、心理的支援、復興活動を総合的に実施できる能力を養います。また、災害支援における倫理的問題や社会的責任を認識し、協力して支援活動を行うためのリーダーシップやチームワーク能力を育成します。さらに、災害後の評価と改善のため、継続的な学びと自己改善の意識を高めます。			
災害時の役割					
災害時の事前準備					
リーダーシップ					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
災害支援論は、ディプロマ・ポリシーに沿った教育を提供し、学生に災害支援に必要な知識、技能、倫理的視点を養うことを目指しています。学生は、理論と実践を通じて問題解決能力を高め、倫理的な責任を意識しながら、災害支援の現場でリーダーシップとチームワークを発揮できるようになります。また、災害支援活動を学び、社会的貢献を果たすための具体的なスキルを身につけることができます。					
授業の概要					
この授業では、災害発生時における支援活動の基本的な知識を学びます。学生は、災害時に必要な物資の調達、医療支援、避難所運営、心理的ケアなど、幅広い支援の方法を総合的に理解し、効果的に対応する能力を養います。授業内容は、災害の種類や影響、災害支援の計画と実行方法、そして支援後の復興活動に関する理論を中心に進められます。さらに、災害支援における倫理的問題や社会的責任についても学び、実際の支援現場でのリーダーシップやチームワークの重要性を強調します。授業では、シミュレーションやケーススタディを通じて、現場で役立つ実践的な知識も習得します。					
授業計画					
第1回	災害時のリハビリテーションの緊急対応				
第2回	移動支援と交通手段の確保				
第3回	チーム医療と災害支援				
第4回	災害支援後のフォローアップ				
第5回	災害支援における倫理的問題				
第6回	災害時のコミュニケーション				
第7回	今後の課題				
第8回	まとめ				
教科書及び参考書					
PPTによる授業を行います。					
成績評価方法					
定期試験100%					
オフィスアワー					
授業後に対応					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	人間関係論	1単位	2年前期	野村聖子	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
人間関係の心理		人間関係の意義、病理、社会的相互作用など、人間関係に関する基礎理論を学び、さらに、医療者としての適切な人間関係を説明することができる。			
人間関係の病理					
友人との人間関係					
障害がある人との関係					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP2: 作業療法士として地域住民を取り巻く多職種と信頼関係を築く為の円滑なコミュニケーション能力を有し、様々な分野の専門職業人と課題を共有して協働することができる。					
授業の概要					
社会心理学、特に対人心理学の基礎、人間関係を自分の課題としてとらえて対処していく考え方、現代社会における人間関係上の病理、患者との人間関係を円滑に進めるための意識、親、子ども、夫婦の関係を正常に保つための知識、恋愛や友情の理論、高齢者や障害がある人との人間関係を適正に保つための知識を教授する。					
授業計画					
第1回	人間関係の心理				
第2回	人間関係の病理				
第3回	友情と恋愛				
第4回	高齢者との関係、子供の発達と愛着				
第5回	障害のある人との関係 1				
第6回	障害のある人との関係 2				
第7回	障害のある人との関係 3				
第8回	人間関係の難しさと解決のための考え方				
教科書及び参考書					
参考書：徳田克己・水野智美編著、『ここだけは押さえない 人間関係学』文化書房博文社。授業でも内容を取り上げますので、ぜひ読んでみて下さい。					
成績評価方法					
2～8回目の授業時にレポートを出す。その内容は、①提示されたケースについて複数の立場から考えたこと、②授業に関する質問。計7回のレポートで成績をつける。					
オフィスアワー					
水曜日(必ず連絡・約束をしてから来ること) nomura@u.a-ru.ac.jp					
履修にあたって必要な予備知識など					
自分の持っている人間関係に名前が付けられるようになる授業です。それぞれの立場で考えてみるのが大切です。					
備考					
学習効果を得るために復習の時間(考える時間)を確保すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	アクセシビリティリーダー論	1単位	2年後期	新田 収	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
障害		社会モデルに基づく正しい障害の定義を説明できる。社会的障壁を除去するための合理的配慮の在り方についてアクセシビリティの観点から説明できる。			
ICFと社会モデル					
合理的配慮					
アクセシビリティ					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
(リハビリテーション学部DP:1, 2, 4, 6, 8) (理学療法学科DP:1, 3, 6) (作業療法学科DP:1, 3, 6, 7)					
授業の概要					
障害を含め、多様な人々が包摂された社会を実現するためのリーダーとなれる人材として必要な知識を学ぶ。具体的には身体障害や発達障害といった様々な障害の理解やその支援、障がいのある人に役立つ支援技術、諸外国の状況や今日的话题等を通して、多様な背景のある人々が共生することのできる社会とはどのような社会なのかについて考える力を身につける。					
授業計画					
第1回	アクセシビリティとは				
第2回	発表テーマの検討				
第3回	視覚障害者の理解とアクセシビリティ				
第4回	聴覚障害者の理解とアクセシビリティ				
第5回	肢体不自由者の理解とアクセシビリティ				
第6回	内部障害の理解とアクセシビリティ				
第7回	発表と討論				
第8回	発表と討論				
教科書及び参考書					
資料配布					
成績評価方法					
レポート(50%)と発表(50%)					
オフィスアワー					
月曜日12時50分～17時50分 木曜日以外の午前中：職員室					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし					
備考					
都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	中国語	1単位	2年前期	董玫伶	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
中華文化理解		<p>本科目では、中華文化の紹介、中国語（標準語）の基礎発音や会話をグループワークの形式で楽しく読み進めながら、基礎的な日常コミュニケーションや読解力の習得を目指す。具体的には漢字とその発音の練習、初級語彙、単語、文法、日常表現について、初めて中国語に接する学生にも楽しめるように習得できるよう基礎レベルの知識を学ぶ。また、リハビリテーション医療現場で様々な場面を想定して中国語のコミュニケーション力を高める。</p>			
日常コミュニケーション					
グループワーク					
リハビリテーション現場での中国語					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
<p>DP1：地域に暮らす多様な価値観を持った人々への生活・文化を尊重することができる。 DP3：良好なコミュニケーションをとり、協調性に優れ周囲の人に寄り添えることができる。</p>					
授業の概要					
<p>中国語（標準語）の発音と発音表記法を正しく身に付け、基礎文法と語彙を学ぶことで、初めて中国語に接する学生にも楽しめるように基礎レベルの知識を学ぶ。使用される漢字と日本の常用漢字の違いを理解した上で、基礎的な語句を正しく読み書きができ、基本的な文型を作れると同時に、医療場面でも簡単な中国語でコミュニケーションが取れることを目指す。</p>					
第1回					
第1回		授業の進め方・中華文化の紹介			
第2回					
第2回		中国語の漢字と日本の常用漢字の違い			
第3回					
第3回		ピンイン・声調			
第4回					
第4回		母音・子音・変調			
第5回					
第5回		文の構造・人称代名詞・数詞・量詞			
第6回					
第6回		医療現場で役立つ中国語1			
第7回					
第7回		医療現場で役立つ中国語2			
第8回					
第8回		グループプレゼンテーション			
教科書及び参考書					
講義に関する資料をGoogle Classroomに示す。					
成績評価方法					
出席・授業への姿勢（60％）グループプレゼンテーション（40％）					
オフィスアワー					
月曜日13時から15時					
履修にあたって必要な予備知識など					
特記事項なし					
備考					
予習と復習を行うこと。グループ練習とプレゼンテーション。クイズ、ゲームあり。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	韓国語	1単位	2年前期	金 美貞	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
韓国語の発音		韓国語の入門クラスとして、韓国語の文字と発音を習得し、文法を理解しながら簡単な作文や読解を練習する。挨拶や自己紹介など基礎的なコミュニケーションスキルを身につけるとともに、シチュエーションに合わせた表現を学び会話力を高める。また、韓国映画やドラマなどのメディアを活用し、韓国社会や文化への理解を深める。			
母音と子音、パッチム					
自己紹介と会話					
練習問題					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
初級韓国語講義を修了することで、韓国語の文字、基礎的な文法、語彙を理解できるようになり、外国語の理解力を向上できる。また、韓国の文化、習慣、価値観を理解し、多様な文化に対する理解を深めることができる。					
授業の概要					
初級韓国語講義は、韓国語を初めて学ぶ学生を対象に、韓国語の文字を読むことができるようになることを目的とする。また、韓国語の基礎的な文法、語彙、聴解力、発音、会話スキル等も学ぶ。授業は、第8回までで構成されている。					
授業計画					
第1回	韓国語の基礎と発音練習Ⅰ（発音の仕方、母音と子音、単語の発音練習）				
第2回	韓国語の基礎と発音練習Ⅱ（複合母音、パッチム、発音の変化説明及び練習）				
第3回	韓国語の基本表現と文法（簡単な自己紹介の練習、簡単な会話の練習）				
第4回	韓国語の基本表現と文法（教科書の第1課及び第2課の文法と練習問題）				
第5回	韓国語の基本表現と文法（自己紹介の続き、教科書の第3課の文法と練習問題）				
第6回	韓国語の基本表現と文法（教科書の第4課の文法と練習問題）				
第7回	韓国語の基本表現と文法（教科書の第5課の文法と練習問題）				
第8回	振り返り、まとめ（講義のまとめ、総合的な練習問題の解説、インタビュー）				
教科書及び参考書					
教科書：基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版（国書刊行会） ※参考書：文法から学ぶ韓国語 李 昌圭（ナツメ社）					
成績評価方法					
レポート課題の提出（60%）、学期末試験（40%）					
オフィスアワー					
授業後に対応					
履修にあたって必要な予備知識など					
特記なし					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	運動学 I	1単位	2年前期	久保田智洋	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
生体力学		運動の基礎として関節ごとに運動がどのようにして成立しているかを科学的根拠を基に説明できるようにする。			
四肢と体幹の運動					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
授業の概要					
人間の身体運動を理解するために、現象としての身体運動を力学、解剖学と生理学へ還元して説明する。運動を科学的根拠の中から説明できるようにするために運動の基礎として関節ごとに概説していく。各関節がどのようなメカニズムで運動を成立させるのかを学修していく。さらに、各関節がどのような関係性を持って運動を行っているかについても学修する。					
授業計画					
第1回	関節運動、筋活動の分析について				
第2回	筋活動について				
第3回	到達度演習				
第4回	上肢帯と肩関節				
第5回	上肢帯と肩関節				
第6回	上肢帯と肩関節				
第7回	到達度演習				
第8回	肘関節・前腕の運動学				
第9回	手関節、手指の運動学				
第10回	下肢・体幹の運動学				
第11回	到達度演習				
第12回	運動と活動分析について①				
第13回	運動と活動分析について②				
第14回	運動と活動分析について(まとめ)				
第15回	運動と活動分析について(発表)				
教科書及び参考書					
セラピストのための基礎4科目テキスト運動学 著：新田収 三輪書店					
成績評価方法					
各到達度演習と発表の点数の平均点を成績評価とする。					
オフィスアワー					
水曜日10時～12時					
履修にあたって必要な予備知識など					
人体構造学の復習をしておくこと					
備考					
到達度演習やレポート課題等においては、提出の期日を厳守すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	運動学Ⅱ	1単位	2年後期	久保田智洋	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
姿勢		姿勢、歩行、走行等についての運動学的理論背景、運動発達理論、運動学習理論を科学的根拠に基づき説明できるようになる。			
歩行					
運動発達					
運動学習					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
授業の概要					
姿勢、歩行、走行等についての運動学的理論背景を学修し、理解を深め、第3者に説明できるようにする。臨床における課題を発見できるように運動学的理論においては経験則的な視点だけでなく、科学的根拠を基に理解することに徹していく。また、運動発達、運動学習理論についても説明し、同様に科学的根拠に基づく理論について深く追及する。					
授業計画					
第1回	姿勢分析・動作分析の概要・実践				
第2回	寝返り・起き上がりにおける動作分析の概要・実践①				
第3回	寝返り・起き上がりにおける動作分析の概要・実践②				
第4回	事例を用いた寝返り・起き上がりの動作分析①				
第5回	事例を用いた寝返り・起き上がりの動作分析②				
第6回	寝返り・起き上がりのまとめ				
第7回	立ち上がりにおける動作分析の概要・実践①				
第8回	事例を用いた立ち上がりの動作分析①				
第9回	事例を用いた立ち上がりの動作分析②				
第10回	立ち上がりのまとめ				
第11回	歩行分析について①				
第12回	歩行分析について②				
第13回	事例を用いた歩行の動作分析①				
第14回	事例を用いた歩行の動作分析②				
第15回	歩行分析のまとめ				
教科書及び参考書					
PT・OTビジュアルテキスト 姿勢・動作・歩行分析 第2版(畠中泰彦)羊土社					
成績評価方法					
各まとめの点数の平均点を成績評価とする。この点数が60点に満たない場合は、再試験（レポート課題等）を行う。					
オフィスアワー					
水曜日10時00分～12時50分					
履修にあたって必要な予備知識など					
人体構造学の復習をしておくこと					
備考					
課題については、指定された期日を厳守すること。都合により内容を変更する場合があります。					

科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	1単位	2年前期	呉世祖	必修
授業科目の学修教育目標				
キーワード	学修教育目標(学修成果)			
エネルギー代謝	運動時の生体反応と運動・トレーニングに対する適応機序を理解し、医療・リハビリテーションにおける運動処方の基本を科学的根拠に基づいて説明できるようになる。			
骨格筋適応				
運動処方				
ディプロマ・ポリシーとの関連				
本授業は、理論に裏付けられた専門的知識を修得し、科学的根拠に基づいて医療・リハビリテーションを実践する能力の基盤形成に関連する。運動生理学的理解を通じて、臨床で必要となる判断力の修得を目指す。				
授業の概要				
運動時の生体反応および運動・トレーニングに対する適応機序を体系的に学修する。体力とエネルギー代謝を基盤に、骨格筋、神経系、内分泌・体液調節、疲労・回復を扱い、後半で医療・リハビリテーションへの応用として運動処方とリスク管理を学ぶ。健康増進と臨床実践に必要な基礎知識の修得を目指す。				
授業計画				
第1回	総論・基礎概念系（運動生理学の基礎概念、体力）			
第2回	エネルギー代謝①（生体エネルギー代謝の基礎、ATPの生成と利用）			
第3回	エネルギー代謝②（無酸素、有酸素、糖質・脂質・タンパク質代謝）			
第4回	エネルギー代謝③（運動時のエネルギー供給機構）			
第5回	骨格筋生理①（骨格筋の構造と機能）			
第6回	骨格筋生理②（運動・トレーニングに対する筋適応）			
第7回	内分泌・体液調節①（内分泌系による生体調節）			
第8回	内分泌・体液調節②（運動時のホルモン・体液応答）			
第9回	神経系・運動制御①（神経系による運動制御の基本）			
第10回	神経系・運動制御②（運動時の神経活動と調節）			
第11回	疲労・回復①（運動疲労の生理学）			
第12回	疲労・回復②（回復過程とコンディショニング）			
第13回	臨床・リハビリ応用①（医療・リハビリテーションへの応用）			
第14回	臨床・リハビリ応用②（運動処方とリスク管理）			
第15回	臨床・リハビリ応用③（疾患・障害特性を踏まえた運動介入）			
教科書及び参考書				
適宜資料を配布する。				
成績評価方法				
レポート課題30%、定期試験60%、授業への積極的参加度 10%				
オフィスアワー				
水曜日・金曜日10時00分～11時00分、17時00分～17時50分				
履修にあたって必要な予備知識など				
特記なし				
備考				
学習効果を得るために復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。				

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	人間発達学	1単位	2年前期	新田 収	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
生涯発達		1 生涯発達の概要を生活期ごとに説明できる 2 乳幼児期の運動・認知発達を説明できる 3 発達の法則と発達理論の特徴を説明できる 4 発達を理学療法に応用する方が説明できる			
身体の発達					
運動および認知の発達					
心理および社会の発達					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
授業の概要					
生涯にわたる人間の身体・運動・認知・心理・社会の諸側面にわたって「発達」の現象と時系列におけるその変容を学ぶ。併せて、それらの理解の中から「発達」の法則性や変容が生じるメカニズム、発達理論の特徴について学ぶ。					
授業計画					
第1回	人体の発生				
第2回	骨と筋の発生				
第3回	1歳までの運動発達				
第4回	姿勢反射				
第5回	1歳からの運動発達				
第6回	感覚の発達				
第7回	上肢機能の発達				
第8回	目と手の協調				
第9回	運動イメージと空間イメージの発達				
第10回	認知と記憶の発達				
第11回	コミュニケーションと言葉の発達				
第12回	日常生活活動の発達				
第13回	遊びの発達				
第14回	青年期・成人期				
第15回	まとめと解説				
教科書及び参考書					
教科書：セラピストのための基礎4科目テキスト 人間発達学, 三輪書店					
成績評価方法					
到達度定着演習50%、試験50%					
オフィスアワー					
月曜日12時50分～17時50分					
履修にあたって必要な予備知識など					
1年次の発生生物学と発達心理学を振り返ると本講義の理解の助けになります 本講義は2年次の発達障害系理学療法学と発達障害理学療法学実習につながる科目です * 予習として教科書該当部分を通読しておくこと (30分程度) * 復習として理解できたことと曖昧なところを簡潔にまとめること (45分程度)					
備考					
都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	運動学実習	1単位	2年前期	久保田智洋(責任者)/石上	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
骨の触診		骨、靭帯、筋の触診が、科学的根拠を持って段階的に理解できること共に、実際に人体を通して触診ができるようになる。			
靭帯の触診					
筋の触診					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
授業の概要					
骨と骨指標を効果的に触診することは筋触診に進む前に到達しなければならない。そのために、骨、骨指標の触診法の技術について説明する。次いで、骨格筋の触診について説明し、それぞれの筋について触診手段を段階的に理解した上で容易に学習出来るよう、各々の手順の科学的根拠についても概説する。さらに、各筋におけるトリガーポイントも説明する。					
授業計画					
第1回	オリエンテーション(講義・成績等)、触診の基本(基本肢位、姿勢の表し方、触診技術)				
第2回	骨の触診(肩甲帯、上腕)				
第3回	骨の触診(肩甲帯、上腕)				
第4回	骨の触診(肩甲帯、上腕)				
第5回	到達度確認演習				
第6回	筋の触診(肩甲骨、上肢)				
第7回	筋の触診(肩甲骨、上肢)				
第8回	筋の触診(肩甲骨、上肢)				
第9回	到達度確認演習				
第10回	運動学の視点を活かした活動分析(説明およびグループワーク)				
第11回	運動学の視点を活かした活動分析(分析①)				
第12回	運動学の視点を活かした活動分析(分析②)				
第13回	運動学の視点を活かした活動分析(分析とまとめ)				
第14回	運動学の視点を活かした活動分析(発表用資料作成)				
第15回	運動学の視点を活かした活動分析(グループ発表)				
教科書及び参考書					
運動療法のための機能解剖学的触診技術動画プラス上肢[Web動画付]改訂第2版林典雄 著(メジカルビュー社)					
成績評価方法					
各到達度確認演習の平均点を成績評価とします。もし、60点に満たない場合は、再試験を実施する。					
オフィスアワー					
水曜日10時～12時					
履修にあたって必要な予備知識など					
骨、靭帯、筋の解剖学的知識を復習しておくこと。					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	神経解剖学	1単位	2年前期	田辺 勇人	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
大脳半球（皮質・髄質）、大脳辺縁系、大脳基底核、間脳、中脳、橋、延髄、脊髄、小脳、下行性伝導路、視覚伝導路、平衡覚伝導路、聴覚伝導路、味覚伝導路、嗅覚伝導路、脳の血管		中枢神経系の各部位の構造と神経路、その機能的意味、さらに機能障害の発現機序について説明できる。			
ディプロマ・ポリシーとの関連					
理学療法学・作業療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法・作業療法を提供できる能力を有している。					
授業の概要					
中枢神経系はどのような部位から構成されているか、どのような働きをするのかについて学ぶ。とくに、神経系の機能障害を理解するための基礎として、どのような神経回路に基づいてその機能が発現されるかについて学ぶ。					
授業計画					
第1回	神経系の発生、脳の構成、大脳半球（皮質）の構造と機能局在				
第2回	大脳辺縁系、大脳髄質、大脳基底核				
第3回	間脳の構造と機能、中脳の構造と機能				
第4回	橋の構造と機能、延髄の構造と機能、脳幹網様体				
第5回	小脳の構造と機能、脳室・髄液と髄膜				
第6回	脊髄の構造と機能、脊髄反射				
第7回	運動系の概説、下行性伝導路				
第8回	上行性伝導路、視覚伝導路				
第9回	平衡覚伝導路、聴覚伝導路、味覚伝導路、嗅覚伝導路				
第10回	脳の血管				
第11回	標本観察と課題解決 1				
第12回	標本観察と課題解決 2				
第13回	標本観察と課題解決 3				
第14回	標本観察と課題解決 4				
第15回	標本観察と課題解決 5				
教科書及び参考書					
【教科書】 1. 資料配布 2. 透かしてみるとミルミルわかる!! 解剖学 学研					
成績評価方法					
定期試験 100%					
オフィスアワー					
クラブルームに記載します。またクラブルームで質問を受けます。遠慮なく！					
履修にあたって必要な予備知識など					
講義開始時に指示します					
備考					
授業中にしっかり理解してください。その場で質問！					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	病理学	1単位	2年前期	洪 建偉	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
各分野の医学専門用語		前期では、次の3つ目標に向かって勉強すること①病理学において数多くの医学専門用語を覚えることや病的現象を理解することが最初の目標とする。②総論において病理学の基本知識や疾患の共通点をしっかり把握すること。③疾患の成り立ちを理解すること。			
病気の成り立ちとメカニズム					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP2:高いレベルでのコミュニケーション能力を有し、様々な分野の専門職業人と協働することができる。医療が高度に発展し疾病構造が複雑になることで医療技術的にも良質なサービスが期待され、多様な医療関係職種間におけるチームワークによる医療を行うことが求められる。					
授業の概要					
病理学は基礎医学と臨床医学との結びつける学際領域の学問である。次の5つを中心として教えること①病理学において数多くの医学専門用語を覚えさせることや病的現象を理解させること。②前期の総論において病理学の基本知識や疾患の共通点をしっかり把握させること。③疾患の成り立ちを理解させること。④前期の内容は後期の各論におけるそれぞれの病気の基礎として理解し、病気の成り立ちや形成の原因もしっかり把握させること。⑤各疾患の病理所見の基本と臨床診療の要点との関連性などを把握させることとする。					
授業計画					
第1回	序論 病理とは、病理学の歴史、正常細胞の形態と超微細構造、疾患の種類				
第2回	退行性病変（1）萎縮、変性、壊死、細胞死、壊死とアポトーシスの違い				
第3回	退行性病変（2）代謝異常（糖質、脂質、蛋白質）、黄疸の原因や種類				
第4回	循環障害（1）概説 充血、うっ血、虚血の定義、出血の定義と分類				
第5回	循環障害（2）特殊な部位の出血、血栓症、DIC、塞栓症、梗塞				
第6回	循環障害（3）血栓症と塞栓症と梗塞の関連、水腫の分類、滲出液と漏出液				
第7回	先天異常と奇形 時期、原因、種類、Down, Turner, Klinefelter症候群				
第8回	進行性病変 肥大、増生、肉芽組織、移植の種類、拒絶反応、GVH反応				
第9回	一般炎症 炎症の原因、経過、種類、炎症の種類、滲出性炎、化膿性炎				
第10回	特殊性炎 肉芽腫、結核、梅毒、真菌、ハンセン病、サルコイドーシス				
第11回	免疫 概説 抗体と抗原、アレルギーの種類、AIDS、HIV、日和見感染				
第12回	腫瘍の定義、癌と肉腫、良悪性腫瘍の鑑別、各臓器に発生しやすいがん				
第13回	腫瘍の発育と進展、Virchow転移、TNM分類とStage分類、多発癌、重複癌				
第14回	腫瘍の発生、がん遺伝子、がんの診断手法、腫瘍マーカーなど				
第15回	病因論 内外因、公害病、医原病、老化と死、死の三徴候、脳死、植物状態				
第16回	前期期末試験				
教科書及び参考書					
教科書：シンプル病理学、参考書：エッセンシャル病理学、病理学-標準理学療法・作業療法学					
成績評価方法					
筆記試験					
オフィスアワー					
授業後に対応					
履修にあたって必要な予備知識など					
最低限の解剖学、生理学の知識が必要。					
備考					
できれば予習と復習が行うことですが、予習ができなければ、復習は必ずすること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	内科学	1単位	2年前期	菊池修一	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
循環器・呼吸器・消化器系疾患		内科的疾患について、疾患の概念と治療の基本的な考え方を説明できる。			
代謝・内分泌・腎疾患					
免疫・血液疾患					
栄養障害・中毒					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP4:理論に裏付けられた知識や技術を有し、科学的な考えと共に適切なリハビリテーションを実践することができる。					
授業の概要					
リハビリテーションを必要とする方々は、内科的な疾患を抱えていることも多い。循環器、呼吸器、消化器、代謝、腎疾患を中心とした内科的疾患の概念および治療の基本を、仕組みから学ぶことにより科学的根拠に基づいたリハビリテーションを実践できるようにする。					
授業計画					
第1回	循環器疾患(1)： 高血圧・虚血性心疾患				
第2回	循環器疾患(2)： 心電図・不整脈				
第3回	循環器疾患(3)： 心不全・末梢動脈疾患				
第4回	呼吸器疾患(1)： 呼吸器感染症				
第5回	呼吸器疾患(2)： 喘息・COPD				
第6回	呼吸器疾患(3)： 呼吸器系腫瘍性疾患				
第7回	消化器疾患(1)： 消化管疾患				
第8回	消化器疾患(2)： 肝胆膵疾患				
第9回	消化器疾患(3)： 消化器系腫瘍性疾患				
第10回	代謝性疾患： 糖尿病・脂質異常症・痛風				
第11回	内分泌疾患： 下垂体・甲状腺・副腎疾患				
第12回	腎疾患： 糸球体腎炎・腎不全				
第13回	免疫疾患： アレルギー・膠原病				
第14回	血液疾患： 貧血・白血病・悪性リンパ腫				
第15回	栄養・中毒： 栄養障害（フレイル）・薬物中毒				
教科書及び参考書					
『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学』前田眞治編 医学書院					
成績評価方法					
定期試験 100%					
オフィスアワー					
授業後に対応					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし					
備考					
単なる知識の暗記ではなく、講義内で説明した仕組みの理解を復習中心に進めてください。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	整形外科学	1単位	2年前期	田辺 勇人	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
整形外科		運動器疾患の概念、定義、診断と治療について、リハビリテーション関連職種として必要な知識を習得する			
病気と障害					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP4:理論に裏付けられた知識や技術を有し、科学的な考えと共に適切なリハビリテーションを実践することができる。					
授業の概要					
リハビリテーション関連職種として必要な運動器（骨関節、神経）の構造と機能、運動器疾患の概念、定義、およびその診断と治療について学習する。					
授業計画					
第1回	運動器の構造と機能				
第2回	頚椎・腰椎障害と対応				
第3回	上肢障害の特性と対応				
第4回	下肢障害の特性と対応				
第5回	筋骨格感染症と対応				
第6回	関節障害と対応				
第7回	四肢循環障害と対応				
第8回	筋骨格系腫瘍と対応				
第9回	救急・外傷処置の特性と対応				
第10回	骨折・脱臼・捻挫の特性と対応				
第11回	上肢外傷と対応				
第12回	下肢外傷と対応				
第13回	脊椎・脊髄損傷と対応				
第14回	運動器疾患に対するリハビリテーション				
第15回	総括 試験問題とその解説				
教科書及び参考書					
わかる医学 for comedical MAC medical マック メディカル アカデミー					
成績評価方法					
試験&レポート100%					
オフィスアワー					
履修にあたって必要な予備知識など					
整形外科に関する解剖生理学					
備考					
授業中に積極的に質問しましょう！					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	神経内科学	1単位	2年前期	田辺 勇人	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
神経学の症候		神経筋の体系と疾患概念、各疾患の診断・検査・治療、リハビリテーションの実施に際して知っておくべき事柄や注意点などについて理解し説明することができ、リハビリテーションプランを作成できる。			
高次脳機能					
神経系の疾患					
筋疾患					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有するために必要な神経・筋疾患についての適切かつ十分な知識を身に着ける。					
授業の概要					
神経学的な症候の診方、高次脳機能の理解、それぞれの神経筋疾患の概要・詳細、また、神経系疾患の診断に必要な検査手段などについて系統的・個別的に学習し、臨床現場で活用できるように教授する。また、それら知識を駆使して、神経筋疾患における患者の状態の把握、リハビリテーションへの戦略・アプローチが可能となるよう、体系的に理解しリハビリテーションプランの作成が可能な能力に結び付くよう解説していく。					
授業計画					
第1回	神経系とは、構造と生理				
第2回	神経系の症候と高次脳機能障害（前頭葉・頭頂葉）				
第3回	高次脳機能障害（側頭葉・後頭葉）				
第4回	脳神経と自律神経系				
第5回	脳血管障害				
第6回	神経変性疾患・パーキンソン病と関連疾患				
第7回	アルツハイマー病と大脳変性疾患				
第8回	筋萎縮性側索硬化症など				
第9回	脊髄疾患・脱髄疾患（多発性硬化症）				
第10回	ミトコンドリア脳筋症・重症筋無力症など				
第11回	筋炎・筋ジストロフィー				
第12回	機能的疾患・頭痛・てんかん、末梢神経障害				
第13回	神経系の感染症・脳腫瘍				
第14回	頭部外傷・先天性疾患・水頭症				
第15回	代謝・中毒・全身疾患に伴う神経症候・神経の可塑性				
教科書及び参考書					
神経内科学 for comedical リプロサイエンス					
成績評価方法					
定期試験 100%					
オフィスアワー					
履修にあたって必要な予備知識など					
神経系の解剖・生理の基礎知識があるとより良い					
備考					
授業をしっかりと理解しましょう！わからない場合はその場で質問！					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	精神医学	1単位	2年後期	野村聖子(責任者)/岩本	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
精神科医療の歴史		精神医学と精神保健の基礎的な事項を説明できる。他職種連携について理解する。精神と行動の障害を持つ「病める人」の全人的理解をする。回復に伴走する上で理学療法士、作業療法士として欠かせない知識について幅広く身につける。			
精神疾患の体系的理解					
代表的な精神疾患の成因・症状・診断・治療					
本人や家族への他職種支援					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1: 多様な価値観を理解しながら尊重し、倫理観を持って対象者の生活を支援できる能力を有している。 DP6: 理学療法士として障害のある幼児、児童等もしくは地域在住高齢者の支援に貢献することができる。					
授業の概要					
主要な精神科疾患について基礎的知識を習得する。教科書を参考にしながら講義形式で進める。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。					
授業計画					
第1回	オリエンテーション：授業の進め方と成績評価基準について、「5大疾病への理解」「診断の手順と方法」「診断基準DSM-5等」理解度確認テスト作成				
第2回	「身体的検査と心理検査各論」「精神症状と状態像の定義と各論」「精神医療の歴史」「精神障害の成因と分類」「面接の態度」				
第3回	「統合失調症」症状、薬物治療、非薬物治療、リハビリテーション1				
第4回	「統合失調症」症状、薬物治療、非薬物治療、リハビリテーション2				
第5回	「気分(感情)障害」うつ病・躁うつ病(双極性障害)1				
第6回	「気分(感情)障害」うつ病・躁うつ病(双極性障害)2				
第7回	不安症・強迫症・心的外傷後ストレス障害・摂食障害・パニック障害・強迫性障害・パーソナリティ障害など				
第8回	「器質性精神病」意識障害(せん妄含む)、梅毒、クロイツフェルトヤコブ病など				
第9回	「器質性精神病」認知症1				
第10回	「器質性精神病」認知症2				
第11回	身体疾患による精神疾患の治療(岩本)				
第12回	「物質関連精神障害」または依存症：薬物、アルコール問題など				
第13回	小児期の精神障害および発達障害				
第14回	てんかん、てんかんの薬物療法、3大精神病、病気の深さと治療内容				
第15回	まとめ				
教科書及び参考書					
教科書 メディカルスタッフ専門基礎科目シリーズ 精神医学 飯高哲也編著(理工図書)					
成績評価方法					
定期試験100%					
オフィスアワー					
随時応相談：事前に連絡ください。野村：nomura@u.a-ru.ac.jp 岩本iwamoto@u.a-ru.ac.jp					
履修にあたって必要な予備知識など					
備考					
内容は履修状況により変更になることがあります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	小児科学	1単位	2年前期	中 徹	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
成長・発達	小児疾患	医療分野における高度職業人として身につけるべき、小児の疾患や障害について理解し説明することができる。また、リハビリテーションの対象となる脳性麻痺や知的障害、発達障害、重症心身障害などを含め、小児科学における今日的課題について問題意識			
小児疾患	障害児				
障害児	リハビリテーション				
ディプロマ・ポリシーとの関連					
(リハビリテーション学部DP:4,6,8) (理学療法学科DP:3,6) (作業療法学科DP:1,3,6,7)					
授業の概要					
小児科学は、成長と発達の過程にある小児を対象として、その身体と心の問題を扱うものである。その領域はきわめて広く、胎児期、新生児期から思春期までのすべての医学領域の知識が求められる。この授業は、医師としての実務経験のある教員が、小児科学の基本的知識について講義する授業科目である。具体的には小児科学の概要、診断と治療、PT・OTと小児科学、小児の成長と発達、小					
授業計画					
第1回	PT・OTと小児科学、小児科学の概論、診断と治療の概要				
第2回	新生児・未熟児の疾患				
第3回	先天異常と遺伝病				
第4回	神経・筋・骨疾患1 (筋疾患、骨疾患)				
第5回	神経・筋・骨疾患2 (脳性麻痺、てんかん、二分脊椎)				
第6回	到達度確認演習1				
第7回	発達障害とその周辺疾患、骨関節疾患				
第8回	循環器疾患、呼吸器疾患、耳鼻科疾患				
第9回	小児の感染症				
第10回	消化器疾患、腎・泌尿器疾患				
第11回	到達度確認演習2				
第12回	内分泌・代謝疾患、血液疾患、腫瘍性疾患				
第13回	アレルギー疾患				
第14回	心身医学的疾患、眼科疾患				
第15回	重症心身障害児、医療的ケア児、事故・虐待その他				
教科書及び参考書					
教科書：標準理学療法・作業療法 専門基礎分野 小児科学 第6版 (医学書院)					
成績評価方法					
到達度確認演習1-40%、到達度確認演習1-30%、学期末試験30% の壱性的評価とする					
オフィスアワー					
月曜日：12時30～13時30分					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし					
備考					
学習効果を得るために1単位時間当たり180分を目安に予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	リハビリテーション医学	1単位	2年後期	田辺勇人	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
リハビリテーション		各種障害の評価、治療について科学的根拠に基づきながら説明できるようになることを学修目標とする。			
疾患と障害					
チームアプローチ					
目標指向型アプローチ					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
リハビリテーションの理念を基盤として、対象疾患に伴う障害を、急性期、回復期から在宅生活期すべての時期について、多職種チームで評価し、目標指向型の考えで障害を可能な限り減らすとともに、残された能力を最大限に引き出して、社会生活への復帰と維持に貢献できる知識を習得する。					
授業の概要					
リハビリテーションの考え方ははじめとして、各種の疾患や障害の評価、リハビリテーション計画立案と治療についての知識と技能を教授する。また関連社会制度や地域医療との関係など、社会生活の支援に必要な幅広い考え方と知識を教授する。					
授業計画					
第1回	総論 1				
第2回	総論 2				
第3回	脳損傷 1 脳卒中 運動学・障害学・痙縮				
第4回	脳損傷 2 摂食嚥下障害				
第5回	脳損傷 3 脳外傷、脳腫瘍、低酸素性脳症				
第6回	脳損傷 4 高次脳機能障害、認知症				
第7回	神経筋疾患				
第8回	小児疾患 1				
第9回	小児疾患 2				
第10回	呼吸・循環など内部障害				
第11回	がん				
第12回	運動器疾患 骨折・四肢外傷				
第13回	脊髄損傷・脊髄疾患				
第14回	切断				
第15回	補装具				
教科書及び参考書					
教科書： 1. リハビリテーション医学 第4版（南江堂）					
成績評価方法					
試験・授業への参加態度等を総合的に判断する。					
オフィスアワー					
クラスルームで質問をうけつけています。オフィスアワーはクラスルームで。					
履修にあたって必要な予備知識など					
内科全般（特に神経内科、循環器内科、呼吸器内科、腫瘍内科、緩和ケア内科）、整形外科、脳神経外科、小児科、精神科					
備考					
授業中にしっかり講義を聴くこと！寝るのは夢しか見ないので勉強にならないよ。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	スポーツ障害学	1単位	2年後期	基幹教員	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
スポーツ外傷と障害		スポーツ外傷・障害の発生機序や病態を解剖・運動学的に理解し、現場での応急処置や予防、コンディショニングに関する基礎知識を習得し、説明できる。			
応急処置					
コンディショニング					
トレーニング					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP4:理論に裏付けられた知識や技術を有し、科学的な考えと共に適切なリハビリテーションを実践することができる。					
授業の概要					
本講義では、スポーツリハビリテーションに関わる上で必須となる医学的基礎知識を学ぶ。前半は成長期特有の疾患や、部位別の外傷・障害の病態、緊急時の現場管理について概説する。後半はコンディショニングに焦点を当て、筋力、持久力、柔軟性等の理論とトレーニングの実際、女性特有の課題やアンチ・ドーピングまでを網羅する。単なる疾患理解に留まらず、スポーツ現場の全体像を俯瞰できる視点を養う。					
授業計画					
第1回	オリエンテーション、スポーツ医学概論				
第2回	ジュニアアスリートの外傷と障害				
第3回	アスリートの外傷と障害1（下肢①）				
第4回	アスリートの外傷と障害2（下肢②）				
第5回	アスリートの外傷と障害3（上肢）				
第6回	スポーツ現場における応急処置と現場管理				
第7回	中間まとめ、中間試験				
第8回	トレーニングの実際1（筋力）				
第9回	トレーニングの実際2（持久力）				
第10回	トレーニングの実際3（柔軟性）				
第11回	トレーニングの実際4（俊敏性）				
第12回	トレーニングの実際5（ミクロとマクロの戦略）				
第13回	女性アスリートとスポーツ				
第14回	内科的障害、ドーピング				
第15回	まとめ				
教科書及び参考書					
特になし					
成績評価方法					
中間試験50%、定期試験50%					
オフィスアワー					
火曜日 11時～12時					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし					
備考					
スポーツ現場特有の面白さや難しさを共有できればと思います。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	老年医学	1単位	2年後期	田辺 勇人	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
加齢と老化		老年期に多い疾患について科学的根拠に基づき、病態生理ならびに特徴の知識について説明できる。			
老年期疾患					
リハビリテーション					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的な根拠とともにリハビリテーションを実践することができる。					
授業の概要					
本講義では、超高齢社会となる我が国において老化・加齢とはどのようなメカニズムになるかを学修し、老年期に多い疾患について科学的根拠に基づき、病態生理ならびに特徴の知識を学修していく。さらに、老年期の対象者についてのリハビリテーションの役割についても老年期疾患の特徴から検討する。					
授業計画					
第1回	オリエンテーション、老年医学の考え方捉え方				
第2回	加齢と老化				
第3回	高齢者の機能評価				
第4回	老年期症候群と廃用症候群				
第5回	循環器疾患				
第6回	呼吸器疾患、感染症				
第7回	運動器疾患				
第8回	内分泌・腎・代謝疾患				
第9回	耳鼻科・眼科疾患				
第10回	免疫・血液疾患				
第11回	神経疾患				
第12回	認知症と精神科疾患				
第13回	高齢者のリハビリテーション				
第14回	高齢者と生活習慣病				
第15回	高齢者の外科治療				
教科書及び参考書					
プリント配布いたします。					
成績評価方法					
定期試験100%					
オフィスアワー					
授業終了後					
履修にあたって必要な予備知識など					
生理学Ⅰ・Ⅱの内容を復習しておくこと。					
備考					
授業中はしっかり講義を聞きましょう！					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	薬理学	1単位	2年後期	塩見健輔	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
薬物反応 有害反応（副作用） 各種疾患の発症メカニズム 薬物治療		正常もしくは病的状態にある生体が薬物に対してどのような反応を示すかを理解する。薬物が作用する仕組みと臨床応用、さらには、副作用についての知識を得る。代表的な薬物について学ぶ。			
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
授業の概要					
理学療法・作業療法を受ける多くの患者が薬を服用している。リハビリテーションを実施する際に、患者本人の既往歴に加え服薬状況（薬剤の種類・副作用・運動への影響など）を十分理解し把握することは、患者のリスク管理上極めて重要となる。本薬理学の授業で、薬に関する基礎知識をはじめ各臓器の機能破綻に基づく疾患成立とその薬物治療法を理解する。					
授業計画					
第1回	薬理学総論				
第2回	薬理学の基礎・薬の作用				
第3回	薬物動態（吸収，分布，代謝，排泄）				
第4回	薬の作用に影響する因子				
第5回	中枢神経系の薬理① 神経疾患の薬物療法				
第6回	中枢神経系の薬理② 精神疾患の薬物療法				
第7回	中枢神経系の薬理③ 麻酔薬、催眠薬、抗てんかん薬など				
第8回	疼痛の制御と薬物療法				
第9回	末梢神経系の薬理 自律神経、運動神経と骨格筋				
第10回	循環器系疾患に対する薬物				
第11回	呼吸器系疾患、消化器系疾患に対する薬物				
第12回	代謝性疾患・内分泌系疾患に対する薬物				
第13回	感染症、炎症と免疫疾患に対する薬物				
第14回	がんに対する薬物				
第15回	国試対策、その他、薬理学まとめ				
教科書及び参考書					
教科書：リハベーシック 薬理学・臨床薬理学 第2版（医歯薬出版） 参考書：リハビリテーションのための薬理学・臨床薬理学（南江堂）					
成績評価方法					
定期試験100%					
オフィスアワー					
メールにて受付する。アドレスは、講義開始日に提示する。					
履修にあたって必要な予備知識など					
生理学の科目について復習しておくこと。					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	救急救命学	1単位	2年後期	田辺 勇人	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
ショック		不慮の事故や突然の疾病は、海水浴、登山、競技中、遠征のための移動中など、時と場所に関係なく発生する。発生時の正しい対応が救命につながり、重篤な状態に移行することを防ぐ。したがって医療福祉にたずさわる人達は、緊急の事態を常に予想し、素早く適切な処置ができるような知識と技術とを身につけておかなければならないため、基本的知識からBLSの仕方について学修していく。			
外傷					
トリアージ					
心肺蘇生法					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:良好なコミュニケーションをとり、協調性に優れ周囲の人に寄り添えることができる。					
授業の概要					
救命で最も注意しなければならないショックについて学修し、ショックの早期発見と予防のためのトリアージ方法を学ぶ。BLSを習得する。AHAのBLSプロバイダーコースを受講可能程度の知識を学習する					
授業計画					
第1回	ショックとは				
第2回	意識障害				
第3回	呼吸困難				
第4回	心臓発作・不整脈				
第5回	腹痛・吐血				
第6回	多発外傷				
第7回	トリアージとその方法				
第8回	熱傷・中毒				
第9回	異物誤嚥・誤飲				
第10回	自然環境災害（熱中症、寒さなど）				
第11回	小児救急				
第12回	大規模災害				
第13回	事例 もしも〇〇〇が日本を襲ってきたら・・・				
第14回	心肺蘇生法				
第15回	心肺蘇生法				
教科書及び参考書					
<参考書> 1. BLSヘルスケアプロバイダー受講者マニュアル AHAガイドライン2010準拠					
成績評価方法					
定期テスト100%					
オフィスアワー					
クラスルームで確認してください。クラスルームで質問も受け付けます					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし					
備考					
基礎知識を学修し、演習で身に付くよう復習を進めてください。リハビリ中に救急対応が必要な場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	画像診断学	1単位	2年後期	福士政広	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
運動器の病気と障害		運動器疾患に特徴的な画像所見を学習し、リハビリテーション関連職種として必要な画像に関する知識を習得する。			
運動器の画像					
脳の構造・局在と画像					
神経系の障害と画像					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP4/DP7 「科学的根拠に基づきながら適切に対象者にリハビリテーション技術を提供することができる能力」ならびに課題解決のために画像を活用する能力を身に付けるために必要な知識を得ること。					
授業の概要					
リハビリテーション関連職種として必要な運動器（骨関節、神経）疾患の画像的特徴について学習する。各種撮影法の基本原理と画像診断の理論を学修する。画像に関する内容は、胸部・腹部疾患、脳血管障害、脊椎・脊髄疾患、上肢・下肢疾患の内容とする。総論として基本原理と画像診断の理論、骨・関節疾患、脳血管障害・脳疾患の内容について学修する。					
授業計画					
第1回	画像診断学1 画像診断の歴史				
第2回	画像診断学2 画像診断の種類や装置の概要				
第3回	画像診断学3 脊椎（頸椎）				
第4回	画像診断学4 脊椎（腰椎）				
第5回	画像診断学5 下肢（膝関節）				
第6回	画像診断学6 上肢				
第7回	画像診断学7 下肢（股関節）				
第8回	画像診断学8 小児整形全般				
第9回	画像診断学9 スポーツ整形				
第10回	画像診断学10 脳の構造と脳画像総論及び各論				
第11回	画像診断学11 X線CT画像の診断				
第12回	画像診断学12 MRI画像の診断				
第13回	画像診断学13 超音波画像の診断				
第14回	画像診断学14 核医学画像の診断				
第15回	画像診断学15 被ばくと放射線管理				
教科書及び参考書					
診療放射線技師スリム・ベーシック 放射線医学概論 福士政広編集 メジカルビュー社					
成績評価方法					
定期試験100%					
オフィスアワー					
授業後に対応					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

6	授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
	職業専門科目	公衆衛生学	1単位	2年後期	浅川・田島・金・渡邊	必修
授業科目の学修教育目標						
キーワード		学修教育目標(学修成果)				
公衆衛生学 疫学・統計 保健・福祉 社会保障		公衆衛生の理念や歴史、現在の公衆衛生システムの特徴など、公衆衛生の基本について理解する。疫学・統計の基本とその活用方法を学び、集団の特徴を表す健康指標を理解する。				
ディプロマ・ポリシーとの関連						
<p>DP2:理学療法士・作業療法士として地域住民を取り巻く多職種と信頼関係を築く為の円滑なコミュニケーション能力を有し、様々な分野の専門職業人と課題を共有して協働することができる。</p> <p>DP3:理学療法分野・作業療法分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。</p> <p>DP5:理学療法士・作業療法士として変化し得る様々な課題に対して、使命感と責任感のもとで自ら学び続ける探求心を持ち、研究することができる。</p>						
授業の概要						
<p>公衆衛生の歴史、基本理念、目的、対象を理解する。また、高齢者・学校・産業等の領域における健康問題の予防と解決のために、地域住民や関係者と協働して活動する方法の概要を理解する。公衆衛生学分野における専門的な知識と技能を有し、健康問題に対する包括的な理解を深めるとともに、「個人」「集団」「社会」「環境」の視点からアプローチする必要性を理解する。科学的な根拠に基づき、「個人」「集団」「地域」など様々なレベルにおける公衆衛生活動の実践方法を習得し、健康に関する課題を発見・解決する能力を備える。</p>						
授業計画						
第1回	公衆衛生学とリハビリテーション（浅川）					
第2回	リハビリテーション専門職による公衆衛生活動策（浅川）					
第3回	公衆衛生学からみた健康・疾病・障害のとらえ方（金）					
第4回	保健統計（金）					
第5回	身体活動（田島）					
第6回	疫学（田島）					
第7回	公衆衛生活動の基盤（渡邊）					
第8回	茨城県における地域包括ケアシステムの構築（渡邊）					
第9回	高齢者保健・認知症対策（浅川）					
第10回	母子保健・学校保健（浅川）					
第11回	産業保健（金）					
第12回	精神保健・メンタルヘルス対策（金）					
第13回	成人保健（田島）					
第14回	行動変容（田島）					
第15回	障害者支援（第4章第7節）・まとめ（浅川）					
教科書及び参考書						
<p>公衆衛生学（Crosslink basic リハビリテーションテキスト） 出版社：メジカルビュー社（2023/12/28） ISBN-10：4758320977、ISBN-13：978-4758320979</p>						
成績評価方法						
学期末試験100%						
オフィスアワー						
何かあった際は、授業前または授業後に担当教員にお声がけください。						
履修にあたって必要な予備知識など						
特記なし						
備考						
<p>学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。</p>						

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	早期体験実習Ⅱ	1単位	2年後期	野村 聖子(責任者)/渡邊/石上	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
障害のある幼児、児童等の支援		各施設の職員および対象者とコミュニケーションを図りながら職員および対象者との良好な人間関係の構築し、他の職種や利用者からの情報を基にして理学療法士・作業療法士が果たすべき役割について学ぶことができる。			
地域在住高齢者の支援					
コミュニケーション能力					
主体的な学修					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1:人を尊び、多様な価値観を理解し、人の輪の中で守るべき秩序を持って、地域住民に対して身体的・精神的苦痛に寄り添うことができる能力を有している。					
DP2:作業療法士として地域住民を取り巻く多職種と信頼関係を築く為の円滑なコミュニケーション能力を有し、様々な分野の専門職業人と課題を共有して協働することができる。					
DP4:作業療法士として地域社会に貢献したいという思いが強く、幅広い教養と柔軟な発想力を持って、常に努力することができる。					
DP5:作業療法士として変化し得る様々な課題に対して、使命感と責任感のもとで自ら学び続ける探求心を持ち、研究することができる。					
DP6:作業療法士として地域で生活する障害のある幼児、児童等もしくは高齢者の課題に対して、新たな支援を展開して貢献できる。					
授業の概要					
<p>障害のある幼児、児童等や地域在住高齢者の支援に貢献できる人材を養成するために、療育支援グループ、特別支援学校、地域包括支援センター、介護予防事業の見学を実施する。各施設の職員および対象者とコミュニケーションを図りながら職員および対象者との良好な人間関係の構築し、他の職種や利用者からの情報を基にして理学療法士・作業療法士が果たすべき役割について学修する。また、作業療法士として、地域社会に貢献したいという思いが持てるように主体的に学修していく。</p>					
授業計画					
1日目	オリエンテーション、実習セミナー(実習施設内でのマナー、倫理的配慮)				
2日目	療育支援グループ、特別支援学校、地域包括支援センター、介護予防事業の見学(各1施設)				
3日目	療育支援グループ、特別支援学校、地域包括支援センター、介護予防事業の見学(各1施設)				
4日目	療育支援グループ、特別支援学校、地域包括支援センター、介護予防事業の見学(各1施設)				
5日目	療育支援グループ、特別支援学校、地域包括支援センター、介護予防事業の見学(各1施設)				
教科書及び参考書					
特に定めず					
成績評価方法					
提出課題(100%)					
オフィスアワー					
野村聖子 火・水曜日13時00分～17時30分					
渡邊基子 水曜日14時00分～14時30分					
石上聖子 水曜日14時00分～14時30分					
履修にあたって必要な予備知識など					
早期体験実習Ⅰでの経験を確認しておくこと。					
備考					
学外での実習となります。社会的モラルには十分意識すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	作業療法評価学Ⅰ	1単位	2年前期	岩本 記一(責任者)/董/ 六倉/石上	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
作業療法評価の意義・目的		作業療法士として必要な検査測定(情報収集、問診、形態計測、関節可動域テスト、筋力検査、反射検査、感覚検査)についてその意義、目的、検査方法、解釈について説明できる。			
高い安全性					
高い精度					
高い効率性					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
授業の概要					
作業療法士として必要な検査測定についてその意義、目的、検査方法、解釈について学修する。また、検査を実施する際のリスト管理についても学修し、安全にかつ高い精度を保ち、効果的な検査方法についても学修する。					
授業計画					
第1回	オリエンテーション、評価の意義・目的、情報収集、医療面接(岩本)				
第2回	意識障害の評価、バイタル測定(岩本)				
第3回	生活行為向上マネジメント①(岩本)				
第4回	生活行為向上マネジメント②(岩本)				
第5回	関節可動域測定①(六倉)				
第6回	関節可動域測定②(六倉)				
第7回	関節可動域測定③(六倉)				
第8回	関節可動域測定④(六倉)				
第9回	まとめ:第1回~8回(石上)				
第10回	徒手筋力検査法①(董)				
第11回	徒手筋力検査法②(董)				
第12回	徒手筋力検査法③(董)				
第13回	徒手筋力検査法④(董)				
第14回	片麻痺機能検査(岩本)				
第15回	まとめ:第10回~14回(石上)				
教科書及び参考書					
PT・OTビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学 第2版(羊土社)新・徒手筋力検査法 原著第10版[Web動画付](協同医書出版社)					
成績評価方法					
定期試験100%					
オフィスアワー					
岩本 月曜・火曜 16時~17時					
履修にあたって必要な予備知識など					
人体構造学の学問について復習しておくこと。					
備考					
主体的な学修態度で臨むこと。学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	作業療法評価学Ⅱ	1単位	2年後期	六倉 悠貴(責任者)/岩本/董/石上	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
疾患ごとの統合と解釈		検査測定についてその意義、目的、検査方法、解釈について説明し、疾患ごとの解釈について説明できる。			
治疾患ごとの治療アプローチ立案					
ケーススタディー					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
授業の概要					
前半は、作業療法士として必要な検査測定についてその意義、目的、検査方法、解釈について学修する。また、検査を実施する際のリスト管理についても学修し、安全にかつ高い精度を保ち、効果的な検査方法についても学修する。後半は、検査結果の解釈などについて学修し、各疾患のケーススタディーで整理していく。					
授業計画					
第1回	作業療法評価学Ⅰの復習(石上)				
第2回	反射検査(董)				
第3回	感覚検査①(董)				
第4回	感覚検査②(董)				
第5回	上肢機能検査(董)				
第6回	高次脳機能検査①(六倉)				
第7回	高次脳機能検査②、気分・思考の検査(六倉)				
第8回	まとめ:第1回目～7回目(石上)				
第9回	バランス検査(六倉)				
第10回	協調性検査(六倉)				
第11回	筋緊張検査・形態測定(六倉)				
第12回	ADL評価(岩本)				
第13回	移乗動作(岩本)				
第14回	事例検討(六倉)				
第15回	まとめ:第9回目～14回目(石上)				
教科書及び参考書					
リハビリテーション基礎評価学 第2版 (PT・OTビジュアルテキスト)					
成績評価方法					
定期試験100%					
オフィスアワー					
六倉 17時以降であれば対応可能					
履修にあたって必要な予備知識など					
人体構造学の学問について復習しておくこと。					
備考					
主体的な学修態度で臨むこと。学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	作業療法評価学実習 I	1単位	2年前期	岩本 記一(科目責任者)、董 玫 侖、六倉 悠貴、石上 聖子	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
高い安全性		作業療法士として必要な検査測定について、高い安全性、高い精度さらに効率の良い方法を意識してできるようになる。			
高い精度					
高い効率性					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいて臨床的課題を発見・解決できる能力を有している。					
授業の概要					
作業療法士として必要な検査測定について、検査方法、記録方法を学修し、リスク管理についても整理していく。検査の実習では、高い安全性、高い精度さらに効率の良い方法を意識して学修し、患者への負担をできる限り少なくできるようにしていく。					
授業計画					
第1回	【実技】オリエンテーション、評価の意義・目的、情報収集、医療面接（岩本）				
第2回	【実技】意識障害の評価、バイタルサイン（岩本）				
第3回	【実技】生活行為向上マネジメント①（岩本）				
第4回	【実技】生活行為向上マネジメント②（岩本）				
第5回	【実技】関節可動域測定①（六倉）				
第6回	【実技】関節可動域測定②（六倉）				
第7回	【実技】関節可動域測定③（六倉）				
第8回	【実技】関節可動域測定④（六倉）				
第9回	【実技】まとめ：第1回～8回（石上）				
第10回	【実技】徒手筋力検査法①（リン）				
第11回	【実技】徒手筋力検査法②（リン）				
第12回	【実技】徒手筋力検査法③（リン）				
第13回	【実技】徒手筋力検査法④（リン）				
第14回	【実技】片麻痺機能検査（岩本）				
第15回	【実技】まとめ：第9回～14回（石上）				
教科書及び参考書					
PT・OTビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学 第2版（羊土社）新・徒手筋力検査法 原著第10版[Web動画付]（協同医書出版社）					
成績評価方法					
実技試験100%					
オフィスアワー					
17時以降であれば対応可能					
履修にあたって必要な予備知識など					
人体構造学の学問について復習しておくこと。					
備考					
主体的な学修態度で臨むこと。学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	作業療法評価学実習Ⅱ	1単位	2年後期	六倉 悠貴(責任者)/岩本/董/石上	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
高い安全性	作業療法士として必要な検査測定(反射検査、感覚検査、整形外科的検査、筋緊張検査、協調性検査、片麻痺機能検査)について、高い安全性、高い精度さらに効率の良い方法を意識してできるようになる。				
高い精度					
高い効率性					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
授業の概要					
作業療法士として必要な検査測定について、検査方法、記録方法を学修し、リスク管理についても整理していく。検査の実習では、高い安全性、高い精度さらに効率の良い方法を意識して学修し、患者への負担をできる限り少なくできるようにしていく。					
授業計画					
第1回	【実技】作業療法評価学Ⅰの復習(石上)				
第2回	【実技】反射検査(董)				
第3回	【実技】感覚検査①(董)				
第4回	【実技】感覚検査②(董)				
第5回	【実技】上肢機能検査(董)				
第6回	【実技】高次脳機能検査①(六倉)				
第7回	【実技】高次脳機能検査②、気分・思考の検査(六倉)				
第8回	【実技】まとめ:第1回目～7回目(石上)				
第9回	【実技】バランス検査(六倉)				
第10回	【実技】協調性検査(六倉)				
第11回	【実技】筋緊張検査・形態測定(六倉)				
第12回	【実技】ADL評価(岩本)				
第13回	【実技】移乗動作(岩本)				
第14回	【実技】事例検討(六倉)				
第15回	【実技】まとめ:第9回目～14回目(石上)				
教科書及び参考書					
リハビリテーション基礎評価学 第2版 (PT・OTビジュアルテキスト)					
成績評価方法					
実技試験100%					
オフィスアワー					
六倉 17時以降であれば対応可能					
履修にあたって必要な予備知識など					
人体構造学の学問について復習しておくこと。					
備考					
主体的な学修態度で臨むこと。学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	健康マネジメント論	1単位	2年前期	呉世昶	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
生活習慣病	食生活・運動実践	生活習慣病に関わる主要指標を理解し、食事・運動実践の効果を説明できるようになる。あわせて、健康診断データを解釈し、無理のない健康管理を考察できるようになる。			
加齢・老化	行動変容				
ディプロマ・ポリシーとの関連					
本授業は、理論に裏付けられた専門的知識を修得し、科学的根拠に基づいて健康管理および支援を行うための基礎的能力の養成に関連する。					
授業の概要					
本授業では、生活習慣病の予防を目的として、食事および運動実践を中心とした健康管理の基本的な考え方を学ぶ。健康診断データの見方や年齢差、生活背景を踏まえ、日常生活の中で無理なく継続可能な自己管理の方法について理解を深める。さらに、検査値に及ぼす生活習慣の影響や短期的・長期的な変化を整理し、科学的根拠に基づいた健康づくりの視点を身に付けることを目指す。					
授業計画					
第1回	健康マネジメントの全体像				
第2回	健康診断データの見方				
第3回	検査値に及ぼす短期的効果と長期的効果				
第4回	肥満・肥満症のマネジメント①：概念と評価				
第5回	肥満・肥満症のマネジメント②：食事・運動の基本戦略				
第6回	脂肪性肝疾患と生活習慣①：概念と評価指標				
第7回	脂肪性肝疾患と生活習慣②：食事・運動の基本戦略				
第8回	身体活動・運動の基礎知識：量・強度・頻度				
第9回	運動処方：作成手順と注意点				
第10回	高血圧症のマネジメント：生活習慣介入の要点				
第11回	動脈硬化のマネジメント：危険因子と対策				
第12回	糖尿病のマネジメント：運動実践の留意点				
第13回	脂質異常症のマネジメント：病態と生活習慣介入				
第14回	心の健康マネジメント：ストレス対策と自己管理				
第15回	総括：行動変容と継続の工夫				
教科書及び参考書					
適宜資料を配布する。					
成績評価方法					
レポート課題30%、定期試験60%、授業への積極的参加度10%					
オフィスアワー					
火曜日・木曜日10時00分～11時00分、17時00分～17時50分					
履修にあたって必要な予備知識など					
特記なし					
備考					
学習効果を得るために復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	日常生活活動学	1単位	2年前期	中村 茂美	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
日常生活活動	活動評価	日常生活活動の構成要素から学び、その評価方法を習得するとともに、日常生活活動支援における作業療法士の役割を理解する。さらに、対象者や家族に適切に動作指導が行えるように知識を習得する。			
動作指導					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
授業の概要					
日常生活活動の構成要素から学び、その評価方法を習得するとともに、日常生活活動支援における作業療法士の役割を理解する。さらに、対象者や家族に適切に動作指導が行えるように知識を習得する。					
授業計画					
第1回	総論：日常生活活動の概念、代表的な評価尺度				
第2回	総論：参加目標から見た活動				
第3回	各論：各動作別の評価と支援方法：寝返り動作・起き上がり動作				
第4回	各論：各動作別の評価と支援方法：トランスファー動作				
第5回	各論：各動作別の評価と支援方法：歩行動作（歩行補助具含む）				
第6回	各論：整容・更衣				
第7回	各論：排泄・入浴				
第8回	各論：食事				
第9回	脳血管障害 片麻痺動作の特性について理解する				
第10回	立位で洗顔する時の指導ポイントを考える				
第11回	食事動作のポジション、利き手交換の指導ポイントを考える				
第12回	排泄動作、トイレ内の動線を確認し、指導ポイントを考える				
第13回	入浴時、浴槽の出入りについて指導ポイント考える				
第14回	更衣動作の指導のポイントを考える				
第15回	事例演習				
教科書及び参考書					
作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 日常生活活動学(ADL)(メディカルビュー)					
成績評価方法					
各授業での課題提出 100%					
オフィスアワー					
水曜日・木曜日・金曜日 17時00分～17時50分					
履修にあたって必要な予備知識など					
特記なし					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	日常生活活動学実習	1単位	2年後期	中村茂美(責任者)/渡邊	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
日常生活活動	活動評価	日常生活活動の評価方法の実践を習得するとともに、日常生活活動支援における作業療法士の役割を理解する。さらに、対象者や家族に適切に動作指導が行えるように技術を習得する。			
動作指導					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
授業の概要					
日常生活活動に対する作業療法評価方法の実践を学ぶと共に、支援の重要性を理解する。さらに、日常生活活動支援における作業療法士の役割を理解し、対象者や家族に適切に動作指導が行えるように技術を習得する。					
授業計画					
第1回	臨床実習における日常生活活動の評価とアプローチの振り返り				
第2回	食事動作の評価と支援方法				
第3回	更衣動作の評価と支援方法				
第4回	食事動作の評価と支援方法				
第5回	整容動作の評価と支援方法				
第6回	入浴動作の評価と支援方法				
第7回	事例演習				
第8回	プレゼン				
第9回	PSBの使用方法和適応				
第10回	コミュニケーションエイドの使用方法を理解する				
第11回	リフターでベッドから車いすに移動できる				
第12回	杖・車いすについて疾患別に適応を考える				
第13回	摂食嚥下評価（水飲みテスト）				
第14回	事例演習				
第15回	プレゼン				
教科書及び参考書					
作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 日常生活活動学(ADL)(メディカルビュー)					
成績評価方法					
各授業での課題提出 100%					
オフィスアワー					
中村：水曜日・木曜日・金曜日 17時00分～17時50分					
履修にあたって必要な予備知識など					
日常生活活動学の復習					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	生活環境学	1単位	2年前期	岩本 記一	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
生活環境	福祉制度や施策といった制度的環境や家族や介護者等の人的環境の視点から、障害者や高齢者が自立し主体的な生活が保障される生活環境について理解する。				
生活と福祉					
地域					
生活環境整備					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
授業の概要					
生活環境の概念から学び、生活と福祉制度や施策といった制度的環境や家族や介護者等の人的環境の視点から、障害者や高齢者が自立し主体的な生活が保障される生活環境について理解する。さらに、対象に応じて生活環境整備を支援できる様に、物的環境支援についても学ぶ。					
授業計画					
第1回	作業療法における生活環境学の概念				
第2回	生活環境の評価				
第3回	福祉用具による生活環境整備				
第4回	コミュニケーション支援機器				
第5回	食事、整容、更衣に関する福祉用具				
第6回	排泄に関する福祉用具				
第7回	入浴に関する福祉用具				
第8回	移動に関する福祉用具（杖）				
第9回	移動に関する福祉用具（車椅子）				
第10回	移動・移乗に関する福祉用具（リフト、スロープ）				
第11回	住宅改修による生活環境整備				
第12回	基本的な建築図面の読み方・書き方				
第13回	住宅改修に関連する法制度				
第14回	事例検討				
第15回	まとめ				
教科書及び参考書					
生活環境学テキスト 改訂第2版（南江堂）					
成績評価方法					
期末試験100%					
オフィスアワー					
月曜・火曜 16:00～17:00					
履修にあたって必要な予備知識など					
特記なし					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	生活環境学実習	1単位	2年後期	岩本 記一	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
生活環境	障害や高齢者などの対象が抱える環境問題に対して、適切な作業療法支援ができる様に実践的な学びを深める。特に、環境整備における物的支援については、福祉住環境の知識を適切に応用できるように学ぶ。				
生活と福祉					
地域					
生活環境整備					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
授業の概要					
生活環境学から学び得た、生活環境の概念や人的環境、物的環境支援について、障害や高齢者などの対象が抱える環境問題に対して、適切な作業療法支援ができる様に実践的な学びを深める。特に、環境整備における物的支援については、福祉住環境の知識を適切に応用できるように学ぶ。					
授業計画					
第1回	生活環境学の復習				
第2回	車椅子シーティング①				
第3回	車椅子シーティング②				
第4回	車椅子シーティング③				
第5回	玄関・アプローチの環境整備				
第6回	課題発表①				
第7回	居間・寝室の環境整備				
第8回	課題発表②				
第9回	トイレの環境整備				
第10回	課題発表③				
第11回	浴室、台所の環境整備				
第12回	課題発表④				
第13回	事例検討				
第14回	事例検討				
第15回	課題発表⑤、まとめ				
教科書及び参考書					
生活環境学テキスト 改訂第2版 (南江堂)					
成績評価方法					
課題発表100%					
オフィスアワー					
月曜・火曜 16:00~17:00					
履修にあたって必要な予備知識など					
特記なし					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	臨床実習 I	1単位	2年後期	渡邊基子(科目責任者)/皆藤知美(実習調整者)、その他	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
コミュニケーション能力		指導者の助言、指導を受けながら 主体的に対象者との良好なコミュニケーションを取り、作業療法評価を実践することができる。			
作業療法検査測定					
主体的な学修態度					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1:人を尊び、多様な価値観を理解し、人の輪の中で守るべき秩序を持って、地域住民に対して身体的・精神的苦痛に寄り添うことができる能力を有している。					
DP2:作業療法士として地域住民を取り巻く多職種と信頼関係を築く為の円滑なコミュニケーション能力を有し、様々な分野の専門職業人と課題を共有して協働することができる。					
DP3:作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
DP4: 作業療法士として地域社会に貢献したいという思いが強く、幅広い教養と柔軟な発想力を持って、常に努力することができる。					
DP5:作業療法士として変化し得る様々な課題に対して、使命感と責任感のもとで自ら学び続ける探求心を持ち、研究することができる。					
授業の概要					
<p>実習施設にて、作業療法評価学Ⅰ・Ⅱで学修した作業療法評価を対象者に対して、指導者の監視の下、指導を受けながら見学→模倣→実施をする。その様な応用的学習の機会を得ることで、対象者の疾病や障害の理解を深める。また、対象者ならびに家族、利用者本人に関わる多職種から生活状況や症状、障害などを聴取し、対象者ならびに家族のニーズを引き出すためのコミュニケーション技術も学修すると共に、その聴取内容と評価結果との関連性を考察する。これらの実践を主体的に行うために日々の記録をまとめ、作業療法士として社会に貢献していくために臨床的課題や解決方法について指導者と共に思考する。その内容を実習終了後に学内で報告する。</p>					
授業計画					
【実習前】	オリエンテーション、OSCE、実習セミナー				
1日目	実習施設にて対象者への作業療法評価の実施				
	実習施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
2日目	実習施設にて対象者への作業療法評価の実施				
	実習施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
3日目	実習施設にて対象者への作業療法評価の実施				
	実習施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
4日目	実習施設にて対象者への作業療法評価の実施				
	実習施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
5日目	実習施設にて対象者への作業療法評価の実施				
	実習施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
【実習後】	実習の振り返り、OSCE、実習報告会				
教科書及び参考書					
実習の手引き(アール医療専門職大学)					
成績評価方法					
実習中課題・実習指導者評価、提出課題・実習報告会などから総合的に評価する。					
オフィスアワー					
渡邊	水曜日・木曜日・金曜日 13時00分～17時00分				
皆藤	月曜日～木曜日 15時00分～17時00分				
履修にあたって必要な予備知識など					
臨床実習 I について確認しておくこと。					
備考					
主体的に実習に臨むこと。【実習前】OSCEは、実習参加の可否を決定する診断評価として実施し、【実習後】OSCEは、実習参加後の習熟度評価として実施する。【実習前】の試験が不合格の場合は、補習期間を設け、再試験とする。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択	
展開科目	リーダーシップマネジメント論	2単位	2年後期	縄井/五味/宇都木/細田/後藤/垣見/多田/所	必修	
授業科目の学修教育目標						
キーワード		学修教育目標(学修成果)				
マネジメント	マネジメントの基礎理論、システム、サービス、リーダーシップ、人的資源活用法について理解し、マネジメントの必要性とその内容について説明することができる。					
システム						
リーダーシップ						
人的資源						
ディプロマ・ポリシーとの関連						
DP9: 事業やプロジェクトをマネジメントする必要性について考え、マネジメントすることができる。						
授業の概要						
<p>リーダーシップには自分自身に対するリーダーシップ(セルフ・リーダーシップ)と、周囲へのリーダーシップの2種類がある。人はえてして周りの言動に流されがちであり、こうした人間の特性を心理学の観点から学び、自分の意志で考えて行動する主体性の大切さを伝えていく。</p> <p>まずは自分自身へのリーダーシップを発揮して、周りに流されることなく行動すること、そして次に周囲へのリーダーシップを発揮してチームの目標達成のために他のメンバーを引っ張り、影響力を広げることを意識し、実践する。</p>						
授業計画						
				講義日	時間	教室
第1回	オリエンテーション	縄井	9月29日	5限	3号館5階講堂	
第2回	「“想い”を“成果”へ」～具体的に行動することの楽しさ～	宇都木	10月6日	5限		
第3回	「“想い”を“成果”へ」～具体的に行動することの楽しさ～	宇都木	13日	5限		
第4回	地域で活躍を期待されるリーダーシップとマネジメントとは①	細田	20日	5限		
第5回	地域で活躍を期待されるリーダーシップとマネジメントとは②	細田	27日	5限		
第6回	医療従事者に求められるリーダーシップとは？	後藤	11月10日	5限		
第7回	政治家に求められるリーダーシップとは？	後藤	17日	5限		
第8回	スポーツ現場におけるリーダーシップとマネジメントについて	垣見	24日	5限		
第9回	保険外での活躍の場としての整体院運営について	佐川	12月1日	5限		
第10回	「場」・「可能性」の実現に必要なリーダーシップとマネジメント	所	8日	5限		
第11回	店舗運営におけるリーダーシップとマネジメントについて	多田	15日	5限		
第12回	貢献できる「場」・自らの「可能性」を考える	所	22日	5限		
第13回	整体院ビジネスにおけるリーダーシップマネジメントについて	佐川	1月5日	5限		
第14回	医療者が学びの中で求められるリーダーシップとは	中	12日	5限		
第15回	まとめ	縄井	19日	5限		
教科書及び参考書						
講義内で配布する資料を参考にすること。参考書は適宜、紹介する。				1限 9:20~10:50		
成績評価方法						
授業外レポート100%				2限 11:00~12:30		
オフィスアワー						
火曜日10時から12時 205研究室				3限 13:30~15:00		
履修にあたって必要な予備知識など						
特記なし						
備考						
学習効果を得るために復習の時間を確保すること。						

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	運動障害・健康障害と心理	1単位	3年前期	岡村 正洋	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
しあわせ		運動障害・健康障害のある子どもの心理的な背景や心理的な特性等を配慮しながら、理学療法士・作業療法士と専門的なアプローチができる。			
障害の背景					
心理的アプローチ					
寄り添う					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP2 ; 個々の障害や人生に寄り添いながら支援を心がけることができるよう、運動障害や健康障害のある人の心理的な背景や特性についての理解を深める。					
授業の概要					
代表的な運動障害や健康障害のある子どもたちの心理的な背景や特性等について、事例等を通して協議を深め、理学療法士・作業療法士として個々の障害や人生に寄り添いながら支援できる資質を高める。					
授業計画					
第1回	しあわせの哲学				
第2回	脳性疾患・筋原性疾患				
第3回	高次脳機能障害・ジストニア				
第4回	協調性運動障害				
第5回	悪性新生物				
第6回	虐待・PTSD				
第7回	不登校・いじめ				
第8回	摂食障害・気分障害・うつ病				
教科書及び参考書					
参考書：子どものための精神医学 滝川一廣 医学書院					
成績評価方法					
定期テスト100%					
オフィスアワー					
e-mailでの事前連絡をお願いします。okamura@u.a-ru.ac.jp					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし。					
備考					
事例を通して授業を進めていきます。 学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	リハビリテーション栄養学	1単位	3年前期	櫻井 麻理	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
栄養アセスメント		栄養ケアプロセスの基礎的な知識や各病態に応じた栄養療法を習得し、チーム医療の一員としての力を養う。			
栄養ケアプラン					
栄養補給法					
病態に応じた栄養療法					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
<p>DP2:理学療法士として高いレベルでのコミュニケーション能力を有し、様々な分野の専門職業人と協働することができる。</p> <p>DP2:作業療法士として地域住民を取り巻く多職種と信頼関係を築く為の円滑なコミュニケーション能力を有し、様々な分野の専門職業人と課題を共有して協働することができる。</p> <p>DP3:理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。</p> <p>DP3:作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。</p>					
授業の概要					
<p>栄養ケアプロセス（栄養状態の評価、栄養補給法や必要栄養量設定などの栄養ケアプラン、栄養食事指導等）について学び、対象者の身体状況や病態に応じた栄養管理および栄養教育に関する理解を深める。効果的なりハビリテーションを行うための栄養関連の知識を習得し、多職種連携を担う能力の獲得を目指す。</p>					
授業計画					
第1回	リハビリテーションと栄養				
第2回	栄養の基礎①				
第3回	栄養の基礎②				
第4回	栄養の基礎③				
第5回	ライフステージと栄養①				
第6回	ライフステージと栄養②				
第7回	ライフステージと栄養③				
第8回	栄養ケアプロセス				
第9回	病態別栄養療法①				
第10回	病態別栄養療法②				
第11回	疾患別栄養療法①				
第12回	疾患別栄養療法②				
第13回	疾患別栄養療法③				
第14回	栄養教育、臨床栄養管理とチーム医療①				
第15回	まとめ				
教科書及び参考書					
医歯薬出版株式会社「リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎 第3版」					
成績評価方法					
期末試験90%、レポート課題10%					
オフィスアワー					
授業終了時					
履修にあたって必要な予備知識など					
特記なし					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	予防医学	1単位	3年後期	田辺勇人	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
生活習慣		疾病の予防につながる生活習慣の改善を理解し、療法士として予防医学に貢献できる能力を養う。			
疾病予防対策					
産業医学					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的な根拠とともにリハビリテーションを実践することができる。					
授業の概要					
本講義では、超高齢社会となる我が国において、今後さらに重要性を増す予防医学について科学的根拠に基づき、病態生理ならびに特徴の知識を学修し、疾病予防のための生活習慣改善の重要性を理解していく。さらに、生活習慣改善や予防的措置において、理学療法士・作業療法士が果たす役割についても検討する。					
授業計画					
第1回	オリエンテーション、予防医学の考え方捉え方				
第2回	メタボリックシンドローム・脂質異常症・糖尿病				
第3回	高血圧・腎疾患・心血管疾患・脳血管疾患				
第4回	運動器疾患、がん、認知症				
第5回	代替医療、その他の行為				
第6回	呼吸器疾患・口腔保健と歯周病(歯科衛生士)				
第7回	医療保険制度と医療統計				
第8回	前半のまとめと確認Quiz				
第9回	生活習慣の改善1 食				
第10回	生活習慣の改善2 身体活動				
第11回	生活習慣の改善3 睡眠・ストレス				
第12回	アルコールと喫煙				
第13回	感染症とアレルギーの予防				
第14回	健康生成論とうつ病の予防				
第15回	職域における予防医学				
教科書及び参考書					
プリント配布					
成績評価方法					
定期試験と提出されたレポート					
オフィスアワー					
授業終了後					
履修にあたって必要な予備知識など					
公衆衛生学の内容を復習しておくこと。					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。					

授業科目+A1:F36区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	地域包括ケアシステム論	1単位	3年前期	谷口 圭佑	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
地域包括ケア	多職種連携	地域包括ケアシステムについて説明することができる。急性期から維持期にかけてのリハビリテーションの流れを理解し、説明することができる。多職種連携について説明することができる。医療・介護チームの一員としての理学療法士・作業療法士の役割を説明する事ができる。			
地域連携					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 作業療法・理学療法学分野における専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいて臨床的課題を発見・解決できる能力を有している。					
DP4: 作業療法士・理学療法士として地域社会に貢献したいという思いが強く常に努力することができる。					
授業の概要					
2025年以降は、国民の医療や介護の需要が、さらに増加することが見込まれている。地域包括ケアシステム論では高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域包括ケアシステムのあり方について学ぶ。また、地域包括ケアシステムを理解した上で理学療法士・作業療法士が果たすべき役割、多職種連携について学ぶ。					
授業計画					
第1回	地域包括ケアシステムの概念				
第2回	介護保険制度の仕組みとサービス				
第3回	介護予防・日常生活支援総合事業の仕組みとサービス				
第4回	地域包括ケアシステムと在宅医療・介護連携				
第5回	認知症ケアシステムとリハビリテーション				
第6回	病期別リハビリテーション(急性期・回復期・維持期・ターミナル)				
第7回	多様な課題を抱え地域で暮らすあらゆる人々へのサービス提供システム				
第8回	多様な人々を対象とした専門職として作業療法士の役割と専門性について理解する				
第9回	地域包括ケアにおける多様な専門職および地域の人々との連携協働の意義				
第10回	地域包括ケアの取り組みの実際を知る【通所サービス・介護予防教室の役割】				
第11回	地域包括ケアの取り組みの実際を知る【訪問サービスの役割】				
第12回	地域包括ケアの取り組みの実際を知る【事例検討①】				
第13回	地域包括ケアの取り組みの実際を知る【事例検討②】				
第14回	地域包括ケアの取り組みの実際を知る【事例検討③】				
第15回	作業療法を活かした地域包括ケアシステムの事例検討課題発表				
教科書及び参考書					
適宜配布します。					
成績評価方法					
授業の出席状況・レポート課題					
オフィスアワー					
水曜日・木曜日・金曜日 17時以降					
履修にあたって必要な予備知識など					
自身の住まいの地域包括ケアシステムについて事前に情報収集しておくこと					
備考					
都合により内容を変更する場合があります					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	医療関係法規論	1単位	3年後期	小西知世（責任者）/上木原	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
法律のイメージ		PT・OTにかかわる法を具体的にイメージすることができるようになり、医療専門職として社会から何が求められているのか自覚できるようになる。			
理学療法士及び作業療法士法					
チーム医療と業務分担					
社会からの期待					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:理学療法学・作業療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
授業の概要					
理学療法士、作業療法士に限らず、医療関連職種はその職務遂行上、多岐にわたる法規のもとに業務がなされている。したがって、リハビリテーション医療の提供においては、業務遂行の基盤となりうる法規を理解することは不可避である。本講義では、リハビリテーション専門職として従事するために必要な法規および関連法規について理解するとともに、正しく職務を遂行するための根拠や判断基準を習得する。					
授業計画					
第1回	イントロダクション・法とは何か——法律に対するイメージ（小西）				
第2回	保健医療にかかわる法律とその全体像（小西）				
第3回	医療専門職種関連法規——概要（小西）				
第4回	医療専門職種関連法規——PTとOTの法律上の業務（小西）				
第5回	医療専門職種関連法規——医師と看護師の業務（小西）				
第6回	医療専門職種関連法規——PTとOTの業務をめぐる問題（小西）				
第7回	医療専門職種関連法規——その他リハ職の業務（小西）				
第8回	医療事故をめぐる法の枠組（上木原）				
第9回	医療事故をめぐる法の枠組（上木原）				
第10回	医療事故をめぐる法の枠組（上木原）				
第11回	医療事故をめぐる法の枠組（上木原）				
第12回	支えるシステムに関する法律——お金・サービスに関する法律（小西）				
第13回	支えるシステムに関する法律——さまざまなサポートに関する法律（小西）				
第14回	保健医療制度の基本法・場所に関する基本法——医療法（小西）				
第15回	講義をふりかえって（小西）				
教科書及び参考書					
教科書：『理学療法士のためのはじめての法律講座』（メディカ出版、2025年） 参考書：『看護をめぐる法と制度』（メディカ出版、第6版、2025年）					
成績評価方法					
定期試験70%、平常点30%（講義中の発言回数など）					
オフィスアワー					
随時（連絡先：tomoyo@meiji.ac.jp）					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし					
備考					
学習効果を得るために復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	作業療法管理学	1単位	3年後期	渡邊 基子	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
組織化		作業療法管理業務の意義と目的について説明できるように理解する。さらに、管理上のリスクマネジメントについても説明できるようにする。			
業務管理					
教育システム					
経営管理					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
授業の概要					
本科目では、一般的な管理業務を学修し、さらにリハビリテーション専門職としての業務ならびに作業療法士としての業務を適正に管理・運営できるようにし、作業療法管理の意義と目的について説明できるようにする。医療組織人としての適性を高め、人事管理、業務管理、管理者に求められる知識・技術ならびに教育業務について科学的根拠に基づき学修していく。					
授業計画					
第1回	作業療法における管理とは				
第2回	作業療法と医療サービス				
第3回	チームケアと多職種連携				
第4回	情報管理				
第5回	組織マネジメント				
第6回	人・物・経済性のマネジメント				
第7回	情報・時間・ストレスのマネジメント				
第8回	リスクマネジメント				
第9回	感染症対策				
第10回	作業療法の役割と職域				
第11回	職業倫理と権利擁護				
第12回	作業療法を取り巻く諸制度				
第13回	作業療法士としてのキャリアデザイン				
第14回	セルフマネジメント				
第15回	総括				
教科書及び参考書					
作業療法管理学 第3版 医歯薬出版株式会社					
成績評価方法					
授業への取り組み状況、提出課題などから総合的に評価する					
オフィスアワー					
水曜日・木曜日・金曜日：11時～17時					
履修にあたって必要な予備知識など					
特記なし					
備考					
学習効果を得るために復習の時間を確保すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	活動分析学	1単位	3年前期	渡邊 基子	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード			学修教育目標(学修成果)		
日常生活活動			ひとの暮らしを支える「活動」とは何かを知り、心身と作業の繋がりについて学び、活動分析的視点を習得する。		
活動分析					
作業分析					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
授業の概要					
ひとの暮らし（生活）に視点をあてた基本的な考えを踏襲しながら、非侵襲的な脳機能測定の進歩、社会脳などへの作業研究の広がりや踏まえて、ひとの活動を分析する視点を養う。「ひとにとって作業とは」「ひとが作業をするとは何か」をあらためて捉え、今後の作業療法支援の基礎となる分析的視点を学ぶ。					
授業計画					
第1回	作業療法における活動・作業分析の重要性				
第2回	国際機能分類（ICF）と活動分析				
第3回	生活行為向上マネジメント（MTDLP）の概念と活用				
第4回	生活行為向上マネジメント（MTDLP）のグループワーク				
第5回	作業療法理論、作業科学について				
第6回	人間作業モデル、カナダ作業遂行モデルについて				
第7回	認知行動アプローチ、COOPアプローチについて				
第8回	作業療法のクリニカルリーズニング				
第9回	作業分析について				
第10回	作業工程分析				
第11回	調理実習				
第12回	調理実習				
第13回	振り返りと発表準備				
第14回	発表				
第15回	発表・まとめ				
教科書及び参考書					
事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 第2版 一般社団法人日本作業療法士協会編集					
成績評価方法					
授業への取り組み状況、提出課題などから総合的に評価する					
オフィスアワー					
水曜日・木曜日・金曜日 13時～17時					
履修にあたって必要な予備知識など					
日常生活活動学の復習を行っておくこと					
備考					
学習効果を得るために予習・復習の時間を確保すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	身体障害作業治療学	1単位	3年前期	久保田 智洋(責任者)/ 廣瀬/金子	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
治療概念	身体機能に関する治療概論の基礎や援助の方法、作業を用いた介入について学ぶ。次に、疾患・障害ごとの作業療法評価の特徴や治療方法について学ぶ。				
生活支援					
リスク管理					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
授業の概要					
身体機能に関する治療概論の基礎や援助の方法、作業を用いた介入について学ぶ。次に、疾患・障害ごとの特徴を交えて作業療法評価の特徴や治療方法について講義やグループワークを介して学ぶ。さらに、疾患ごとの作業療法における思考過程を事例を通して習得する。					
授業計画					
第1回	作業療法における介入形態（関節可動域運動） 久保田				
第2回	作業療法における介入形態（バランス能力・他） 久保田				
第3回	リスク管理について（バイタル・転倒・他） 久保田				
第4回	到達度ワーク1・久保田				
第5回	脳血管障害の作業療法評価および生活支援等の介入について①・久保田				
第6回	脳血管障害の作業療法評価および生活支援等の介入について②・久保田				
第7回	パーキンソン病の作業療法評価および作業療法介入について①・久保田				
第8回	パーキンソン病の事例検討①・久保田				
第9回	パーキンソン病の事例検討①・久保田				
第10回	到達度ワーク2・久保田				
第11回	心疾患に対する作業療法（久保田・廣瀬）				
第12回	心疾患に対する作業療法の実践・まとめ（久保田・廣瀬）				
第13回	脳血管障害患者への急性期における目標設定と支援技術（久保田・金子）				
第14回	脳血管障害患者への急性期における上肢機能訓練等（久保田・金子）				
第15回	到達度ワーク3・久保田				
教科書及び参考書					
長崎重信監修・編集：身体障害作業治療学第3版（MEDICAL VIEW）					
成績評価方法					
到達度ワークおよび発表の点数の平均点を成績評価とする。この点数が60点に満たない場合は、再試験（レポート課題等）を行う。					
オフィスアワー					
水曜日10時～12時					
履修にあたって必要な予備知識など					
事前に疾患の予習をする					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	身体障害作業治療学実習	1単位	3年後期	久保田 智洋(責任者)/ 廣瀬/谷	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
基礎介入		身体障害に関する治療概論や援助の方法、作業を用いた介入について演習を通して基礎を学ぶ。次に、模擬患者を通して介入の基礎や実際の方法について習得したりする。			
治療援助演習					
模擬症例					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
授業の概要					
身体障害に関する治療概論や援助の方法、作業を用いた介入について演習を通して基礎を学ぶ。次に、模擬患者を通して介入の基礎や実際の方法についてグループワークを介して学ぶ。さらに、発表を通して自ら考案した介入についてのフィードバックをもらうことで知識を増やしたり、他学生の模擬患者への介入演習を聞くことで様々な思考過程を習得したりする。					
授業計画					
第1回	多職種連携について・久保田				
第2回	多職種における症例検討（ディスカッション）・久保田				
第3回	到達度演習（多職種における症例検討の発表）・久保田				
第4回	筋ジストロフィーに対する治療概論・援助方法・久保田				
第5回	脊髄小脳変性症に対する治療概論・援助方法・久保田				
第6回	到達度演習・久保田				
第7回	ALSに対する治療概論・援助方法・久保田				
第8回	多発性硬化症に対する治療概論・援助方法・久保田				
第9回	整形外科領域に対する治療概論・援助方法・久保田				
第10回	到達度演習・久保田				
第11回	呼吸器疾患への作業療法（久保田・廣瀬）				
第12回	呼吸器疾患への作業療法・実践（久保田・廣瀬）				
第13回	がん疾患に対する作業療法(基礎編)（久保田・谷）				
第14回	がん疾患に対する作業療法(実践編)（久保田・谷）				
第15回	到達度演習・久保田				
教科書及び参考書					
長崎重信監修・編集：身体障害作業治療学第3版（MEDICAL VIEW）					
成績評価方法					
各到達度演習の点数の平均点を成績評価とする。この点数が60点に満たない場合は、再試験（レポート課題等）を行う。					
オフィスアワー					
久保田 水曜日10時00分から11時00分					
履修にあたって必要な予備知識など					
事前に疾患の予習をする					
備考					
主体的な学修態度で臨むこと。学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	精神障害作業治療学	1単位	3年前期	皆藤知美(責任者)/ 島田/野村	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
精神障害		・精神保健福祉領域における作業療法の役割について説明できる。・精神障害作業療法の実践過程で必要な基本的視点を理解できる。			
疾患別作業療法					
他職種連携					
地域生活支援					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を身につける。					
授業の概要					
2年次で学んだ内容を基礎に精神保健福祉領域における作業療法の役割について学習する。また疾患別の作業療法において評価・治療・援助に至る一連の流れについても学習していく。					
授業計画					
第1回	オリエンテーション 我が国の精神科医療の現状と作業療法の変遷				
第2回	精神障害作業療法に関連する理論・モデル・技法(精神・心理療法)				
第3回	精神障害作業療法に関連する理論・モデル・技法(集団・作業技法)				
第4回	精神障害作業療法の評価の流れ				
第5回	作業療法の治療・支援構造と治療機序				
第6回	作業療法の治療・支援構造と治療機序				
第7回	疾患別作業療法(統合失調症)				
第8回	疾患別作業療法(気分障害)				
第9回	疾患別作業療法(神経症性障害, ストレス関連障害および身体表現性障害)				
第10回	疾患別作業療法(パーソナリティ障害, 摂食障害)				
第11回	疾患別作業療法(器質性精神障害, てんかん, 知的, 発達障害)				
第12回	疾患別作業療法(物質依存)				
第13回	地域生活支援, 就労支援, 関連法規, 制度				
第14回	地域生活支援, 就労支援, 関連法規, 制度				
第15回	振り返り・まとめ				
教科書及び参考書					
作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学 第3版(メディカルビュー社) その他配付資料					
成績評価方法					
定期試験100%					
オフィスアワー					
講義終了後またはメールにて受け付ける					
履修にあたって必要な予備知識など					
事前に疾患の予習をする					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	精神障害作業治療学実習	1単位	3年後期	皆藤知美(責任者) /野村	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
精神障害		<ul style="list-style-type: none"> ・精神障害領域での事例を通じた実践過程について学び、その一連の流れを適切に実施できる。 ・臨床現場で必要となる対象者とのかかわりや集団運営を経験できる。 			
作業					
集団					
グループワーク					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
授業の概要					
評価や治療学で学んだ精神障害領域における作業療法の実践過程について疾患別に事例を通じて学習する。また、臨床現場で必要とされる面接や治療援助技法、集団運営について体験的に学習する。					
授業計画					
第1回	オリエンテーション、精神障害作業治療学について復習				
第2回	非構造化面接、半構造化面接体験				
第3回	非構造化面接、半構造化面接体験				
第4回	テーマ別治療援助技法演習(認知行動療法等)				
第5回	テーマ別治療援助技法演習(認知行動療法等)				
第6回	テーマ別治療援助技法演習(SST等)				
第7回	テーマ別治療援助技法演習(SST等)				
第8回	レクリエーション企画・運営計画				
第9回	レクリエーション発表・実施				
第10回	レクリエーション発表・実施				
第11回	入院治療援助・評価・目標・作業療法介入；事例検討①				
第12回	入院治療援助・評価・目標・作業療法介入；事例検討②				
第13回	デイケア治療援助・評価・目標・作業療法介入；事例検討③				
第14回	地域生活支援				
第15回	振り返り・まとめ				
教科書及び参考書					
香山明美他編：生活を支援する精神障害作業療法急性期から地域実践まで第2版（医歯薬出版） その他配付資料					
成績評価方法					
<ul style="list-style-type: none"> ・演習課題への取り組み態度 ・事例発表・ディスカッションへの取り組み態度 ・質問・意見 ・演習課題レポート 以上の項目を総合的に評価する。					
オフィスアワー					
講義終了後またはメールにて受け付ける。					
履修にあたって必要な予備知識など					
事前に疾患の予習をする					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	発達障害作業治療学	1単位	3年前期	中村茂美(責任者)/加藤/ 新堀	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
発達障害		発達領域の障害に対する障害の特徴・診断基準などを説明し、作業療法士の介入のうち、初歩的な実践を理解できる。			
評価実践					
治療プログラム立案					
リスク管理					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
DP6: 作業療法士として地域で生活する障害のある幼児、児童等もしくは高齢者の課題に対して、新たな支援を展開して貢献できる。					
授業の概要					
正常発達、発達領域の障害に対する理解を深める。評価・治療プログラムの立案を学ぶ。そのうえで障害の特徴を把握し、子どもが発達し、周囲とともに生活するというライフステージの変化を踏まえて支援計画を立てるための、基本的な子どもの生活・障害像を理解する。					
授業計画					
第1回	オリエンテーション、子どもの作業療法とは (中村)				
第2回	胎児、0～7カ月の典型的発達 (加藤)				
第3回	8～1歳6カ月の典型的発達 (加藤)				
第4回	1歳7ヵ月～3歳の典型的発達 (加藤)				
第5回	3歳1ヵ月～5歳の典型的発達 (加藤)				
第6回	5歳1ヵ月～7歳の典型的発達 (加藤)				
第7回	対象疾患各論 (脳性小児まひ：痙直型) (新堀)				
第8回	対象疾患各論 (脳性小児まひ：アテトーゼ型、弛緩型) (新堀)				
第9回	対象疾患各論 (ダウン症候群、進行型筋ジストロフィー) (新堀)				
第10回	対象疾患各論 (二分脊椎、骨形成不全、分娩麻痺) (新堀)				
第11回	対象疾患各論 (場面緘黙、吃音、チック) (新堀)				
第12回	対象疾患各論 (自閉症スペクトラム) (新堀)				
第13回	対象疾患各論 (注意欠如多動障害) (新堀)				
第14回	対象疾患各論 (精神遅滞、てんかん) (新堀)				
第15回	対象疾患各論 (発達性協調運動障害) (中村)				
教科書及び参考書					
発達過程作業療法学 第3版 医学書院人間発達学 第3版 医学書院					
成績評価方法					
定期試験(50%)、グループワークの発表もしくはレポート課題(50%)					
オフィスアワー					
講義終了後またはメールにて受け付ける。					
履修にあたって必要な予備知識など					
正常発達の理解、1～2年時の知識					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	発達障害作業治療学実習	1単位	3年後期	中村茂美(責任者)/加藤/渡邊/新堀	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
発達障害		発達領域の障害に対する障害の特徴・診断基準などを説明し、作業療法士の介入のうち、初歩的な実践を行うことができる。成人期を見据えた支援計画を立てることができる。			
評価実践					
治療プログラム立案					
リスク管理					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
DP6:作業療法士として地域で生活する障害のある幼児、児童等もしくは高齢者の課題に対して、新たな支援を展開して貢献できる。					
授業の概要					
発達領域の障害に対する評価・治療プログラムの立案、介入技法の基礎的な実践を学ぶ。前提となる、障害の特徴を把握すること、子どもが発達し、周囲とともに生活するというライフステージの変化を踏まえて支援計画を立てることを目的とする。					
授業計画					
第1回	発達障害の作業療法に用いられている各種検査・評価法の整理 (加藤)				
第2回	発達障害の作業療法に用いられている各種検査・評価法の整理 (加藤)				
第3回	感覚統合療法と作業療法①(講義と演習) (加藤)				
第4回	感覚統合療法と作業療法②(講義と演習) (加藤)				
第5回	重症脳性麻痺児のポジショニングとシーティング①(講義と演習) (加藤)				
第6回	重症脳性麻痺児のポジショニングとシーティング②(講義と演習) (加藤)				
第7回	神経-発達学的治療アプローチと作業療法①(講義と演習) (渡邊)				
第8回	神経-発達学的治療アプローチと作業療法②(講義と演習) (渡邊)				
第9回	応用行動分析と作業療法(講義と演習) (新堀)				
第10回	自閉症児のためのTEACCHプログラム(講義) (新堀)				
第11回	発達障害児の身辺動作の援助①(講義と演習) (新堀)				
第12回	発達障害児の身辺動作の援助②(講義と演習) (新堀)				
第13回	発達障害児の身辺動作の援助③(講義と演習) (新堀)				
第14回	発達障害児の身辺動作の援助④(講義と演習) (新堀)				
第15回	小児における社会制度(育ちに困難さのある児に対して) (中村)				
教科書及び参考書					
発達過程作業療法学 第3版 医学書院人間発達学 第3版 医学書院 (2025年1月に全面改訂)					
成績評価方法					
定期試験(50%)、グループワークでの発表もしくはレポート課題(50%)					
オフィスアワー					
講義終了後またはメールにて受け付ける。					
履修にあたって必要な予備知識など					
正常発達の理解、1~2年時の知識					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	老年期障害作業治療学	1単位	3年前期	村木敏明	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
病期別作業療法		高齢者の心身・認知機能の特徴を踏まえ、疾患を有する高齢者との関わりを整理し、病期別の作業療法を説明できるようにする。さらに、地域在住高齢者の予防分野についても説明できるようにする。			
高齢者の特徴と評価法					
予防					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいて臨床的課題を発見・分析・解決できる能力を有している。					
DP6:作業療法士として障害のある幼児、児童等もしくは地域在住高齢者の支援に貢献できる。					
授業の概要					
本講義では、高齢者の特徴を踏まえ、疾患を有する高齢者との関わりを整理し、病期(急性期、回復期、維持期)別の作業療法について学修する。高齢者の作業療法を行う上で必要な評価の方法についても整理していく。さらに、地域在住高齢者に対しても予防分野の領域から学修し、地域在住高齢者の支援に貢献できる作業療法士を目指す。					
授業計画					
第1回	オリエンテーション、高齢者の理解([老いる]とは)				
第2回	老年期の生活課題				
第3回	加齢と身体機能(サルコペニア・フレイル予防)				
第4回	加齢と精神機能(閉じこもり予防・認知症)				
第5回	老年期作業療法評価・解釈・目標・介入				
第6回	老年期の評価 ① (医学的評価、身体機能の評価)				
第7回	老年期の評価 ② (認知機能の評価、心理・精神機能の評価)				
第8回	老年期の評価 ③ (生活の質の評価、社会状況の評価、生活機能の評価)				
第9回	老年期作業療法の留意点 ① (作業療法中のバイタルサイン)				
第10回	老年期作業療法の留意点 ② (栄養、服薬、疼痛、術後管理)				
第11回	老年期作業療法の留意点 ③ (退院時、在宅生活)				
第12回	事例検討 (グループワーク)				
第13回	事例検討 (グループワーク)				
第14回	事例検討発表会				
第15回	まとめ				
教科書及び参考書					
教科書 1. 小川・竹田編：認知症の作業療法 第2版、医歯薬出版					
教科書 2. 日本認知症ケア学会編：BPSDの理解と対応 ワールドプランニング					
成績評価方法					
筆記試験 50%、出席と積極的な授業(グループワーク)参加 50%					
オフィスアワー					
授業前後に対応					
履修にあたって必要な予備知識など					
老年医学の科目を復習しておくこと。					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	老年期障害作業治療学実習	1単位	3年後期	村木敏明	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
入院から施設・在宅への作業療法		○作業遂行の課題を根拠に基づいて把握する能力・技能 ○作業療法の実践に必要な情報を収集・分析・記録する能力・技能 ○作業療法プログラムを立案および実践する能力・技能			
基本動作指導					
転倒予防					
孤立予防					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいて臨床的課題を発見・分析・解決できる能力を有している。					
DP6:作業療法士として障害のある幼児、児童等もしくは地域在住高齢者の支援に貢献できる。					
授業の概要					
リスク管理に基づいた高齢者(軽度認知障害を含む)への対応を意識した老年期障害に対する心身機能や認知機能への働きかけ、動作介助方法を学修していく。さらに、高齢者に対するフレイル予防、閉じこもり(社会的孤立)予防についても作業療法士の視点より指導できるように学修し、地域在住高齢者の支援に貢献できるようにする。					
第1回					
オリエンテーション					
第2回					
老年期作業療法の基本的枠組み					
第3回					
虚弱・障害高齢者(フレイル)					
第4回					
軽度認知障害(MCI) CaseStudy					
第5回					
認知症高齢者 CaseStudy					
第6回					
入院時における作業療法介入					
第7回					
高齢者施設における作業療法介入					
第8回					
在宅訪問における作業療法介入					
第9回					
集団における作業療法介入					
第10回					
集団活動演習(グループワーク)					
第11回					
集団活動演習(グループワーク)					
第12回					
事例検討(グループワーク)					
第13回					
事例検討(グループワーク)					
第14回					
事例検討発表会					
第15回					
まとめ					
教科書及び参考書					
教科書 1. 小川・竹田編:認知症の作業療法 第2版、医歯薬出版					
教科書 2. 日本認知症ケア学会編:BPSDの理解と対応 ワールドプランニング					
筆記試験 50%、出席と積極的な授業(グループワーク)参加 50%					
オフィスアワー					
授業前後に対応					
履修にあたって必要な予備知識など					
前期の老年期障害作業治療学を復習しておくこと。					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	高次脳機能障害作業治療学	1単位	3年前期	六倉 悠貴	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
高次脳機能		人の認知（高次脳）機能を支える神経基盤を理解し、主な認知（高次脳）機能とその障害を知る。また、その評価方法を学ぶ。			
高次脳機能障害					
評価					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいて臨床的課題を発見・解決できる能力を有している。					
授業の概要					
認知（高次脳機能）とは、知覚、記憶、学習、思考、判断などの認知過程と行為の感情（情動）を含めた精神機能を総称する。その機能が病気や事故などによって障害が起きたとき、認知機能にどのような変化が起こり、それを作業療法の視点からどのように捉えるかについての基礎を学習する。					
授業計画					
第1回	認知機能とその神経基盤				
第2回	認知機能検査のスクリーニングについて				
第3回	注意機能の諸側面と注意障害				
第4回	注意障害の評価方法				
第5回	記憶機能の諸側面と記憶障害				
第6回	記憶障害の評価方法				
第7回	半側空間無視の諸側面				
第8回	半側空間無視の評価方法				
第9回	行為機能の諸側面と行為障害				
第10回	行為障害の評価方法				
第11回	言語機能の諸側面と言語障害				
第12回	言語障害の評価方法				
第13回	遂行機能の諸側面と遂行機能障害				
第14回	遂行機能障害の評価方法				
第15回	その他の高次脳機能障害について				
教科書及び参考書					
適宜資料配布					
成績評価方法					
レポート提出100%					
オフィスアワー					
17時以降であれば対応可能					
履修にあたって必要な予備知識など					
神経機能解剖の復習を行って講義に臨むこと。					
備考					
都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	高次脳機能障害作業治療学実習	1単位	3年後期	六倉 悠貴	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
高次脳機能		人の認知（高次脳）機能を支える神経基盤を理解し、主な認知（高次脳）機能とその障害を知る。また、その評価方法の実践を学ぶ。			
高次脳機能障害					
評価演習					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいて臨床的課題を発見・解決できる能力を有している。					
授業の概要					
高次脳機能障害への作業療法に関する具体的な介入方法や支援手段を理解し、基本的な知識や技能を取得する。また、症例検討を通して臨床的思考を学び、基本的な治療計画を作成できるようになることを目標とする。					
授業計画					
第1回	オリエンテーション, 高次脳機能障害の作業療法介入概要				
第2回	意識障害, 見当識障害への作業療法評価並びに、介入実践				
第3回	注意障害への作業療法評価実践				
第4回	注意障害への作業療法介入実践				
第5回	記憶障害への作業療法評価実践				
第6回	記憶障害への作業療法介入実践				
第7回	半側空間無視への作業療法評価実践				
第8回	半側空間無視への作業療法介入実践				
第9回	失行, 行為の障害への作業療法評価実践				
第10回	失行, 行為の障害への作業療法介入実践				
第11回	遂行機能障害への作業療法評価実践				
第12回	遂行機能障害への作業療法介入実践				
第13回	事例検討				
第14回	プレゼンテーション①				
第15回	プレゼンテーション②				
教科書及び参考書					
適宜資料配布					
成績評価方法					
レポート提出100%					
オフィスアワー					
17時以降であれば対応可能					
履修にあたって必要な予備知識など					
神経機能解剖の復習を行って講義に臨むこと。					
備考					
都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	義肢装具学(OT)	1単位	3年前期	董 玟伶	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
装具	疾患別適応	<ul style="list-style-type: none"> ・義肢と装具の違いについて説明できる。 ・疾患別に適応する装具を理解できる。 ・義手の適合判定基準を理解できる。 			
義肢					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
授業の概要					
<p>義肢装具についての役割や基本的な手の構造、運動メカニズムについて学ぶ。次に、各種義肢装具の機能や部品やその特徴を学び、適応疾患との関連性を紹介する。そして、作業療法で関わる疾患についての実践に関する講義および事例紹介を行う。最後に、事例紹介を通して臨床実践の流れや効果性について学ぶ。</p>					
授業計画					
第1回	腕神経叢麻痺の理解と装具の適応				
第2回	第6頸髄損傷の理解と装具の適応				
第3回	第7頸髄損傷の理解と装具の適応				
第4回	腱損傷の理解と装具の適応				
第5回	正中神経麻痺の理解と装具の適応				
第6回	尺骨神経麻痺の理解と装具の適応				
第7回	橈骨神経麻痺の理解と装具の適応、熱傷と脳卒中の装具				
第8回	リウマチの理解と装具の適応				
第9回	義手総論				
第10回	義手総論、前腕義手の適応				
第11回	上腕義手の適応、義手のチェック				
第12回	義足総論、体幹装具の適応				
第13回	下肢装具の適応				
第14回	装具適応事例の検討				
第15回	義肢適応事例の検討				
教科書及び参考書					
教科書：作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 義肢装具学 メディカルビュー 参考書：解剖学・運動学					
成績評価方法					
1回から13回までは確認テストを実施（70%）、14回・15回の事例検討（30%）で評価する					
オフィスアワー					
月曜日 11時～12時					
履修にあたって必要な予備知識など					
特記なし					
備考					
都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	義肢装具学実習(OT)	1単位	3年後期	董 玫伶(責任者)/ 久保	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
上肢装具	疾患別適応	<ul style="list-style-type: none"> ・疾患別装具の適応や義手の適合判定、評価を行うことができる。 ・模擬患者に適した装具を作成できる。 ・義手操作ができる。 			
疾患別適応	義手				
義手					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
授業の概要					
<p>本授業は、上肢を中心とした義肢装具に関する基礎的知識および実践的技能の習得を目的とする。人の手の機能と役割を理解したうえで、装具・義手の設計および作製に必要な基礎知識を学ぶ。実習では、カックアップスプリント、短対立装具、良肢位保持スプリントを対象に、設計・採型・成形・評価までの一連の作製工程を修得する。さらに、義手・義指の機能、種類、構造ならびに基本的な操作・訓練方法を学び、臨床実践例を通して、義肢装具が利用者果たす役割への理解を深める。</p>					
授業計画					
第1回	人の手の機能と役割				
第2回	装具作製前の知識				
第3回	装具作製 カックアップスプリント：設計・採型				
第4回	装具作製 カックアップスプリント：成形				
第5回	装具作製 カックアップスプリント：成形・評価				
第6回	装具作製 短対立装具：設計・採型				
第7回	装具作製 短対立装具：成形				
第8回	装具作製 短対立装具：成形・評価				
第9回	装具作製 良肢位保持スプリント：設計・採型				
第10回	装具作製 良肢位保持スプリント：成形				
第11回	装具作製 良肢位保持スプリント：成形・評価				
第12回	義手・義指の基礎（機能・種類・構造）				
第13回	義手の操作と訓練の基礎				
第14回	臨床の実践例(1)				
第15回	臨床の実践例(2)				
教科書及び参考書					
<p>教科書：作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 義肢装具学 メディカルビュー 参考書：解剖学・運動学、写真でみる 基本スプリントの作り方 監修 山口 淳 医歯薬出版株式会社</p>					
成績評価方法					
評価は出席や課題レポート等を総合して評価する。					
オフィスアワー					
火曜日 11時～12時					
履修にあたって必要な予備知識など					
特記なし					
備考					
都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	運動障害・健康障害の自立活動論・指導法	1単位	3年前期	岡村 正洋	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード			学修教育目標(学修成果)		
自立活動			肢体不自由・病弱特別支援学校の自立指導の概要や実践が分かり、理学療法士・作業療法士としてどんな支援・連携ができるかを主体的に考えることができる。		
個別の支援計画					
合理的配慮					
評価					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP8：特別支援学校に在籍している運動・健康障害のある障害のある子供たちの自立活動の指導・支援内容について理解を深め、理学療法士・作業療法士として教員等に対して適切な助言できる実践能力を高めることができる。					
授業の概要					
運動障害・健康障害（肢体不自由・病弱）のある子どもたちの日常生活や学習場面に様々なつまづきや困難が生じている。それらの子どもたちの発達段階を考慮して支援するばかりでなく、個々の障害による学習上又は生活上の困難を克服するための指導・支援が求められる。本授業では、肢体不自由及び病弱特別支援学校の自立活動の実践を考察しながら、理学療法士・作業療法士としてどのような指導・支援ができるかを考えたり、教育と医療の連携等について理解を深めたりする。					
授業計画					
第1回	肢体不自由の基礎知識と実態把握				
第2回	肢体不自由のある子供に応じた教育課程編成				
第3回	各教科の指導、進路指導と進路の状況 (肢体不自由)				
第4回	自立活動の指導① 健康の保持、心理的安定 (肢体不自由)				
第5回	自立活動の指導② 人間関係の形成、環境の把握 (肢体不自由)				
第6回	自立活動の指導③ 身体の動き、コミュニケーション (肢体不自由)				
第7回	自立活動の指導時間と指導形態等、情報機器の活用 (肢体不自由)				
第8回	病弱・身体虚弱の基礎知識と実態把握				
第9回	病弱・身体虚弱のある子供に応じた教育課程				
第10回	各教科の指導、進路指導と進路の状況 (病弱・身体虚弱)				
第11回	自立活動の指導① 健康の保持、心理的安定 (病弱・身体虚弱)				
第12回	自立活動の指導② 人間関係の形成、環境の把握 (病弱・身体虚弱)				
第13回	自立活動の指導③ 身体の動き、コミュニケーション (病弱・身体虚弱)				
第14回	重複障害の指導、医療的ケア児の実態と支援				
第15回	まとめ、振り返り				
教科書及び参考書					
教科書:特別支援教育の基礎・基本 ジアース社 後期の学校運営論でも使用する。					
成績評価方法					
定期試験100%					
オフィスアワー					
e-mailでの事前連絡をお願いします。okamura@u.a-ru.ac.jp					
履修にあたって必要な予備知識など					
教科書で予習・復習する時間を確保する。					
備考					
グループワークを時々行うので、動きやすい服装で授業に望んで欲しい。 学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	リハビリテーション工学	1単位	3年後期	渡邊大貴	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
リハビリテーション工学		支援機器に関する知識と技能を習得する。障害者・児の病態を理解し、支援機器の活用について説明することができる。リハビリテーション工学の臨床応用例、医工学連携について学び、これからの作業療法士に求められる役割について理解する。			
支援機器					
ロボット					
医工学連携					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
授業の概要					
リハビリテーション工学を理解するために、その歴史、手法、および実際の使用例について講義する。医工融合研究の実例を通して医工学連携について学び、これからの作業療法士に求められる役割について議論する。障害者・児の特性に適合した支援機器の選定や開発、利用方法について学修する。					
授業計画					
第1回	リハビリテーション工学の歴史と概念				
第2回	障害福祉分野：障害者総合支援法と補装具費支給制度の理解				
第3回	医療・介護分野におけるロボットの活用例（移乗・移動支援など）				
第4回	ニーズ（課題や要望）の調査、作業適応について				
第5回	医工融合研究の実例① 支援機器開発、生活環境デザイン				
第6回	医工融合研究の実例② 上肢用ロボットの活用				
第7回	医工融合研究の実例③ 下肢用ロボットの活用				
第8回	医工融合研究の実例④ 起立着座支援機器の開発				
第9回	医工融合研究の実例⑤ 重度障害者用意思伝達装置の試用				
第10回	医工融合研究の実例⑥ 計測機器、脳活動とVRの応用				
第11回	障害者自立支援機器 ニーズ・シーズマッチング交流会 2026（現地参加予定）				
第12回	障害者自立支援機器 ニーズ・シーズマッチング交流会 2026（現地参加予定）				
第13回	障害者自立支援機器 ニーズ・シーズマッチング交流会 2026（現地参加予定）				
第14回	障害者自立支援機器 ニーズ・シーズマッチング交流会 2026（現地参加予定）				
第15回	障害者自立支援機器 ニーズ・シーズマッチング交流会 2026 グループ発表会				
教科書及び参考書					
教科書：特になし、配布資料が中心になります。 参考書：リハビリテーションMOOK リハビリテーション工学と福祉機器、2015年、金原出版株式会社、参考書：生活支援工学概論、2013年、コロナ社					
成績評価方法					
症例発表会でのプレゼンテーションと発表資料の提出（100%）					
オフィスアワー					
火：13時30分～15時00分、金：10時30分～12時30分（事前に相談をし日程を決める事）					
履修にあたって必要な予備知識など					
分からないことはその場で確認、質問をすること。					
備考					
授業中に使用するスライドデータの撮影（動画も含む）は禁止する。 学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 「障害者自立支援機器 ニーズ・シーズマッチング交流会 2026」は、例年12月に開催を予定しています。 医工融合研究の実例は、外部講師が担当する予定なので日程が多少前後する可能性があります。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	職業リハビリテーション学	1単位	3年前期	浅野 有子	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
就労支援	福祉的就労	障害者雇用	自己決定支援	障害者の雇用環境と支援のプロセスを理解し、専門職として課題を見出すことができる。課題解決のための手法や取り組みについて理解ができる。地域の実情を知る。作業療法の可能性を考える。	
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 作業療法分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
授業の概要					
障害者が何らかの働く場を得ることは単なる収入の安定だけでなく、仕事という役割の遂行を通じて社会的承認を獲得し、さらに職場の仲間や友人が増え、結果として個人の生活が豊かになるものであることを理解する。障害のある人々の活動や参加の支援に作業療法が果たすべき役割がわかる。就労についての機能・能力の評価就労と就労継続のための練習や支援の実際に触れ、必要時に自分なりに調べたり、関連職種や機関との連携ができるための基礎を身につける					
授業計画					
第1回	地域での作業療法の現状 職業関連活動について				
第2回	障害者と職業について				
第3回	障害者の職業関連活動と作業療法について				
第4回	障害別就労支援の実際 ①				
第5回	障害別就労支援の実際 ②				
第6回	障害別就労支援の実際 ③				
第7回	評価やアセスメントについて				
第8回	課題抽出と基本プログラムについて				
第9回	職業領域での作業療法の可能性				
第10回	職業領域支援の実際① (外部情報提供者 同行)				
第11回	職業領域支援の実際② (外部情報提供者 同行)				
第12回	職業領域支援の実際③ (外部情報提供者 同行)				
第13回	障害者就労の社会資源 学生の調査発表				
第14回	障害者就労の社会資源 学生の調査発表				
第15回	振り返り・まとめ				
教科書及び参考書					
教科書 第12巻 作業療法技術学4 職業関連活動I 協同医書出版 適宜資料配布 厚生労働省編職業適性評価を実施予定					
成績評価方法					
課題提出 (50%) および定期試験 (50%)					
オフィスアワー					
授業の前後にご質問ください。					
履修にあたって必要な予備知識など					
作業療法について 働くために必要な力について 地域の支援について興味を持っておいていただく					
備考					
ゲスト 情報プレゼンターを予定している。2名 習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					学

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	カウンセリング論	1単位	3年後期	野村聖子(責任者) / 幅崎/折山	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
心理カウンセリング		治療および予防を目的とした心理カウンセリング(心理療法)を理解し、さまざまな角度からのカウンセリング技法を体験する。			
種々のカウンセリング					
認知行動療法					
芸術療法・音楽療法					
キャリアカウンセリング					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
授業の概要					
<p>カウンセリング(心理療法)には様々なアプローチがある。なかでも芸術療法などは科学的根拠に基づく技法として作業療法士からのニーズも高い。最近では認知行動療法(CBT、SSTなど)もそのひとつである。そのほか、医療制度の外でのカウンセリングとしてはキャリアカウンセリングは働く人になじみのある手法である。これらの基礎を学ぶと同時に、医療従事者をはじめとする健常者もストレス予防を目的に活用できるよう演習を通して実際に体験する。</p>					
授業計画					
第1回	カウンセリングとは				
第2回	認知行動療法とは				
第3回	うつ病と認知行動療法				
第4回	認知面へのアプローチ①(認知再構成法5コラム)				
第5回	行動面へのアプローチ①				
第6回	行動面へのアプローチ②				
第7回	コミュニケーション面へのアプローチ①(アサーショントレーニング)				
第8回	コミュニケーション面へのアプローチ②(集団療法)				
第9回	認知行動療法の終結と再発予防①				
第10回	非言語的アプローチ①(芸術療法・音楽療法)				
第11回	非言語的アプローチ②(芸術療法・音楽療法)(折山)				
第12回	非言語的アプローチ③(芸術療法・音楽療法)(折山)				
第13回	キャリアカウンセリング①(幅崎)				
第14回	キャリアカウンセリング②(幅崎)				
第15回	作業療法学分野への応用、振り返り				
教科書及び参考書					
<ul style="list-style-type: none"> ・日本医療研究開発機構(AMED)「認知行動療法の共通基盤マニュアル」 ・厚生労働省「うつ病の認知療法・認知行動療法 治療者用マニュアル」 ・厚生労働省「うつ病の認知療法・認知行動療法」(患者さんのための資料) その他の資料は授業内で配布します					
成績評価方法					
定期試験40%レポート60%					
オフィスアワー					
事前に連絡下さいnomura@u.a-ru.ac.jp					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし					
備考					
都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	サクセスフル・エイジング論	1単位	3年前期	田中喜代次(責任者)/小崎	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
健幸華齢		「健幸華齢」のためのスマートエクササイズ、スマートダイエット、スマート脳トレ、スマート服薬の内容について理解を深める。			
スマートライフ					
スマートエクササイズ					
スマートダイエット					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。 DP3: 作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
授業の概要					
少子高齢化時代に限らず、いつの時代においても、子どもから高齢者まで、Quality of Life (QoL) を良好に保持する (=サクセスフル・エイジング: 健幸華齢) ための包括的なサポート (支援) が望まれている。そこで本講義では、多くの日本国民が身体的・精神的・社会的なフレイル化への移行を阻止し、心身の両面で良好な状態をできるだけ長く維持できることを願い、スマートライフ・スマートエクササイズ・スマートダイエットなどのあり方について概説する。					
授業計画					
第1回	少子高齢化社会 (人口構造の変化)、百寿者の増加など (田中)				
第2回	QoL (生活の質、人生の質) を良好に保持するスマートライフ (田中)				
第3回	食生活・栄養、運動・フィットネス、睡眠・休養の重要性 (田中)				
第4回	服薬の功罪: 高血糖、高血圧、高脂血、不眠に対する服薬と運動 (田中)				
第5回	転倒防止策について (田中)				
第6回	健幸華齢のためのスマートダイエット① (田中)				
第7回	健幸華齢のためのスマートダイエット② (田中)				
第8回	スマートエクササイズ (総論) (小崎)				
第9回	元気長寿のためのスロートレーニングなど (小崎)				
第10回	介護予防対策としてのシルバーリハビリ体操など (小崎)				
第11回	健幸華齢のためのスマート脳トレ① (小崎)				
第12回	健幸華齢のためのスマート脳トレ② (小崎)				
第13回	健幸華齢のためのスマート服薬 (小崎)				
第14回	その他スマートライフのための知識等 (小崎)				
第15回	統合型地域スポーツクラブについて (小崎)				
教科書及び参考書					
健幸華齢のためのスマートライフ(サンライフ企画) ¥2,800+税					
成績評価方法					
学期末試験100%					
オフィスアワー					
授業後に対応					
履修にあたって必要な予備知識など					
特記なし					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	地域作業療法学	1単位	3年前期	中村茂美(責任者)/ 久保田/皆藤	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
地域	多職種連携	個別支援	地域作業療法の全体ならびに特に小児期、成人期における地域作業療法の実際について説明ができる。また地域社会への参加について理解できる。		
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
授業の概要					
現在では地域包括ケアシステムなど様々な制度を基盤にして多くの作業療法士が地域で活躍している。本講義では、地域作業療法の全体像を捉え、各期(小児期、成人期)での個別の地域作業療法の実際について学修する。その情報から科学的根拠に基づいて地域で活躍できる作業療法士を養成し、さらに学生が地域に貢献したいという思いを持てるような講義にしていく。					
授業計画					
第1回	小児分野の制度と運用について(中村)				
第2回	小児分野の作業療法実践例(中村)				
第3回	事例検討、プレゼン①(中村)				
第4回	事例検討、プレゼン②(中村)				
第5回	事例検討、プレゼン③(中村)				
第6回	就労支援事業等における制度と運用について(皆藤)				
第7回	就労支援事業分野での作業療法実践例(皆藤)				
第8回	事例検討、プレゼン①(皆藤)				
第9回	事例検討、プレゼン②(皆藤)				
第10回	事例検討、プレゼン③(皆藤)				
第11回	通所・訪問事業等における制度と運用について(久保田)				
第12回	通所・訪問事業分野での作業療法実践例(久保田)				
第13回	事例検討、プレゼン①(久保田)				
第14回	事例検討、プレゼン②(久保田)				
第15回	事例検討、プレゼン③(久保田)				
教科書及び参考書					
適宜資料配布					
成績評価方法					
事例演習のプレゼンで評価する					
オフィスアワー					
17時以降であれば対応可能					
履修にあたって必要な予備知識など					
特記なし					
備考					
都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	バリアフリー論	1単位	3年後期	幅崎・徳田	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
バリア		世の中にある施設・設備の適切性を評価し、不適切な点や不十分な点があれば、改善策を提示することができる			
点字ブロック					
手引き					
心のバリアフリー					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
授業の概要					
バリアフリーとユニバーサルデザインの基本的な考え方を説明したうえで、世の中にある物理的なバリアの解消を目的とした施設・設備（点字ブロック、スロープ、各種の福祉機器など）、情報のバリアや心理的バリアの解消を目的にした機器や取組みなど、様々なバリアフリーの手法について講義する。					
第1回					
10/7	バリアとは何か：バリアフリー概論、4つのバリア 【幅崎】				
第2回					
10/7	あなたの生活上のバリアとは？ バリアフリーの視点 グループワーク 【幅崎】				
第3回					
10/14	グループ発表 【幅崎】				
第4回					
10/14	車いす使用者、高齢者、聴覚障害者、知的障害者、発達障害者、妊婦、幼児、外国人、移住者、心のバリアのバリアを考える グループワーク 【幅崎】				
第5回					
10/21	第4回と同じ 調査とパワーポイントの作成 グループワーク 【幅崎】				
第6回					
10/21	第4回と同じ パワーポイントの内容を報告 グループ発表 【幅崎】				
第7回					
10/28	車いす使用者が語るバリアと求める支援 車いす使用者の藤田晃子氏 【徳田】				
第8回					
10/28	妊婦と乳幼児のバリアについて話を聞こう 【徳田】				
第9回					
11/4	知的障害を持つ方のバリアを考える 【幅崎】				
第10回					
11/4	知的障害を持つ方や支援をしている方々の話を聞こう ゲスト講師 【幅崎】				
第11回					
11/11	自分の家族や知人にバリアについて尋ねよう 【幅崎】				
第12回					
11/11	自分が調べたバリアについて、グループで共有しよう グループワーク 【幅崎】				
第13回					
11/25	視覚障害者のバリアを考える 点字ブロック 【徳田】				
第14回					
11/25	視覚障害者の話を聞こう 明石市視覚障害者福祉協会の油谷英俊氏 【徳田】				
第15回					
12/2	グループワークの発表とまとめ 【幅崎】				
教科書及び参考書					
教科書は使用しない。参考書として徳田克己監修『みんなのバリアフリー 3部作』（あかね書房）2018年 を使用し、その内容をパワーポイントで示す。					
成績評価方法					
グループ発表の成績（50%）と授業終了後に出すレポート（50%）。					
オフィスアワー					
e-mailでの事前連絡をお願いします。habazaki@u.a-ru.ac.jp					
履修にあたって必要な予備知識など					
自分のまわりにある施設や設備の使いやすさなどに注意を払った生活をしてほしい。					
備考					
グループワークやディベートを行う授業なので、積極的に参加してほしい。学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。授業の進捗や受講者の関心等に応じて、内容や講義の順番を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	地域作業療法学実習Ⅰ	1単位	3年前期	皆藤知美(責任者)/中村/石上	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
地域作業療法		作業療法士として地域社会に貢献したいという思いを持つことができる。			
療育支援					
予防支援					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいて臨床的課題を発見・解決できる能力を有している。					
DP4: 作業療法士として地域社会に貢献したいという思いが強く常に努力することができる。					
授業の概要					
バーチャル的に地域における作業療法について実践的に学び、対象者のリスク管理や事業運営について学び、地域の人びとと接することで、地域社会に貢献出来る様に学修する。					
授業計画					
第1回	オリエンテーション、見学等に向けた準備 (皆藤/中村/石上)				
第2回	地域作業療法の現場見学等に向けた準備 (皆藤/中村/石上)				
第3回	地域作業療法の実際(小児領域/中村・成人領域/石上・準備-振り返りレポート/皆藤)				
第4回	地域作業療法の実際(小児領域/中村・成人領域/石上・準備-振り返りレポート/皆藤)				
第5回	地域作業療法の実際(小児領域/中村・成人領域/石上・準備-振り返りレポート/皆藤)				
第6回	地域作業療法の実際(小児領域/中村・成人領域/石上・準備-振り返りレポート/皆藤)				
第7回	地域作業療法の実際(小児領域/中村・成人領域/石上・準備-振り返りレポート/皆藤)				
第8回	地域作業療法の実際(小児領域/中村・成人領域/石上・準備-振り返りレポート/皆藤)				
第9回	地域作業療法の実際(小児領域/中村・成人領域/石上・準備-振り返りレポート/皆藤)				
第10回	地域作業療法の実際(小児領域/中村・成人領域/石上・準備-振り返りレポート/皆藤)				
第11回	地域作業療法の実際(小児領域/中村・成人領域/石上・準備-振り返りレポート/皆藤)				
第12回	地域作業療法の実際(小児領域/中村・成人領域/石上・準備-振り返りレポート/皆藤)				
第13回	地域作業療法の実際(小児領域/中村・成人領域/石上・準備-振り返りレポート/皆藤)				
第14回	地域作業療法の実際(小児領域/中村・成人領域/石上・準備-振り返りレポート/皆藤)				
第15回	レポート課題・まとめ・発表 (皆藤/中村/石上)				
教科書及び参考書					
作業療法テキスト 地域作業療法学(メディカルビュー)					
成績評価方法					
レポート課題100%					
オフィスアワー					
17時以降であれば対応可能					
履修にあたって必要な予備知識など					
地域での活動に相応しい服装・マナーを認識すること。					
備考					
実際の現場を見学に行くため、車等の移動を伴う。グループに分かれて、各領域を見学に行く。現場の状況によっては、若干スケジュールが変更になる。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	地域作業療法学実習Ⅱ	1単位	3年後期	皆藤知美(責任者)/中村/石上	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
介護予防教室		作業療法士として地域社会に貢献したいという思いを持つことができる。			
機能評価					
指導					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいて臨床的課題を発見・解決できる能力を有している。					
DP4:作業療法士として地域社会に貢献したいという思いが強く常に努力することができる。					
授業の概要					
地域作業療法実習Ⅰを踏まえて、実際に地域の事業を運営するにあたって必要な知識・技術を身に付け、地域の人びとと接することで、地域社会に貢献したいという思いを持てるように学修する。					
授業計画					
第1回	オリエンテーション、見学等に向けた準備 (皆藤/中村/石上)				
第2回	地域作業療法の現場見学等に向けた企画立案-準備 (皆藤/中村/石上)				
第3回	地域作業療法の実際(小児領域/中村・成人領域/石上・企画準備-振り返りレポート/皆藤)				
第4回	地域作業療法の実際(小児領域/中村・成人領域/石上・企画準備-振り返りレポート/皆藤)				
第5回	地域作業療法の実際(小児領域/中村・成人領域/石上・企画準備-振り返りレポート/皆藤)				
第6回	地域作業療法の実際(小児領域/中村・成人領域/石上・企画準備-振り返りレポート/皆藤)				
第7回	地域作業療法の実際(小児領域/中村・成人領域/石上・企画準備-振り返りレポート/皆藤)				
第8回	地域作業療法の実際(小児領域/中村・成人領域/石上・企画準備-振り返りレポート/皆藤)				
第9回	地域作業療法の実際(小児領域/中村・成人領域/石上・企画準備-振り返りレポート/皆藤)				
第10回	地域作業療法の実際(小児領域/中村・成人領域/石上・企画準備-振り返りレポート/皆藤)				
第11回	地域作業療法の実際(小児領域/中村・成人領域/石上・企画準備-振り返りレポート/皆藤)				
第12回	地域作業療法の実際(小児領域/中村・成人領域/石上・企画準備-振り返りレポート/皆藤)				
第13回	地域作業療法の実際(小児領域/中村・成人領域/石上・企画準備-振り返りレポート/皆藤)				
第14回	地域作業療法の実際(小児領域/中村・成人領域/石上・企画準備-振り返りレポート/皆藤)				
第15回	レポート課題・まとめ・発表 (皆藤/中村/石上)				
教科書及び参考書					
作業療法テキスト 地域作業療法学(メディカルビュー)					
成績評価方法					
レポート課題100%					
オフィスアワー					
17時以降であれば対応可能					
履修にあたって必要な予備知識など					
地域での活動に相応しい服装・マナーを認識すること。					
備考					
実際の現場を見学に行くため、車等の移動を伴う。グループに分かれて、各領域を見学に行く。現場の状況によっては、若干スケジュールが変更になる。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	臨床実習Ⅱ	4単位	3年後期	野村 聖子(実習責任者)/皆藤 知美 (実習調整者)他教員	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード			学修教育目標(学修成果)		
作業療法評価 統合と解釈 作業療法アプローチ立案 主体的な学修態度			対象者ならびに家族のニーズを引き出し、対象者の課題や解決方法について科学的根拠に基づき解釈することができる。		
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1:人を尊び、多様な価値観を理解し、人の輪の中で守るべき秩序を持って、地域住民に対して身体的・精神的苦痛に寄り添うことができる能力を有している。					
DP2:作業療法士として地域住民を取り巻く多職種と信頼関係を築く為の円滑なコミュニケーション能力を有し、様々な分野の専門職業人と課題を共有して協働することができる。					
DP3:作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
DP4: 作業療法士として地域社会に貢献したいという思いが強く、幅広い教養と柔軟な発想力を持って、常に努力することができる。					
DP5:作業療法士として変化し得る様々な課題に対して、使命感と責任感のもとで自ら学び続ける探求心を持ち、研究することができる。					
授業の概要					
<p>実習施設にて作業療法評価学Ⅰ・Ⅱで学修した作業療法評価を対象者に対して、指導者の監視の下、指導を受けながら見学→模倣→実践をする。また、対象者ならびに家族のニーズを引き出し、対象者の課題について評価結果から得られた情報を統合し、科学的根拠に基づいた視点から対象者の全体像を解釈していく。さらに、結果から問題点を抽出し、問題を解決する為にはどのような解決方法があるのかについても科学的根拠に基づき検証する。これらの工程から、対象者の目標を設定し、治療計画を立案する。これら一連の実習過程を通して、リハビリテーション関連職種の業務内容を踏まえた上で、チームアプローチの構築の仕方並びに、その重要性についても理解する。そして、実習を主体的に行うために日々の記録や対象者について報告書を作成する。それらの内容について作業療法士として社会に貢献していくために臨床的課題や解決方法について指導者と共に思考する。その内容を実習終了後に学内で報告する。</p>					
授業計画					
【実習前】	オリエンテーション、実習セミナー、筆記試験、OSCE				
1週目	施設実習 病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
2週目	施設実習 病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
3週目	施設実習 病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
4週目	施設実習 病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
【実習後】	実習振り返りならびに報告会、OSCE				
教科書及び参考書					
特に定めず					
成績評価方法					
実習指導者評価・実習課題、実習課題の提出、実習報告会、実習参加後の習熟度などを、総合的に評価する。					
オフィスアワー					
野村	火・水曜日 13時00分～17時30分				
中村	月曜日・水曜日・木曜日 17時00分～17時50分				
久保田	水曜日 10時00分～11時00分				
渡邊	木曜日・金曜日 13時00分～17時00分				
岩本	月曜日・火曜日・水曜日 14時00分～15時00分、17時00分～17時50分				
皆藤	月曜日～木曜日 10時00分～12時00分 15時00分～17時00分				
石上	月曜日・水曜日・木曜日 10時30分～12時50分、17時00分～17時50分				
履修にあたって必要な予備知識など					
臨床実習Ⅱで体験することができる事項について確認しておくこと。					
備考					
学外での実習となります。社会的モラルには十分意識するように。【実習前】筆記試験ならびにOSCEは、実習参加の可否を決定する診断評価として実施し、【実習後】OSCEは、実習参加後の習熟度評価として実施する。【実習前】の筆記執権ならびにOSCEが不合格の場合は、補習期間を設け、再試験とする。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
展開科目	体力測定実習	2単位	3年通年	石上聖子(責任者)/ 六倉	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
介護予防教室	機能評価	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な体力をもつ対象者の体力要素測定方法と理論を習得する。 ・測定後の基本的統計処理方法を習得する。 ・得られた測定結果を基に考察し、文章にすることができる。 			
指導					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP6: 作業療法士として地域で生活する障害のある幼児、児童等もしくは高齢者の課題に対して、新たな支援を展開して貢献できる。					
授業の概要					
<p>具体的な体力測定の方法を体力要素別に習得し、測定結果を適切に統計処理して体力を評価する。また、それらの内容を習得するにあたっては、一般介護予防事業の概要と対象者に検査・測定ができるようになる。その結果を踏まえて、リハビリテーションプログラム立案をするまでの一連の思考過程を学ぶ。</p>					
授業計画					
第1回	科目概要説明及び、体力測定の方法について				
第2回	体力測定の実践について				
第3回	体力測定に向けた演習				
第4回	学生間での測定を実施する				
第5回	体力測定を実施/測定後の統計処理①				
第6回	体力測定を実施/測定後の統計処理②				
第7回	青年期における体力測定のまとめ(発表)①				
第8回	青年期における体力測定のまとめ(発表)②				
第9回	地域高齢者の体力等の現状についてリサーチ(学内)				
第10回	地域高齢者の体力等の現状についてリサーチ(学内)				
第11回	地域高齢者と青年期の体力等の比較に向けたリサーチ(学内)				
第12回	地域高齢者と青年期の体力等の比較に向けたリサーチ(学内)				
第13回	介護予防に必要なプログラムの検討(学内)				
第14回	振り返り・まとめ・発表①				
第15回	振り返り・まとめ・発表②				
教科書及び参考書					
適宜配布する。					
成績評価方法					
まとめと発表にて成績評価とする。					
オフィスアワー					
六倉 火曜日 14:00~15:00 石上 月曜日・木曜日 10:00~14:00					
履修にあたって必要な予備知識など					
高齢期と青年期における特性について					
備考					
学生間での測定の際は、十分リスクに気を付けること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
展開科目	高齢者健康づくり政策論	2単位	3年後期	中村(科目責任者)・渡邊・渡邊・青木・石渡	選択
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
高齢者	心身の健康教育	政策	行政	高齢者の心身の健康課題を理解することができ、政策としての取組過程について説明することができる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP6: 作業療法士として地域で生活する障害のある幼児、児童等もしくは高齢者の課題に対して、新たな支援を展開して貢献できる。					
授業の概要					
高齢者の健康問題や課題を理解し、行政による高齢者の健康教育および健康づくりにおいて人材育成活動経験をもつ教員が、政策としてどのように行うかを解説する。政策として取り組むため必要な課題、その解決方法について概説していく。政策として起動させていくための仕組みや体制強化についても様々な事例を用いながら解説する。					
授業計画					
第1回	「行政」とは何か	(中村)			
第2回	高齢者の現状と保健政策	(中村)			
第3回	高齢者の身体健康問題とは	(渡邊大貴)			
第4回	土浦市の高齢者健康づくり政策-1	(青木)			
第5回	土浦市の高齢者健康づくり政策-2	(青木)			
第6回	高齢者の身体健康教育とは	(渡邊大貴)			
第7回	高齢者の精神健康問題とは	(渡邊基子)			
第8回	高齢者の精神健康教育とは	(渡邊基子)			
第9回	地域包括ケアシステムとは	(中村)			
第10回	高齢者の転倒予防	(渡邊大貴)			
第11回	事例に基づいた健康教育事業計画立案(グループワーク)	(中村・渡邊・渡邊)			
第12回	事例に基づいた健康教育事業計画発表(グループワーク)	(中村・渡邊・渡邊)			
第13回	介護予防教室の実践例	(石渡)			
第14回	介護予防教室の効果測定	(中村)			
第15回	まとめ	(中村・渡邊・渡邊)			
教科書及び参考書					
適宜提示する。					
成績評価方法					
グループワーク、事業計画立案、プレゼン等で総合的に評価する					
オフィスアワー					
中村 水曜日・木曜日・金曜日 17時00分～17時50分					
渡邊 木曜日・金曜日 13時00分～17時00分					
履修にあたって必要な予備知識など					
特記なし					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
展開科目	学校運営論	2単位	3年後期	十河克次(責任者)/廣沢/高野	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
障害児	特別支援教育	障害のある児童・生徒を教育する特別支援学校及び小・中学校の運営組織や学校経営目標に基づく教育実践等について概観する。			
学校経営	教育実践				
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1:地域に暮らす多様な価値観を持った人々への生活・文化を尊重することができる。					
DP2:豊かな人間性と倫理観を備えることができる。					
DP6:地域や世代における様々な生活上の健康課題を把握し、解決するために真摯に取り組むことができる。					
授業の概要					
(オムニバス方式/全15回)					
(55. 廣沢 純子/5回) 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築及び特別支援教育の状況について概観し、特別支援学校の学校経営方針に基づく実践を知ることができる。					
(56. 十河 克次/5回) 障害種に応じた特別支援学校の現状や教育内容等について理解し、医療、福祉及び労働といった外部機関との連携のあり方等、特別支援学校における学校運営について知ることができる。					
(57. 高野 都/5回) 小・中学校の特別支援学級や通常の学級における障害のある児童生徒について概観し、小・中学校における特別支援教育の実践や運営等を知ることができる。					
授業計画					
第1回	共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築【第1部-1章】(廣沢)				
第2回	インクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育の推進①【第1部-2章】(廣沢)				
第3回	インクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育の推進②【第1部-2章】(廣沢)				
第4回	特別支援学校の教育【第1部-3章】(廣沢)				
第5回	小学校・中学校等における特別支援教育(廣沢)				
第6回	視覚障害について【第2部-1章】(十河)				
第7回	聴覚障害について【第2部-2章】(十河)				
第8回	知的障害について【第2部-3章】(十河)				
第9回	肢体不自由について【第2部-4章】(十河)				
第10回	病弱・身体虚弱について【第2部-5章】(十河)				
第11回	言語障害教育について【第2部-7章】(高野)				
第12回	情緒障害について【第2部-8章】(高野)				
第13回	自閉症について【第2部-9章-1】(高野)				
第14回	学習障害について【第2部-9章-2】(高野)				
第15回	注意欠陥多動性障害について【第2部-9章-3】(高野)				
教科書及び参考書					
特別支援教育の基礎・基本(ジアース)					
成績評価方法					
試験・レポート					
オフィスアワー					
授業後に対応					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
展開科目	ヘルスケアマーケティング論	2単位	3年後期	近藤 千雅	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
マーケティング		ヘルスケア・マーケティングの理解を深め、保険外のサービスや医療専門職以外の多様なキャリアの可能性や、その作り方を想像できるようになること。			
キャリアパス					
ブランディング					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP7: 事業やプロジェクトをマネジメントする必要性について考え、マネジメントすることができる。					
授業の概要					
本授業では、ヘルスケア分野におけるマーケティングの基本原則と応用を学びます。保険外サービスの展開や非医療専門職としてのキャリアを視野に入れ、マーケティング戦略の立案から実行までのプロセスを理解します。実践的な学びを通じて、ヘルスケア市場における多様なキャリアパスとマーケティングの重要性を理解することを目指します。					
授業計画					
第1回	ガイダンス、マーケティングの重要性				
第2回	マーケティング理論の基礎理論、事業計画書について				
第3回	ヘルスケアマーケティング				
第4回	ヘルスケア市場の調査				
第5回	SNSマーケティング、デジタルマーケティングの基礎				
第6回	ブランディングとパーソナルブランディング				
第7回	顧客関係管理（CRM）、イノベーションと起業				
第8回	保険外サービスの事例研究				
第9回	医療専門職としての生涯年収の計算				
第10回	他のキャリアを考える、キャリアアンカー				
第11回	事業計画書について				
第12回	事業計画書の作成				
第13回	事業計画書の作成				
第14回	事業計画書の最終発表会				
第15回	事業計画書の最終発表、フィードバック				
教科書及び参考書					
なし					
成績評価方法					
出席および、課題の提出および発表					
オフィスアワー					
授業の前後の時間、メールでも可(kondou@u. a-ru. ac. jp/chika-kondo@marianna-u. ac. jp)					
履修にあたって必要な予備知識など					
とくにありません					
備考					
グループワークが多くなります。場合によっては授業時間外に課題に取り組んでいただくかもしれません。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
総合科目	作業療法研究法演習Ⅰ	2単位	3年後期	六倉 悠貴(責任者)/中村/久保田/塩見/幅崎/野村/渡邊/岩本/皆藤/リン	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
地域、臨床現場の課題		主体的に研究計画書が作成でき、研究活動を通じて使命感、責任感を意識し、継続して学び続けられることができ、地域や臨床現場の課題解決としての新しいサービスへの活用方法について検討することができる。			
研究計画書					
研究データ分析					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
DP5:作業療法士として変化し得る様々な課題に対して、使命感と責任感のもとで自ら学び続ける探求心を持ち、研究することができる。					
授業の概要					
<p>本科目では、実践的ならびに応用的な能力を総合的に学修していく。そのためには、基礎科目、職業専門科目ならびに展開科目で学修した内容から興味・関心のある領域についての課題を発見していく。今回計画した研究テーマが、地域や臨床現場の課題解決として有効性についても検討し、新しいサービスへの活用方法も合わせて学修していく。課題発見解決能力を高めるために、地域や臨床現場が抱えている課題を創造し、その課題解決のための手法を実験や調査を実施する。</p>					
授業計画					
第1回	オリエンテーション、作業療法学と研究 担当教員 六倉 悠貴/久保田 智洋/岩本 記一				
第2回	地域や臨床現場における課題発見のための情報収集 担当教員 六倉 悠貴/久保田 智洋/岩本 記一				
第3回	研究テーマの決定 担当教員 六倉 悠貴/久保田 智洋/岩本 記一				
第4回	基礎科目、職業専門科目、展開科目における研究テーマに基づいた学問のまとめ 担当教員 六倉 悠貴/久保田 智洋/岩本 記一				
第5回	文献収集とまとめ 担当教員 六倉 悠貴/久保田 智洋/岩本 記一				
第6回	研究テーマに基づいた研究計画書の作成 担当教員 六倉 悠貴/幅崎 麻紀子/野村 聖子/久保田 智洋/渡邊 基子/ 岩本 記一				
第7回	地域や臨床現場における課題解決手段としての有効性の検討担当教員 六倉 悠貴/久保田 智洋/岩本 記一				
第8回	新しいサービスへの活用方法の検討担当教員 六倉 悠貴/久保田 智洋/岩本 記一				
第9回	研究計画書に基づいた研究データの収集 担当教員 六倉 悠貴/中村 茂美/久保田 智洋/塩見 健輔/幅崎 麻紀子/野村 聖子/渡邊 基子 /岩本 記一/皆藤 知美/リン				
第10回	研究計画書に基づいた研究データの収集 担当教員 六倉 悠貴/中村 茂美/久保田 智洋/塩見 健輔/幅崎 麻紀子/野村 聖子/渡邊 基子 /岩本 記一/皆藤 知美/リン				
第11回	研究計画書に基づいた研究データの収集 担当教員 六倉 悠貴/中村 茂美/久保田 智洋/塩見 健輔/幅崎 麻紀子/野村 聖子/渡邊 基子 /岩本 記一/皆藤 知美/リン				
第12回	研究計画書に基づいた研究データの収集 担当教員 六倉 悠貴/中村 茂美/久保田 智洋/塩見 健輔/幅崎 麻紀子/野村 聖子/渡邊 基子 /岩本 記一/皆藤 知美/リン				
第13回	研究データのまとめ 担当教員 六倉 悠貴/中村 茂美/久保田 智洋/塩見 健輔/幅崎 麻紀子/野村 聖子/渡邊 基子 /岩本 記一/皆藤 知美/リン				
第14回	研究データのまとめ 担当教員 六倉 悠貴/中村 茂美/久保田 智洋/塩見 健輔/幅崎 麻紀子/野村 聖子/渡邊 基子 /岩本 記一/皆藤 知美/リン				
第15回	研究データのまとめ 担当教員 六倉 悠貴/中村 茂美/久保田 智洋/塩見 健輔/幅崎 麻紀子/野村 聖子/渡邊 基子 /岩本 記一/皆藤 知美/リン				
教科書及び参考書					
適宜資料を提供する					
成績評価方法					
研究計画書(50%)、研究データ収集方法(50%)					
オフィスアワー					
六倉	月曜日・火曜日・金曜日17時00分～17時50分				
岩本	水曜日・木曜日14時00分～16時00分、火曜日17時00分～17時50分				
幅崎	金曜日10時～12時、月曜日、水曜日17時00分～17時50分				
野村	金曜日10時～12時、月曜日、水曜日17時00分～17時50分				
渡邊	水曜日・木曜日14時00分～16時00分、金曜日17時00分～17時50分				
久保田	金曜日10時～12時				
中村	木曜日10時～12時、金曜日10時～12時、17時00分～17時50分				
履修にあたって必要な予備知識など					
基礎科目、職業専門科目、展開科目について復習しておくこと。					
備考					
主体的な学修態度で臨むこと。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	子ども支援学	1単位	4年前期	徳田克己/西村実穂/大和田菜子	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
子育て支援		子どもに関する発達心理学の基礎、および児童福祉の基礎と実態を学習し、子どもにとって適切な環境とは何かについて説明できるようにする。			
保育					
院内保育					
世界の子ども					
授業の概要					
<p>子どもを取り巻く物理的な環境及び社会環境の実態を解説し、子どもが健全な発達をしていくためには何が必要であるのか、また保育、教育、福祉、医療などがどのように連携していけばよいのかについて講述する。また、医療者の子育てとその支援に関する具体的な制度や施設を紹介し、理解を深めさせる。</p>					
授業計画					
第1回	世界の子どもがおかれている環境（徳田 克己）				
第2回	子ども支援とは何か（西村 実穂）				
第3回	子ども、子育てに関する制度、施設・設備、法律（西村 実穂）				
第4回	慢性疾患のある子どもの支援（西村 実穂）				
第5回	医療者の子育て支援（西村 実穂）				
第6回	保護者の支援（徳田 克己）				
第7回	院内保育（西村 実穂）				
第8回	被虐待児、貧困家庭の子どもの支援（西村 実穂）				
第9回	発達障害のある子どもの支援（西村 実穂）				
第10回	視覚障害、聴覚言語障害、肢体不自由のある子どもの支援（西村 実穂）				
第11回	育児相談・発達相談（徳田 克己）				
第12回	保育（大和田 菜子・徳田 克己）				
第13回	子育て支援の現場見学1（大和田 菜子・徳田 克己）				
第14回	子育て支援の現場見学2（大和田 菜子・徳田 克己）				
第15回	子育て支援の現場見学3（大和田 菜子・徳田 克己）				
教科書及び参考書					
教科書は使用しない。使用するパワーポイントの内容は当日配布する。					
成績評価方法					
第15回の授業の際にレポート課題を出し、2週間後に提出を求める。					
オフィスアワー					
メールによって連絡すること					
履修にあたって必要な予備知識など					
自分のまわりにある子育て支援施設・設備などに注意を払った生活をしてほしい。					
備考					
オムニバス方式 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	臨床実習Ⅲ	8単位	4年前期	岩本 記一(科目責任者)、皆藤 知美(実習調整者)、他学 科教員	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
真のニーズ		指導者の監視下において助言指導を受けながら、作業療法評価結果を通して、対象者の真のニーズを達成するための作業療法アプローチを立案し、実践することができる。			
作業療法アプローチの実践					
主体的な学修態度					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1:人を尊び、多様な価値観を理解し、人の輪の中で守るべき秩序を持って、地域住民に対して身体的・精神的苦痛に寄り添うことができる能力を有している。					
DP2:作業療法士として地域住民を取り巻く多職種と信頼関係を築く為の円滑なコミュニケーション能力を有し、様々な分野の専門職業人と課題を共有して協働することができる。					
DP3:作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
DP4:作業療法士として地域社会に貢献したいという思いが強く、幅広い教養と柔軟な発想力を持って、常に努力することができる。					
DP5:作業療法士として変化し得る様々な課題に対して、使命感と責任感のもとで自ら学び続ける探求心を持ち、研究することができる。					
授業の概要					
指導者の監視下において助言指導を受けながら、作業療法評価結果を通して、対象者の真のニーズを達成するための作業療法治療計画を立案し、実践していく。また、列挙された解決方法に対して、科学的根拠に基づき検証する。さらに、作業療法を展開する為の管理・運営に必要な知識・技術について理解する。そして、実習を主体的に行うために日々の記録や対象者について報告書を作成する。それらの内容について作業療法士として社会に貢献していくために臨床的課題や解決方法について指導者と共に思考する。その内容を実習終了後に学内で報告する。					
授業計画					
【実習前】	実習オリエンテーション、OSCE				
1週目	施設実習				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
2週目	施設実習				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
3週目	施設実習				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
4週目	施設実習				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
5週目	施設実習				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
6週目	施設実習				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
7週目	施設実習				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
8週目	施設実習				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
【実習後】	実習振り返りならびに報告会、OSCE				
教科書及び参考書					
実習の手引き(アール医療専門職大学)					
成績評価方法					
実習指導者評価、実習課題(50%)、実習課題の提出(25%)、実習報告会(25%)					
オフィスアワー					
岩本	月曜日・火曜日・水曜日 14時00分～15時00分				
皆藤	月曜日～木曜日 15時00分～17時00分				
履修にあたって必要な予備知識など					
臨床実習Ⅲについて確認しておくこと。					
備考					
学外での実習となります。社会的モラルには十分意識するように。【実習前】筆記試験並びにOSCEは、実習参加の可否を決定する診断評価として実施し、【実習後】OSCEは、実習参加後の習熟度評価として実施する。【実習前】の試験が不合格の場合は、補習期間を設け、再試験とする。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	臨床実習Ⅳ	8単位	4年後期	岩本 記一(科目責任者)、皆藤 知美(実習調整者)、他学科教員	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード			学修教育目標(学修成果)		
真のニーズ			指導者の監視下において助言指導を受けながら、作業療法評価結果を通して、対象者の真のニーズを達成するための作業療法アプローチを立案し、実践することができる。		
作業療法アプローチの実践					
主体的な学修態度					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1:人を尊び、多様な価値観を理解し、人の輪の中で守るべき秩序を持って、地域住民に対して身体的・精神的苦痛に寄り添うことができる能力を有している。					
DP2:作業療法士として地域住民を取り巻く多職種と信頼関係を築く為の円滑なコミュニケーション能力を有し、様々な分野の専門職業人と課題を共有して協働することができる。					
DP3:作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
DP4:作業療法士として地域社会に貢献したいという思いが強く、幅広い教養と柔軟な発想力を持って、常に努力することができる。					
DP5:作業療法士として変化し得る様々な課題に対して、使命感と責任感のもとで自ら学び続ける探求心を持ち、研究することができる。					
授業の概要					
<p>臨床実習Ⅲで修得した知識や技能を踏まえて臨床実習Ⅳでは、指導者の監視下において、臨床実習のⅢの経験値を十分に生かしながら実習に臨む。特に、知識、技術をさらに発展させ、対象者の評価をより正確なものにし、治療結果から評価の妥当性を考察する。さらに、作業療法評価結果を通して、対象者の真のニーズを達成するための作業療法アプローチを立案し、実践していく。また、列举された解決方法に対して、科学的根拠に基づき検証する。また、作業療法を展開する為の管理・運営の実践を身に付けることができる。そして、実習を主体的に行うために日々の記録や対象者について報告書を作成する。それらの内容について作業療法士として社会に貢献していくために臨床的課題や解決方法について指導者と共に思考する。その内容を実習終了後に学内で報告する。</p>					
授業計画					
【実習前】	実習オリエンテーション、OSCE				
1週目	施設実習				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
2週目	施設実習				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
3週目	施設実習				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
4週目	施設実習				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
5週目	施設実習				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
6週目	施設実習				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
7週目	施設実習				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
8週目	施設実習				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
【実習後】	実習振り返りならびに報告会、OSCE				
教科書及び参考書					
実習の手引き(アール医療専門職大学)					
成績評価方法					
実習指導者評価、実習課題(50%)、実習課題の提出(25%)、実習報告会(25%)					
オフィスアワー					
岩本	月曜日・火曜日・水曜日 14時00分～15時00分				
皆藤	月曜日～木曜日 15時00分～17時00分				
履修にあたって必要な予備知識など					
臨床実習Ⅳについて確認しておくこと。					
備考					
<p>学外での実習となります。社会的モラルには十分意識するように。【実習前】筆記試験並びにOSCEは、実習参加の可否を決定する診断評価として実施し、【実習後】OSCEは、実習参加後の習熟度評価として実施する。【実習前】の試験が不合格の場合は、補習期間を設け、再試験とする。</p>					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
展開科目	経営組織論	2単位	4年前期	大木 俊郎	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
組織		現代における組織を体系的に理解習得し、学術的知見を踏まえて、実務に活用できるアイデアやノウハウを生み出す力を身につける。			
管理					
戦略					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP7: 事業やプロジェクトをマネジメントする必要性について考え、マネジメントすることができる。					
授業の概要					
本講義では、経営組織論の概念をもとに個人、集団、組織全体についての考察を進め、現代社会における「組織」の諸側面を深く理解すると同時に、組織における個人・集団の振る舞いや、経営組織の活動の背後にある意味を洞察する力を磨いていくことを学修していく。具体的な課題(事例)を提示し、事業を推進していくための経営戦略、組織管理、人材管理についての知識を活かして、演習を通して学修していく。					
授業計画					
第1回	オリエンテーション、組織とは何か				
第2回	組織の目的				
第3回	組織におけるコミュニケーションと調整				
第4回	組織への貢献意欲				
第5回	合理的システムの設計				
第6回	自生的システムの創発				
第7回	組織プロセス				
第8回	経営資源としての変化する人				
第9回	環境と組織				
第10回	戦略と組織学習				
第11回	イノベーションと組織				
第12回	事例演習①				
第13回	事例演習②				
第14回	事例演習③				
第15回	まとめ				
教科書及び参考書					
「はじめての経営組織論（高尾義明著）」有斐閣ストウディア					
成績評価方法					
定期試験					
オフィスアワー					
授業後に対応					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
展開科目	生活・福祉基盤論	2単位	4年前期	中嶋 一郎	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
社会福祉	①社会福祉についての概念を理解する ②障がいについての概念を理解する ③地域共生社会について理解する ④生活支援サービスの多様性と課題を理解する				
国際生活機能分類					
地域共生社会					
生活支援サービス					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
<p>作業療法学科 DP1:人を尊び、多様な価値観を理解し、人の輪の中で守るべき秩序を持って、地域住民に対して身体的・精神的苦痛に寄り添うことができる能力を有している。 DP6:作業療法士として地域で生活する障害のある幼児、児童等もしくは高齢者の課題に対して、新たな支援を展開して貢献できる。</p>					
授業の概要					
<p>本科目では、現代社会における生活・福祉基盤の重要性と多様性を理解し、社会福祉の理論と実践を繋ぐことを目的とします。社会保障制度、生活支援サービスなど、幅広いテーマを扱いながら、社会福祉サービスを必要とする人々の実態について理解し、安心して暮らせる社会の実現に向けて必要な知識とスキルを習得します。</p>					
授業計画					
第1回	オリエンテーション 現代社会における社会福祉の意義① 社会福祉の概念と理念				
第2回	現代社会における社会福祉の意義② 社会福祉の歴史的変遷				
第3回	社会福祉の制度と実施体系① 社会福祉の制度と法体系 社会福祉行財政と実施機関				
第4回	社会福祉制度の実施体系② 共生社会について				
第5回	福祉サービス対象者を理解する視点① 障がいの概念について				
第6回	福祉サービス対象者を理解する視点② 障がい者の自立について				
第7回	福祉サービス対象者を理解する視点③ 障がい者の社会参加について①				
第8回	福祉サービス対象者を理解する視点④ 障がい者の社会参加について②				
第9回	福祉サービス対象者を理解する視点⑤ 障がい児の社会参加について①				
第10回	福祉サービス対象者を理解する視点⑥ 障がい児の社会参加について②				
第11回	福祉サービス対象者を理解する視点⑦ 高齢者の社会参加について①				
第12回	福祉サービス対象者を理解する視点⑧ 高齢者の社会参加について②				
第13回	地域共生社会を実現する視点① ボランティア活動の具体例①				
第14回	地域共生社会を実現する視点② ボランティア活動の具体例②				
第15回	振り返り・まとめ				
教科書及び参考書					
なし(授業毎に配布資料)					
成績評価方法					
1 授業毎の感想レポート 45%					
2 期末試験 55%					
オフィスアワー					
授業後に対応					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし					
備考					
<ul style="list-style-type: none"> ・学習の効果を高めるため、授業前後の事前学習、事後学習を行ってください。 ・授業等で要望があれば個人的に受け付けておりますので、いつでもご相談ください。 ・自分の意見を持つことは、共に学ぶ学友との相互理解を深めるための道具です。自分の意見はワークシートにまとめ、それを元に他人と議論を交わしてください。 ・受講者の要望や都合により、授業内容を変更する場合がありますのでご留意ください。 ・都合により内容を変更する場合があります。 					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
展開科目	教育相談	2単位	4年前期	庄司 一子	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
教育相談	一人ひとりの発達と変化の様相を思い描き、支援を通して人にとっての問題や困難の意味、教育相談の果たす役割を理解することを目標とする。				
校内連携					
事例検討					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP6: 作業療法士として地域で生活する障害のある幼児、児童等もしくは高齢者の課題に対して、新たな支援を展開して貢献できる。					
授業の概要					
<p>人は、子どもから老人まで、一生を通して変化と発達を遂げる存在である。その変化と発達をとげる中でライフイベントを経験し、様々な課題や困難に出会う。</p> <p>本講義は「教育相談」を通じた支援、指導を実践する上で必要な、人の生涯発達の姿、発達課題、ライフイベントとその影響、人が出会う問題や困難を理解し、実践に必要とされる教育相談の基本となる理論と方法を学ぶ。さらに近年は子どもの問題の多様化、複雑化、長期化等に伴い、関係者との連携・協働が必須となっている。したがって、連携・協働について学ぶと共に、相談を実践上で必要な倫理を身につけることを目的とする。</p> <p>また事例検討を通し、一人ひとりの発達と変化、困難を思い描き、支援を通して人にとっての問題や困難の意味、教育相談の果たす役割を理解することを目的とする。</p>					
授業計画					
第1回	オリエンテーション、教育相談とは				
第2回	学校現場における教育相談				
第3回	教育相談の校内体制と計画				
第4回	教育相談と校内連携				
第5回	教育相談の目標の立て方、進め方				
第6回	教育相談における基本的態度				
第7回	児童・生徒の課題と教育相談の進め方				
第8回	教育相談に役立つ心理支援				
第9回	学校カウンセリングの機能、スキル				
第10回	学校における不適応者の理解と対応				
第11回	保護者への援助				
第12回	教師のメンタルヘルス				
第13回	教育相談における専門職・専門機関との連携				
第14回	相談技法(事例検討)				
第15回	相談技法(事例検討)				
教科書及び参考書					
<p><教科書> 庄司一子(編著)(2025). 「学校におけるケアの実践」 金子書房</p> <p><参考書> 文部科学省(2022). 「生徒指導提要」 令和4年12月</p> <p>その他、必要に応じて資料を配付する。</p>					
成績評価方法					
定期試験					
オフィスアワー					
授業後に対応					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
展開科目	経営のための法律	2単位	4年後期	中村茂美(責任者)岡村/福富/藤沢	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
法律	法の基礎を理解することができる. 経営に関連する, 法律を知ることができる				
経営					
経営実践					
セラピスト					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP2:豊かな人間性と倫理観を備えることはできる. DP5:自らを律しながら常に探求心と目的意識を持ち, 専門職業人として, 使命感を持ちながら, 日々成長を目指し, 自己学習を推進することができる. DP9:事業やプロジェクトをマネジメントする必要性について考え, マネジメントすることができる.					
授業の概要					
法・法律は、日常生活に大きなかかわりを持っている。この講義は、受講者が法学を専門としていない学生であることを前提として、法学の基礎になる知識や技術、ものの考え方を身につけ、具体的にイメージを持ってもらうことをその内容とする授業である。また、事業所やプロジェクトを経営・運営していく上で必要と思われる法律について解説し、具体的事例について演習を通して学習していく。					
授業計画					
第1回	法の基礎 (岡村)				
第2回	経営や雇用等に関する法制度① (岡村)				
第3回	経営や雇用等に関する法制度② (岡村)				
第4回	作業療法士としての経営実践1		藤沢先生		
	日本の障がい福祉サービスの変遷、関連法律・制度、内容の理解+C5				
第5回	作業療法士としての経営実践2		藤沢先生		
	生活介護サービスの経営実践、障がい福祉に関しての過去問の紹介				
第6回	作業療法士としての経営実践3		藤沢先生		
	障がい福祉に関する関係法令、障がい福祉サービス経営概論、地域での活動				
第7回	作業療法士としての経営実践4		藤沢先生		
	放課後等デイサービスの経営実践、障がい福祉に関しての過去問の紹介				
第8回	作業療法士としての経営実践5		藤沢先生		
	障がい福祉に関する関係法令・就労に関する社会情勢、地域での活動				
第9回	作業療法士としての経営実践まとめ		藤沢先生		
	就労継続支援B型の経営実践、障がい福祉に関しての過去問の紹介				
第10回	理学療法士としての経営実践1		福富先生		
第11回	理学療法士としての経営実践2		福富先生		
第12回	理学療法士としての経営実践3		福富先生		
第13回	理学療法士としての経営実践4		福富先生		
第14回	理学療法士としての経営実践5		福富先生		
第15回	理学療法士としての経営実践まとめ		福富先生		
教科書及び参考書					
特になし					
成績評価方法					
期末試験 レポート					
オフィスアワー					
授業後に対応					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
展開科目	財務会計論	2単位	4年後期	徳満真人, 武石光弘	必修
授業科目の学習教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
起業	将来就労先におけるマネージメント業務への従事や起業・独立することを想定し、財務会計を理解する経営人財としての土台を作る。				
財務					
簿記					
企業の社会的責任					
授業の概要					
<p>本校卒業後のキャリアを考えるとともに、将来的に就労先における経営職へのキャリアアップや起業した際の経営者として必要な財務会計の基礎を理解する。また、企業の社会的責任や経営者としての責任についても考えてみる場とする。</p>					
授業計画					
第1回	キャリアデザイン				
第2回	起業 事業計画から法人設立				
第3回	起業 資金計画と金融リテラシー				
第4回	起業 会社設立のシミュレーション (グループワーク)				
第5回	起業 グループワークの発表				
第6回	財務会計 簿記の基礎知識				
第7回	財務会計 収益・費用・利益				
第8回	財務会計 資産・負債・純資産				
第9回	財務会計 キャッシュフロー				
第10回	財務会計 仕訳				
第11回	財務会計 決算・納税				
第12回	財務会計 財務諸表の見方				
第13回	従業員の雇用				
第14回	企業の社会的責任 (CSR)				
第15回	経営者としての責任				
教科書及び参考書					
資料を提供します。					
成績評価方法					
出席・提出物・授業の状況によって評定します。					
オフィスアワー					
火曜日午後					
履修にあたって必要な予備知識など					
特にありません。					
備考					
<p>内容に変更がある場合は、講義前にお知らせします。 学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。</p>					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
総合科目	作業療法研究法演習Ⅱ	1単位	4年前期	六倉 悠貴(責任者)/中村/久保田/塩見/幅崎/野村/渡邊/岩本/皆藤/リン	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード			学修教育目標(学修成果)		
研究論文			研究結果に基づいて考察力を高め、地域や臨床現場の課題について認識を深めながら、新しいサービスを提供できるよう論理的、科学的思考力を強化することができる。		
研究考察力					
新しいサービスへの活用					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
DP5: 作業療法士として変化し得る様々な課題に対して、使命感と責任感のもとで自ら学び続ける探求心を持ち、研究することができる。					
授業の概要					
<p>本科目では、実践的ならびに応用的な能力を総合的に学修していく。作業療法研究法演習Ⅰで得られた研究結果について考察を深め、地域や臨床現場の課題解決として有効性について検証し、新しいサービスへの活用方法も合わせて学修し、研究結果に留まらず地域ならびに臨床課題への解決手段としての有効性や新しいサービスへの活用についても合わせて報告していく。本科目を通じて、地域や臨床現場の課題について認識を深めながら、新しいサービスを提供できるよう論理的、科学的思考力を強化していく。</p>					
授業計画					
第1回	研究結果からの考察 担当教員 六倉 悠貴/中村 茂美/久保田 智洋/塩見 健輔/幅崎 麻紀子/野村 聖子/渡邊 基子 /岩本 記一/皆藤 知美/リン				
第2回	研究結果からの考察 担当教員 六倉 悠貴/中村 茂美/久保田 智洋/塩見 健輔/幅崎 麻紀子/野村 聖子/渡邊 基子 /岩本 記一/皆藤 知美/リン				
第3回	研究論文の作成 担当教員 六倉 悠貴/中村 茂美/久保田 智洋/塩見 健輔/幅崎 麻紀子/野村 聖子/渡邊 基子 /岩本 記一/皆藤 知美/リン				
第4回	研究論文の作成 担当教員 六倉 悠貴/中村 茂美/久保田 智洋/塩見 健輔/幅崎 麻紀子/野村 聖子/渡邊 基子 /岩本 記一/皆藤 知美/リン				
第5回	研究論文の作成 担当教員 六倉 悠貴/中村 茂美/久保田 智洋/塩見 健輔/幅崎 麻紀子/野村 聖子/渡邊 基子 /岩本 記一/皆藤 知美/リン				
第6回	地域や臨床現場における課題解決手段としての有効性の検証 担当教員 六倉 悠貴/久保田 智洋/岩本 記一				
第7回	新しいサービスへの活用方法の検証 担当教員 六倉 悠貴/久保田 智洋/岩本 記一				
第8回	研究報告会 担当教員 六倉 悠貴/中村 茂美/久保田 智洋/塩見 健輔/幅崎 麻紀子/野村 聖子/渡邊 基子 /岩本 記一/皆藤 知美/リン				
教科書及び参考書					
適宜提示する					
成績評価方法					
研究論文(90%)、研究報告会(10%)					
オフィスアワー					
六倉 月曜日・火曜日・金曜日17時00分～17時50分					
岩本 水曜日・木曜日14時00分～16時00分、火曜日17時00分～17時50分					
幅崎 金曜日10時～12時、月曜日、水曜日17時00分～17時50分					
野村 金曜日10時～12時、月曜日、水曜日17時00分～17時50分					
渡邊 水曜日・木曜日14時00分～16時00分、金曜日17時00分～17時50分					
久保田 金曜日10時～12時					
中村 木曜日10時～12時、金曜日10時～12時、17時00分～17時50分					
履修にあたって必要な予備知識など					
基礎科目、職業専門科目、展開科目について復習しておくこと。					
備考					
主体的な学修態度で臨むこと。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
総合科目	応用作業療法学演習	1単位	4年後期	皆藤 知美(責任者)/岩本/石上	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
グループディスカッション		「障害のある幼児・児童等の教育支援領域」もしくは「地域在住高齢者の健康支援領域」における課題に対して、作業療法士として支援できる知見を広げる。			
臨床的課題発見解決・方法					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1: 人を尊び、多様な価値観を理解し、人の輪の中で守るべき秩序を持って、地域住民に対して身体的・精神的苦痛に寄り添うことができる能力を有している。					
DP2: 作業療法士として地域住民を取り巻く多職種と信頼関係を築く為の円滑なコミュニケーション能力を有し、様々な分野の専門職業人と課題を共有して協働することができる。					
DP3: 作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
DP4: 作業療法士として地域社会に貢献したいという思いが強く、幅広い教養と柔軟な発想力を持って、常に努力することができる。					
DP5: 作業療法士として変化し得る様々な課題に対して、使命感と責任感のもとで自ら学び続ける探求心を持ち、研究することができる。					
DP6: 作業療法士として地域で生活する障害のある幼児、児童等もしくは高齢者の課題に対して、新たな支援を展開して貢献できる。					
DP7: 作業療法士としての専門分野の知識と組織の経営・マネジメントの知識を体系的に身につけ、新たな価値を創造するとともに地域で生活する障害のある幼児、児童等もしくは高齢者の支援に貢献できる。					
授業の概要					
地域において様々な支援を行うときに考えられる課題に対して、基礎科目、職業専門科目で学修した内容から作業療法士として知見を広げる。 また、グループディスカッション等を通じて、学修した内容の確認を行い、役立つ知識としての定着をはかる。					
授業計画					
第1回	オリエンテーション				
第2回	現場で役立つ解剖学・画像診断				
第3回	知っておくべき生理学・内科学				
第4回	小児とのかかわり方と注意点～発達課題を考えながら				
第5回	精神・心理領域で理解したい知識と関り方				
第6回	身体障害領域において関わる様々な疾患と関り				
第7回	スプリント・福祉用具・自助具の役立て方				
第8回	吸引とそれを取り巻く衛生管理				
教科書及び参考書					
特に定めず。資料は適宜提示する。					
成績評価方法					
筆記試験100%(国家試験に準じる)					
オフィスアワー					
皆藤 岩本 金曜日が研究日、それ以外で適宜相談可能 石上 火曜日が研究日、それ以外で適宜相談可能					
履修にあたって必要な予備知識など					
1年次から4年次まで学修した内容を総合的なまとめた授業のため、今まで履修した科目の内容を再考しておいてください。					
備考					
グループを形成し、課題内容について共有しながらグループディスカッションを行う。 都合により内容を変更する場合があります。					